



伊藤音次郎日記

1928(昭和3)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼2ページ▲▼ 昭和三年要記

- 一 カスミヶ浦新設
- 二 陸軍仕事取ルコト
- 三 ライトプレーン
- 四 新出資
- 五 カミヶ原出張所新設
- 六 航空路開拓

▲▼3ページ▲▼ 1月

所員工場ノ円満ト能率増進

▲▼4ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月1日(日)

天気晴

快晴 トテモステキナ元日デアル 本年ハ戊辰ニアタリ明治維新ノ戊辰ヨリ丁度六十二年目 然シカモ明治大帝ノ即位式ニ戊辰デアリ今上陛下ノ御即位式モ本行ワセラ
ル、ト云フノデドノ新聞モ今後ノ国家ノ發展ニツキ期待ヲカケテ居ル 之ハ即チ国民全
体ノ期待デアル

省ミテ我伊藤飛行場ハ如何 本年度ノ計畫ハマダ確立シナイ ソレハ昨年来ノ大キナ事
件續発ノ爲メ 然シ自分ノ精力ノ増進ヲハカリスベテハ精力主義ニ猛進スルコト 今日迄
ヲ省ミテ冷汗ヲ覺エル。シカモ今日ハ其第一日ニ於テ處(ママ)志ツラヌイタガ非常ニツカ
レタ 之レノナイ様ニ身心(ママ)ヲネラネバナラヌ

訪問 谷田閣下児玉課長、明治神宮、早川阿部、川上、知覧、鳥飼、佐藤以上全部
終ル

川上氏明日津田沼ニ行クトノコトデ明日ノ予定タル本年度計畫方針樹立中止ノ止ム
ナキニル 帰レバ七時 田中居タ ■線ラシク漸ク九時帰ル スグ床ニ入ル

▲▼5ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月2日(月)

天気 曇リ後晴

今朝ハクタブレテ八時半起床 信太郎ト津田沼行 信太郎ハ大蔵へ 預ケタ品取りニ自
分ハ工場へ。途中、西田、大蔵、竹中、小西ニ出會フ

和泉屋、■屋二年賀 村山ニ寄ツタガ不在 工場着 スデニ川上氏鈴木善ト待ツ 検査
サエ順潮ニ行ケバー一台上ダケ間ニ合ワセル事ニ打合セ自動車ニテ川上鈴木大蔵同道
谷津楽天府ニテ晝食 自分ハ初メテデアツタガ中々ニ工合ヨク出来テ居タ 四時ニハマ
ダ玉ヲ突イタリシテ居タノデ先キニ失敬ス 左頭キリデモム如キ痛ミシキリニ起リ閉口
夕食ヲ廢シ床ニツク 九時半眠ル
本日大蔵トノ打合セ右ノ爲メ出来ズ予定ヲ一ツ損ス

▲▼6ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月3日(火)

天気晴

今日ダケハ自宅ニ居ルノデ気分ガユツクリシタ。頭モ今日ハヤ、ヨカッタ 十一時頃大蔵
來 飛行部ノ新設ニツキ本人ノ意志ヲ聞ク 讚(ママ)成シタノデ其他ノ細則ハ追ッテ作
ルコトトス 田中來 晝食ヲ共ニス 大蔵帰り田中帰ル 自分少シ眠リ四時ヨリ久シ振
リニ風呂ニ行ク 信太郎徳次同道 アトヨリ田中來 帰りテ八時半迄田中ト今日朝カ
ラ自分ノ計畫シタモノニツキ相談 明日一同ニ発表スルコトニシテ終ル

▲▼7ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月4日(水)

天気晴

五時四十分起床 六時二十分出 工場行き 今村宅ニ立寄り同道シテ道々一應先キ
ニ諒解セルベキ事ヲ話シツ、行ク 八時半頃一同ソロッタノデ本年度ノ方針ト日給制度
ノ件ヲ話ス 終リ頃田中來 出席大蔵、西田、菊池、今村、樋口、田中。荒木病氣欠
午後大蔵菊池今村田中ニテ細部ノ規定ニツキ協議セシム中ニ練習ノ件ニテ意見マトマラ
ズ中止 今村、田中ノ間諒解ナル 田中菅野ニ來 大蔵トノ間ニツキ希望アリ 明日田
中上京 用件ヲ命ジ留都(ママ)中ニ自分マトメルコトニス
玉井氏へペラ頼ムベク打電セシモ今日來ラズ
夜六時半床ニ入ル 田中來タノガ九時頃 十一時頃帰ル
頭透明ニナラズ 気分悪ルシ

▲▼8ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月5日(木)

天気晴

時事 嚴寒 東京ニテ〇、五度 本冬初メテノ寒サ

田中上京セシム

六時起床 定刻工場着

朝大蔵ニ田中ノ練習ノ件全員ト日給ノ件交渉諒解ハサセタガ日給ニハ反対意見デアツ

タガ大勢ニ順應セシム 尚十年式ノ件ニツイテ名儀(ママ)変更ノコトナド申出テ居タガ、マダ彼レノ氣ノツカナイ點ガアルノデ機会ヲ見テ話スベク保留ス 人格論ニツキ一言シテ居ク

伊藤西夫氏來 同道シテ船橋ニ行キ宗里氏ニ会ヒ發動機ノ件打合セテ帰宅 帳簿記入モ自分決算ヲ行 最後ニ金銭出納簿ヲロスレテ來タノデ中止 夜早く床ニツク

▲▼9ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月6日(金)

天気晴

今日ハ上京ニツキユツクリ七時起床 八時半出懸ケル

九時半局出頭 年頭ノ挨拶ヲナス 鈴木善來 駿(ママ)查ノ打合セラナシ明日中川、芝入両氏出張ノ事極ル 局ニテ谷田閣下ト会ヒ挨拶ス。十年式登録証本日中ニ作ッテ居クトノコト 拂下願書提出シテ帰ル

影山、久光、其他ニテ道具類三十五円ばかり買物シテ菅野ニ寄り三時工場ニ出ル。

上野工場ニト、マルコトニナリ清水今朝帰ル 二人ノ特種工トシテノ計算ヲナシ清水ハ田中ヨリ上野ハ自分ヨリ説明シテ計算書ヲ渡ス。田中練習ノコトガソリシ代自辨 明日ヨリ菊池荒木、教官ニテ初メルコト申渡ス

夜荒木ヲ自宅ニ呼ビ一昨日病氣欠勤ノ爲メ話サナカッタコトヲ話シ諒解セシム

後九月份決算終ル 田中來 明日ノ上京用件打合セシテ九時半帰ル

▲▼10ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月7日(土)

天気晴

六時起床 七草ノカユデ朝食 六時半自宅ヲ出ル 七時十分前津田沼着 今村ト共ニ工場行キ

現場ニ火鉢ヲ持ち出シテ仕事ヲシタガ中々冷タカッタ

芝入辻本氏來 函根ノ分ダケ見ル 十一日ニ仕上リヲ検査受ケタイトノ鈴木ノ希望デ努力スルコトニス

午後ハペラ玉井氏ニヤツテ銷(ママ)リ直シタ分猿田ノ機体ニ取付ケ廻シテ見タガ少シ振動アルガ發動機カペラカヨク分ラナカッタ 發動機ハ今日カラ夜業スルコトトナル 夕方大蔵ト同道シテ帰ル 田中本日上京

今夜ハ早く床ニツク スグ眠レル

▲▼11ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月8日(日)

天気晴

八時起床 朝食新聞後十月分記帳ヲ初メ夕方迄ニ全部終ル アト決算ニ必要ナ引合セハ帳簿ガ足りナイノデ明日工場デヤルコトニス

夜小供ノカルメヲ焼ク

夕方信太郎入浴ニ行ク 今年二度目 氣持チヨカッタ 帰リニキングヲ買ツテ帰リ讀ミ初メタラ又眠レナクナツテツヒニ午前三時ニ及ブ 六(ママ)理ニ眠ル

▲▼12ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月9日(月)

天気 晴

七時起床 ヤハリ夜ガ明ルト眠レナイ

八時半工場着 スグ帳簿ニ方ハル 田中來 昨一昨日ノ上京ノ報告ヲ聞ク 大分奮トウノアトガ見エル

夜大蔵來 田中トノ挨拶面白カラズ 其内練習ヲ初メルコトニ及ビ大蔵自カラ練習スルトノコトデ其旨田中ニ返ジルト先生菊池ガ荒木ヲ希望シテ居タノガ入レラレナイトテ大オコリシテ止メアストテ帰ツテ行ツタ。ヨク考ヘル様サトス 式三日考ヘルト、ステセリフデ帰ル。カレモ熱心ナカワリニ一面御シナイ 尚少シ増長ノ氣味モアル 夕方大蔵ニ田中ニ対スル氣持ヲ聞ク。近來一般的ニ御願ヲ聞カナイ風ニシテ居ルダケデ何等特ニドウコウト云フコトハナイトノコトニ練習上菊池ニモ問題ヲ起サナイコトヲ約シテ分レル 清水兄弟ガ大蔵ノ家ニ來タ由 十月分決算終ル 帰宅後精算表ヲ作ル

▲▼13ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月10日(火)

天気 晴

十年式補助金願書提出ト水上(函根)駿(ママ)查日取り十二日朝ニスルコトノ爲メ局ニ出頭 願書ニツイテハ早川森川氏ノ諒解ヲ得テ荻野氏ニ提出前佐野ニヨリ買物ヲナシ、帰途鳥飼ニヨリ三十円借りテ二時工場ニ帰ル。丁度力石氏來 交渉ノ上霞ヶ浦ニ家ヲ式百三十円ニテ契約 三十円ヲ手金トシテ渡ス。尚工場移轉ト健(ママ)築ノ見積リヲサセタ處建タ方ガ安ク上ルコトニナツタ 川辺藤森來 アブロノ件 結局クックヲ賣ルコトニ決定 千百円ニテ百円ハ計器代トスルコト

夕方英商会伊能氏來 藤森ノ話シ終リテ同道シテ帰ル 今夜ハ早ク床ニツク 精力不足ガナニヨリ苦痛

▲▼14ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月11日(水)

天気 曇り後晴

朝迄昨夜來大分降ツタ 次第二晴レタガ又曇リ午後晴レル 暖イ日デアツタ
田中昨ヨリ練習初メル 今日ハトテモ大蔵ガ親切ニ教エテ呉レルト喜ンデ居タ
一昨朝見習工募集ノ新聞広告シタノデ昨日ハ六十通 今日ハ二十五通申込ミガアツタ
電通機午後飛來 スグ分解 工場ニ入レル
馬詰甲一BAGF酒井氏操縦立川ニ行ク
函根土地水上八号完成 タ方川上氏來 発動機テストヨシ アトハプロペラノ試験ノミ
今日ハ十一月分記帳ヲ初メ午後函根八号機ノ計算書ヲ作ル

▲▼15ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月12日(木)

天気 曇り晴

西北風強ク試飛行心配シツ、工場ニ行ク
九時半浜名氏來 十時試飛行 カナリヒドイ。動部ヲ見セテ見タ 七分間ニテ発動機
調整ノ爲メ着陸 丁度川上、辻本氏兩氏來 発動機テストトプロペラ試験面白カラズ
ツヒニ鈴木ノヲ借りテ付ケテ見ル 良好 之レデ堪航証ヲ出スコトニ決定 アトデ取カエ
ルコトモヨシ
汐干ケタ爲メ飛行ヲ中止 マグネト驗(ママ)査一時間半
浜名氏勝浦行 川上氏ヨリ一同ニ酒肴出一同嬉(ママ)ブ 夜之レヲ機会ニ新年会ヲ竹
春ニテモヨウス 雑収入アリ 補助ス
川上辻本鈴木善ト川辺氏ノオゴリデ樂天府ニ行ク 夕食ヲ共ニシテ六時頃帰ル
川上氏ヨリイクラアレバ借金ノ整理ツクヤ 会社(函根土地ノコト)デヤラセヨウカナド
話シアリ ヨイカゲンニアシラウ

▲▼16ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月13日(金)

天気 晴

田中上京 函根土地金件塗料其他函根十六日ニシテ呉レトノコト 局長谷川、クツク
金出タル由 明日請求書出スコト 夜自宅へ田中帰りノ報告 ツイデニ又々大蔵ニ対ス
ル不平百出 大蔵モ大蔵ダガ田中モコウルサイ男ダ。両方共オタガニ下ニ立チタクナイ
ノガ本當ノ彼レ等ノ腹ノ底ダ
十一月分記帳 橋本国帳簿引合セニ來ル。自宅ニテ夕食後帰ル
藤森後援会ノ下諏訪町長及寒川村長來 クツクヲ見セアプロトクツクト変タ件ニツキヨ
ク説明シテ諒解ス 帰途ニツイタ頃藤森來 明日頃金取寄セル由
満クビノオデキツヒニ手術ス

▲▼17ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月14日(土)

天気 曇り晴

田中局へ長谷川、クック、十年式ノ願書出シニ行ク 函根ノ水上キカバーニ塗ルセルロイドエナメル四個買ツテ來ル 晝帰所

黒米氏練習飛行

十一月分記帳終ル 夜自宅ニテ決算ヲ行フ

秋田氏ヨリ電報アリ電話スル 十六日飛行ノ件 菱伊氏來 打合セシテ帰ル 田中警視廳手續キノ爲メ上京 山下氏同道ス

▲▼18ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月15日(日)

天気 雪後晴

未明カラチラ、シテ二寸バカリ積ル 午後晴レル

ユツクリ起キテ朝食新聞 休日ラシイ氣持チデ後チハ坐敷ノ襖張り替エ 夜ニ入ツテ色紙短冊ノ寄セ張リヲ終ル 一段ト引立ツ

夕方菱伊氏明日ノ飛行料百円ノ半分五十円持参 内十円渡シ

▲▼19ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月16日(月)

天気 晴曇リ

眠クテ起キニクカッタ 六時半起床 スグ工場ニ行ク ソレデモ八時ニナツタ

博覽会上棟式祝賀飛行 汐ガ上ゲタノデアブロ鈴木ニ飛行サセル 十年式大蔵西田、引續キ函根一ノ黒米氏芦ノ湖ニ向ツテ出発セシモ眞鶴ニ着水セシ由

見習工募集十名ニ來場ヲ指定シタノニ五六名ヨリ來ラズ 人物考査ヲナス 田中坂上 午後田中函根へ金取りニヤル 夜自宅へ寄ル 明日ニナツタトノ事

▲▼20ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月17日(火)

天気 晴

田中練習後局函根ノ金受取り及買物等ノ爲メ上京

決算ノ内訳表ヲ作ル 午後橋本國來 分工場千二百円決(ママ)損 明日サル試飛行ノ打合セシテ夕方帰ル

満手術後今日カラ少シ元氣ガ出タ様デアッタ

食後七時過床ニ入ル

▲▼21ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月18日(水)

天気 雨

五時半起床 朝少シユックリシテ八時工場着

クックト函根ノ金受取り今日皆ナクナツテシマツタ 猿田モ持タセテヤル

佐野利君來。内外石油來 自分ガ三十円ヤレト云ツタノヲ十円ダケヤツタ。之レモヨイ

ガ感情ヲシイテ悪クスル様ナモノダ 萩原三十円、丸万全部、泉屋全部支拂濟ダ 帰

宅 食後スグ床ニ入ル

▲▼22ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月19日(木)

天気 晴

六時半起床 スグ工場行 十分前ニツク

昨年下半年決算ヲ終了シ報告書ヲ作り菊池ニ書カセル 所員十二月分支拂ヲナス

之レデ昨半分ハ全部支拂濟ミ稲垣大蔵ダケ残ル

奥山氏サル補助金當方受取り千式百円ニテ引渡スコト 本人本日帰国ノ上返事ノ事

今日ハ大蔵ハ大分イソガシカツタ 前田ト田中ノ練習後クックヲ終リ三型デ所沢ニ出張

サルノ試験飛行ヲ行フ 夕方三型ヲ下志津へ居イテ帰ルコト

明日ノ試験ニ藤森君ハクックノ練習不足ノ爲メ、三型ヲ貸ス 五十円 木下君ニハアプロ

ヲ貸スコトニス 百円 之レハ鈴木菊ガ責任ヲ負フコト

夕方アンコウヲ金太郎ガ呉レタノデ帰り大蔵へ寄ツタツイデニ少シ居イテ帰ル

▲▼23ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月20日(金)

時事 航空懇談会九段

六時半起床 朝食後松ヲ鉢植シテ上京 秋田ニヨル 今出タ處トノコトニ領収書ダケ

預テ村孝ニテ根附ヲ求メ先キノ金支拂ヒ、熊ノ屋ニテハケ仕入レ大川二月賦金十円ト

手形ヲ渡シ主人不在ニツキ仮受取りヲ貰フ 局ニ行ク 検査ノ件機体ノ方廿四日迄皆

不在ニナル爲メ出來ズ 其以後ノコト早川氏ヨリ佐野ノ件ニツキ自分デ禮ヲ云ワレルモ

ノト思ツテ居タトノコトカラ初ヨリ風説ニツキ氏ノ立場上ヨリ辨明アリ 尚所沢橋本ガ

森川氏ニ朝日アプロ金貰ワヌトノコトヲ話シタニツキ何故金ヲヤラナイカトノ話シガア

ツタトテ辨解ノ様ナ話シアリ。ソレハ今度ノ事件ニツキ伊藤カラ返ス金ト差引スル爲メト

森川氏ニ行ツタ由。尚アプロノ金ハ今補助金請求中トノコトデアッタ ツヒニ白状シタ形

デアル

結局佐野ノ件ニツイテハ自分ハ嬉シデ居ルコト 金ニツイテハ今ナイ クックモ昨年末間ニ

合ワナカツタ爲メ駄目 今後出ルモノデ少シ少シヅゝ入レルコト 十年式ノ分スグ二百

円入レルコトニキメル

横浜ミツバ商会三行 五十円支拂晝食ノ馳走ニナル。

午後四時半ヨリ懇談会出席 田中館斯波両博士ノ政策 航空兵ノ話シ

鳥飼秋田ニヨリ十時帰宅 田中又今大蔵ト又障突ノ由

▲▼24ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月21日(土)

天気 晴

六時半起床 工場行き 大蔵田中ニ対シ宣戦的言辭 明日自宅へ來ル様事傳テ上京

川辺ト同道 川辺氏議會三行ク 自分ハ秋田デ上野博ノ金残金五十円ノ處菱井氏十

三日持ツテ行ツタトテ三十七円受取ル 銅鋳ヲ買ヒ佐藤ニ行ク 御原氏ヨリ電話アリ

今日会見ノ處下利(ママ)ヲシテ行ケヌカラ手紙ヲ出ストノコトデアッタ コンクリート風

呂ヲ賣ル處ガアッタノデ下谷西町ニ廻リ見テ帰ル

ラジオノ電池付替エヲナス ヨクナツタ 丁度相撲ノ放送デアッタ

夜夕食ヲ終ツタ處へ橋本国ト田中來 橋本欲シイトノコトデ二百五十円銀行ノ分ヲヤ

ルコトニス

田中十時半頃迄例ノ大蔵問題デグチャラ希望ヤラデ帰ル 中々神経質ナ處ノアル男

ダ

▲▼25ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月22日(日)

天気 晴

七時起床 大蔵ツヒニ來ラズ 夜田中來談ニ所員ト同等ノ位置ニオイテ行動スルトノコ

ト 今迄ノ様ニ支配人ト力高イ位置ヲ希マナクナツタコトハ彼レノ爲メニ一進歩デア

今日ハ終日日曜ラシクノンキニクラシタガ頭ノ中デハ大蔵ノ事デー一杯デ少シモヤスマ

ナカツタ

満ガタ方カラ又卅八度余リ熱ガ出タ。カンチョウシテ便ヲ出ス

▲▼26ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月23日(月)

天気 晴後曇リ

今日ハ少シ寢坊シテ九時工場ニ出ル

藤森大蔵同乗三回 單獨三回 中々上手デアッタ 午後名儀(ママ)変更届ヲ書イテ

渡ス スグ局ニ行ツタ

田中上京サセル 橋本ニ金渡スコトト松岡氏会見ノ日取り取極メ 力石交渉等ノ爲メ

夜大蔵同道帰宅 八時半頃迄イロ、話ス 彼レモ進退問題ニツキ、多少シンケンニ考ヘ

テ居タラシカッタ

夕方帰場カラ帰りガケニ高橋孝母來 今月中ニイクラカ入レル事トス

▲▼27ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月24日(火)

天気 雨後晴

今日モ九時半工場出 帳簿整理シテ十二月分記帳初メル

大蔵上京ニツキ検査ト荒木試験ノコト頼シテヤル 田中ニ午後アブロ掃除サセル

渡部氏來 補助タンク製作希望アリ スグ設計ヲヤリ菊池ニ圖ヲカ、セル

夜早ク床ニ入ル 清平ヨリ商工入学ニツキ手紙來

九時頃田中來ル 大蔵ニツキ稲垣氏ニ諒解運動ニ行ク話シテ帰ル

八十原氏ヨリ手紙來

▲▼28ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月25日(水)

天気 晴

六時起床 朝食後工場行き

十二月分記帳

九時半大蔵アブロ機ニ同乗シテ下志津行き 副官其他係リ係リニ一々礼廻リヲナス

荒木、清水発動機工場デ手入レシテ居タ 発動機ハ集合板ガゴワレテ居タダケデアッ

タガボールベヤリングモ取替エテ呉レタ由

田中練習 大蔵トノ間ヤ、良好

宗里ヨリクレルジ一持ッテ來ル

田中田辺ノ手形書替エニ上京サセル

夜家庭用スクラップブックノ索引ヲ作り張り初メヲナス

▲▼29ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月26日(木)

天気 晴

七時起床 朝食 新聞後八時半出ル

九時半佐藤商店ニテ眞中板購入 所沢へ圖面ト共ニ今日中ニ融(ママ)送方依頼 電話

デ菱井氏サガシタガ居ラズ 三根谷氏ト打合セヲナス 少シ遅レルガ行クトノ事 局ニ

行クベク途中小栗氏ニ会フ 最(ママ)非用事ガアルトノ事ニテ附近ノ喫茶店ニテ話ス 中

島買ヒタイトノコト 七百円ヲモットマケテ呉レトノコトデアッタガ現金出來タラ相談ス

ルコトニス ハナハダ、ブジヨクシタ様デアルガ、悪ルク取ラレル様ナニ云ヒ方ハシナイ。博覧

会宣傳飛行ハ自分引受ルコトニナッテ居ルトノカノ事デアッタガ自分ノ方ニモ話シ中デ

アルカラ之レハ、ダキヨウスルコトニ申合ス。之レ分レタガ時間ガナクナッタノデ三越デ吉田氏ヘノ贈リモノヲ買ヒスグ東京会館ニ行ク。十二時過頃三根谷氏來。急用ガ出來タノデ失礼スルトノコトデアッタノデ吉田氏ヲ電話デ呼ビ丁度菱井氏ガ來タノデ三人デ食事。松岡氏ハ三根谷氏ノ來ナイコトヲコトワル。吉田氏ヨリ大藏屬托(ママ)又ハヤトイ入レタシトノコト話アリ。

タイヤー賣リ付ケル。明後日金モラウコト。後局ニヨル。ダレモ居ラズ検査ノコト早川氏ニタノミ課長ニ決算報告ヲナシ補助金ノコトヲ聞ク。奨來モ出ル由。課長ヨリ製品ノヨクナイコト、クックノ如ク余リスグ賣ラナイコトニツキ注意アリタリ。クックノコトハ一寸ヨクナカッタガ製品ニツイテハ朝日四十七号ト思ヒ合セ早川ガアヤシイトニランダ。五時半帰宅。昨日工場ノ土堤デヌイテ來タ松ヲ植エル。後錢湯ニ行キ後田中來。少時話シテ帰ル。

▲▼30ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月27日(金)

天気 晴後曇少雨

六時起床。七時十分前出カケタノニ電車來ラズ。一度帰ッテ又出カケタ處コンドハ腹ガイタミ出シテ又帰宅。ツヒニ八時過ギノ電車ニヤットノル。

大藏午前千葉行。午後出田中練習。

橋本國來。長谷川ノ金出テルトノコトデアッタ。明日受取テ渡スコトニス。内五十円本工場ヘ廻スコト。橋本泊ル予定ヲ帰場ス。アトエ田中來。十時過ギ迄本年度ノ予定ヲ作ル。田中ノ(要求デ)申々仕事ヲ作ル。非常ニ嬉(ママ)ンデ帰ヘッタ。

昨日稲垣父ヨリ辭表來ル。自分会フツモリノ處一先ハ田中父君ニ会见。辭表ヲ保留シテ休職程度トスルコトノ交渉。

▲▼31ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月28日(土)

天気 曇少雨

七時起床。八時宅ヲ出テ先ヅ局ニ行キ経理局ニテ長谷川ノ手形受取り局ニ行キ荒木試験ノ打合せ。荒井氏ニ拂下ノ件依頼。別府氏ヨリ東亜ト工場ト中違イヲシテ居ルノカトノ質問ガアッタ。川辺君ガタレカガ何カ云ツタノデアロウガ部下ノモノニニアラソイガアルカモ知レヌガ根本ニ於テ、ソナコトハ絶対ニナイト否認シテ居ク。

橋本ト一所ニナル。日本銀行ニテ現金ニカエ内五十円受取ル。日日ニ行ツタガマダ來テ居ラズ鳥飼ニヨリ決算報告ヲナシ時刻ガマダ早イノデ日比谷ヲヌケテ三宅坂ニ地図ヲ買ヒニ行キ日日ニ行ク。大藏ニ会フ。外務省ヘ行ツタトノコトデアッタ。吉田氏ヨリ七十五円タイヤー代受取り熊野屋ニテ買物。大川ニ手形式百十円書キ直シタモノ持參。不在ニテ倅ニアツケテ佐藤ニ決算報告及清水ノ件、眞中板明日最(ママ)非送ルコト等ヲ

交渉 スグ帰宅 着替中ニ小西來 百円渡ス 一時間程話シテ帰ル。東京デ橋本善三電報ト手紙ヲ出シタラ帰ルト電報ガ來テ居タ 橋本国ニ所沢へ預ケルコトノ諒解サセ決定ス。

今川橋デセキセイ番一円デ賣ッテ居タ 余リ安イノデ一番買フコトニシタガサテ買フトナルト少シデモヨイノガ欲シク二円五十銭ノヲ買フ

▲▼32ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月29日(日)

天気 曇リ

終日小鳥ノ函ツクリ 夜西田來 工場ノコトニツキ懇談 イヨ、ノ三現場器具等ニツキ希望アリタリ

▲▼33ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月30日(月)

天気 晴

六時起床 七時半工場行キ

九時半岩田氏ニ會フ爲メ工場ヲ出テ帰宅 スデニ來テ待ッテ居ラレタ 豊田商会代表者一寸宮本喜與藏氏ノ様ナ處ガアル 露支貿易屋デ近々上海へ行クノデ飛行機ノ交渉ヲシタイカラ教エテ呉レトノコトデアッタ 明後日迄ニ写真ト性能表ヲ作ッテ居クコトニス

午後小鳥函作り 三時出來上リ散髪入浴夕食デ丁度六時 御馳走ガアッタノデ一杯ヤツタラトテモ眠クナッタノデ菊池君ノ來ル迄ニ一寸眠ル 菊池來 九時頃迄カスミケ浦稻垣氏ノコトヲ話シテ帰ル 加藤君來 何ニカ使ッテ呉レトノコトデアッタ

▲▼34ページ▲▼ 昭和3(1928)年1月31日(火)

天気 晴

六時起床 七時半工場出 田中上京サセル 夕方スデニ自宅へ帰ッテ居タ 今日金ヲ貰ッタ由

今日八津田沼辺ノ太ミンカデ掛ケ取りガチヨイ、、來タ
十二月分記帳終了

夜田中ヨリ上野、清水練習ノ件ニツキ話シアリ 自分モ過般來工場ノ能率ト練習費ニツキ心配デアッタノデ毎日曜毎ニヤラセル様ナ方針ニシテハト考慮中デアッタガ、大蔵今村西田ト明日打合セルコト 大口來 十一時前迄田中トイロ、、ナコトヲ話シテ帰ル 其間今日菊池ガ休ンダノデヤラセラレナカッタ、明日豊田商会へ渡スベキモノヲ書ク 半分ダケ出來ル

◆▼35ページ◆▼ 2月

工場整理
能率増進
陸軍着手
大坂行
博覧会準備

◆▼36ページ◆▼ 昭和3(1928)年2月1日(水)

天気晴

風強ク寒カッタ

七時起床 岩田氏ト約約(ママ)ノモノヲ書クノ二十時迄カ、ル
十一時工場ニ出ル 種々苦心ノ末地代ノ外一切支拂ヲ延期シテ職工全部所員四分ノ
三ツ、支拂ヒ自分百円取ル 早川氏渡シ分百円トシテ明日持参ノコト
晝過ギ岩田氏來 サルト甲三性能表ト写真ヲ各四枚ヅ、渡ス 長岡氏病氣ノ爲メ又
改メテ來ルトノコト

横山豊馬來 夕方共ニ帰宅 夕食ヲ共ニス 後子田中來 十一時迄工場整理ニツキ彼
レノ意見ヲ聞ク 寒ニ熱心ナ男ダ。寝ソビレテ一時過ギ眠ル

◆▼37ページ◆▼ 昭和3(1928)年2月2日(木)

天気晴

七時起床 眠カッタ 九時十分前春沢氏訪問 約一時間待タサレル 八十円ニマケルカ
ラ早ク方付テ呉レトノコトデアッタ 他ハ飛行機ノ話シテ共ニ東京駅迄來ル

函根土地ニヨル 鈴木ニ会フテ金のヲ依頼 川上居タガ急(ママ)ガシイトテスグ出懸ケ
テ会ワズ。電通ニ発手入レ見積書持参 榎部氏渡シ。協会ニ道永君訪問 利根川氏三
四日中ニ帰ッタラ博覧会ノ方キメルトノコトデアッタ 笹川少将ニ照(ママ)介サル 遠藤
君ニ会フ 頼リノ三百ト三菱デ現金二百円呉レトノコトデアッタ 局ニ行キ早川氏二百円渡ス
方イヨ、具体化スルラシク、其上ハ宜シクトノコトデアッタ 局ニ行キ早川氏二百円渡ス
藤森ノ変更登録書 妻ノ飛行機定置承認書提出ス
佐藤ニヨル 小栗カラ再三会ヒタシトノコトデアッタトノコトニ電話ヲ二度カケタガ居ラ
ズ 買物ヲシテ帰ル 四時

岡崎銀行辨論日

▲▼38ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月3日(金)

天気 曇晴

今日ハ横着シテツヒニ工場ヲ休ム 母ガ津田沼ヘ行クノデ手紙ヲ持ツテ行ツテ貰フ
田中函土地其他ヘヤル
終日床ニ居リ午後少シ起キテ桃ヲ水バンニ生ケル

▲▼39ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月4日(土)

天気 晴

六時半起床 八時前工場着
工場整理ノ見分ヲナス 十二月分決算ヲ行フ 五百円程合ワズ
夕方橋本国來 ベニヤ板ワイヤー持ツテ帰ル
夜田中來 明日ノ打合せシテ帰ル

▲▼40ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月5日(日)

天気 晴

ヨイ天気デアッタガ午後カラ曇ル
十一時半集合ノ處ニ時頃全部ソロウ 大蔵一人欠席 出席者田中、菊池、今村、西
田、樋口、荒木 五時頃迄話ス。工場整屯(ママ)ノ件、稲垣辭職ノ件、月末賞與ノ件
等
夜田中再ビ來 大蔵ノコトニツキ希望申出アリ
小栗氏晝頃來 スグ帰ル

▲▼41ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月6日(月)

天気 雪後雨

六時起床 七時半工場 積雪ニ寸位 午後雨トナル
午前帳簿引合せヲシタガツヒニ分ラズ 午後金工部整理 左官ト大工ニ予定ヲ作り交
渉
田中藤森午後上京

大蔵稲垣ヘ行ク 夕方帰ル 大毎機五号猿田イヅレモ福永ニ行ク形勢アリトノコトニス
グ分工場ヘ電報シテ五号機ノ在否ヲ聞キ合ス 尚明日大蔵上京ト同時ニ大毎吉田君ニ

會ワス

▲▼42ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月7日(火)

天気 晴

六時起床 七時半工場着 第四第五工場格納庫ノ整理ヲ終ル
今日ハカナリ働イタガ氣持ハヨカッタ

▲▼43ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月8日(水)

天気 晴風強シ

六時起床 七時二十分工場着 大体朝ノ出勤ハ皆早クナッタ 十年式右マグネト付替
試運轉良好 十一時出ル 風益々ツヨクカナリヒドク落サレタリシタ 二十二分デカス
ミケ浦着 本部ニ行ク 丁度皆金ヲ納タ處デアッタノデスグ手續キヲナシ午後一時ニ荒
川沖ニテ現品引渡シトノコト

皆ハ後藤氏ト会ヒニ行ク 自分等ハ宗里氏猿田氏ト自個ノ用件ニテ残ル 一時荒川沖ニ
テ猿田氏ヨリ五十円受取ル 水上機引受ケ 川辺ノ分ハ分工場へ送ル由 終ッテ又本
部ニ帰り長谷川ノ手續キヲナシ四時頃終ル

今夜ハ泊ルコトトシテ関根ニ行ッタガ何ニモナカッタ 帰りニ後藤外三氏ニ会ッテ隊ノ自
動車ニ便乗 田中屋ニ泊ル

▲▼44ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月9日(木)

天気 晴

七時起床 一天雲モ風モナシ 朝食 勘定ヲ取ル 二人デ五円九十銭 安イ家ダ 水
上班ニ三木少佐ヲ訪問 少時話シテ本部ニ行キ副官ニ挨拶シテ飛行場ニ行 後藤君ニ
會フ 準備シテ十時七分前出發 風少シ出テ來タ。マダ汐ガ引キ切ラナイノデ海岸ニ
着陸後ボールバンハッシ午後倉庫内ノ書類整理 不用ノモノハ皆焼イテシマウ事ニス
入浴後帰宅 九時頃小栗君來 明日行ッテ中島ニ乗ッテ見タイトノコト 大蔵ニ手紙
ヲツケル

▲▼45ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月10日(金)

天気 晴

八時起床 上京局行 車中鈴木ト會フ 同道 猿田申請ノ件ノミスグ函土地ニテペラ
ト高度計ノ金百十五円受取り鳥飼ニテ知覽ヲ待チ合セ附近ノ喫茶店ニテ話シヲ聞ク

岡野氏ノ知合デ牛込ノ物持チニ、金ヲ出サセルニツイテ収支予算書ガ必要トノコトデアツタ。余リ乗氣ニナレナイガ先方ノ身元ヲ聞イテ呉レル様ニタノム。予算書ハ作ツテ送ルコト。補給部ニ桜井氏ガ來タノデ都合ガヨイカラ井上本部長ヘ同氏ノ居ル中ニヤリタイトテ知覽君モ熱心デアアルガ何ントシテモスデニ人物ニカビガエテ居ル分氣ノ毒ダ。ヤルダケヤラセルヨリ他カアルマイ。吉田君ニ會ヒ五号機ノ見積リヲ出スコトニシテ帰ル佐藤ニ寄り買物ヲ二三シテ帰ル

夜田中來。

▲▼46ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月11日(土)

天気 雪

八時起床 九時半大蔵ニ行ク 此頃ヨリ雪降り初メ夜ニ入りテ止ム 二寸余ツモル工場ニモ行ク 今村女工十年式ノ塗料

夕方帰ル

夜田中來 地圖ツナギヲナス。早ク寝ル予定ノ處田中十時半帰りアト眠レズ三時過ぎ眠ル

▲▼47ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月12日(日)

天気 晴

六時頃カナリハゲシイ地震アリ

六時半荒木來 大蔵小供今朝五時半死ストノコト 家内荒木ト共ニ行ク 七時半起床 今日モ自身デ掃除シ、オシヤヲ作ツテ朝食 新聞ヲ讀ンデ九時半ヨリ大蔵ニ行キ三時半迄居ル。明日午後一時出棺ノコトニシ其他打合せヲナシテ帰ル

家内ハ二時頃帰ル

カリンヲ鉢植エス。葛木來 三四十分程話シテ帰ル 少シ常識デハ会手ニナツテ居ラレソウニモナカッタ

▲▼48ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月13日(月)

天気 晴

六時起床 大蔵ニ寄り工場行き 十時大蔵ニ行ク 一時出棺 自動車ニ一台ニテ川辺君モ送ル 焼場附近道悪シク自動車ヲ途中ニテ乗捨テル 割合ニ新ラシイ爲メカキレイデ設備モ小サイナガラト、ナツタ焼場デアツタ

一同焼香ヲ終リ二時帰宅 少憩ノ後チ自分ハ自宅 後服ヲアラタメ上京 明日ノ支拂

ノ爲メ佐藤ニテ五十円 鳥飼ニテ二十円借りル予定ノ處佐藤ニテ二十円ダケツヒコシ
カ出來ズ仕方ナク帰ル 九時夕食後床ニ入ル
午後カラ八大分ツカレヲ覺エタ ドウシテコウヒロウシヤスイカシラ

▲▼49ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月14日(火)

天気 雨

終日雨

事ム所ノ整屯(ママ)ヲナス

夜十二時田中寄ル 明日所沢行き コレカラ眠レズ二時頃迄起キテ居タ

▲▼50ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月15日(水)

天気 晴

一文ナシニナツタノデ倉庫整理シテクラックケースノ入ラナイノヲ拂下 八十一円ヲ得
タ コレデ工場改作ノ材料ヲ三十五円買ヒアトデ肉屋ト大倉ノ香奠返シニアテテ帰宅
今夜ハ早ク眠ル

熊倉氏高橋今朝治氏來場ス

▲▼51ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月16日(木)

天気 曇リ

六時十五分起床 七時十五分工場着 途中大蔵ト会フ

発動機部本日移轉 正午帰宅 橋本善ガ來テ居タ 昨夜オソク來タガ分ラナカッタノ
デ上野ノ處へ泊ツタトノコトデアッタ 散髪シテ上京 橋本同道上野ニテ喫茶店ニ入り
工場ノ模様ヲ話シ今後ノ彼レノ立場及ビ過故(ママ)ノ過チヲヨク話シテ所沢行キヲ諒
解セシム 佐藤ニヨリ銅板二枚ト半田ヲ求メ、附近ニテ大蔵ニ香奠返シニ風呂敷ヲ十四
枚求メ徒歩ニテ、糸川ヲ訪問 二十五日ニシテ吳レトノコト 今手紙ヲ出シタ處トノコ
ト 草賀ニ会フ

日日ニ行キ吉田君ニ会フ 五号機見積書提出 津田沼ニテ修理 三月中ニ完成 金額
同時拂三月中未完成ノ場合三月末半金拂ノコトニテ決定 七號機ハ福永ハ一度ヤルト
ノコト ソレモヨカロウ 一度クラギサセテ見ルノモ反ツテヨイ結果ニナルカモ知レナイ
航空懇談会出席 時間遅レタノデスグ帰宅

本日稲垣父ヨリ手紙來 其後當方ヨリ返事ガナイノデ遺憾トカ書イテアッタ 何ソノ
コトガ 兎三角來テ吳レナドトハ少シ余ヲ甘ク見過ギテ居ル形ガルノデ今日行クコトハ止
メル

▲▼52ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月17日(金)

天気晴

六時半起床 ニギリメシデスグ工場行き 七時廿分着
途中大蔵へ香奠返シノ風呂敷ヲ届ケ途中同道シテ橋本ノ件話ス 使エルコトニタシカダ
カラ心配サエナオレバ差支ナシトノコトデ諒解ナル 後チ西田今村ニ話ス 今村ムシロ讚
(ママ)成 西田難色固ク直皆ガ讚(ママ)成シタ場合ニハスベテノ悪情ハ捨テテ讚(ママ)成
スルトノ言質ヲ得テ菊池へ話ス 之レモムシロ讚(ママ)成デ成ルベク本工場ニヨコシタ方ガ
ヨイトノコトデアッタ 田中モ其意見デアッタ
今日モ倉庫整理

▲▼53ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月18日(土)

天気晴

六時起床 七時十分工場着 坂地カラ内容証明ガ來タ 局ノ金ヲ押エル様ナ事ガ書イ
テアッタ。日本自動車ノ手形不渡リデ帰ツタトノ通知ガ來タ 丁度葛西ガ同乗飛行
会ノ保証金貳百円ヲ持ツテ來タ 明後日契約サセルコトニシテ金ダケ預カル
倉庫内デ大蔵菊池ヲ會(ママ)手ニ整理ス
夕方帰ル途中西田ニ橋本ノ事諒解セシム
今日ハ又シキリニ大坂名古屋間ノ定期大急ギニ着手ヲ要スル様氣ガセキ出シタ

▲▼54ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月19日(日)

天気晴

八時前起床 朝食後新聞 小鳥ト植木ノ手入レ
今日ハ台所ノ、カマドノ煙突ヲ作り、ドウマンノ半田付雛飾リヲナス 丁度終日カ、ル
橋本ニ返アリ 今後ノ處置ヲ云ヒ聞カセル。金ヲ都合シテ練習生トシテヤリタイトノ希
望モアッタガ折角自分ガ今迄帰所ニツキ努力シタコトヲ話シ今スグソシナコトヲスレバ自
分ノ威信ニ関スルコト 今後半年自分ニマカセルト云フコトニス 本人ハ半年一年位ソレデ
ハオマカセスルトノコトデアリ
夜十時過ぎ眠ル

▲▼55ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月20日(月)

天気晴

時事 初メテノ普撰 新聞外ノ記事一ツモナシ 樋口、今村、菊池込入レニ行ツタ
田中上京セシム
橋本善喜同道工場行き 途中今村ニ会ヒ橋本ヲ本工場ニ置クコトヲ話ス 工場ニテ大
蔵ニ同ジク話ス 後チ本工場ニ置クコトニツキグズ、ニツテ居タガ結局大蔵自分ヲタシ
ナメテ置クコトニス
大工村山本日ニテ仕事終リ 全工場ト第五工場ノ表入レ替ヲナス
今日モ倉庫整理
夜帰ツテ夕食後早く床ニツク 十時頃田中帰ル ベニヤ預テ帰ル

▲▼56ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月21日(火)

天気晴

六時十五分起床 田中來 ベニヤヲ持ツテ先キニ行 新聞ニツ見テ出カケル 八幡ニテ
銅線ヲ求メ工場着 岡田勇延引ノ申訳ケ、内外坂地氏へ廿三日午後二時頃行ク旨返
信終ツテ 工場倉庫整理 今日ハ菊池ト田中ヲ會(ママ)手ニ
大蔵荒木十年式ニテ下志津ニ行クベク準備中機ヲ逆立サセテラジエターオシヤカ
大口ペラ板張リニ本日ヨリ來 善喜手傳フ
定時帰宅 大分日モ永クナツタガ帰ルトヤハリクライ
夕食後夕刊號外ヲ見切り抜ヲ見タリ張ツタリ終ツテお雛サンノ幕ニ定紋ヲツケ、碁ヲ
一寸ヤツテ床ニ入ル 九時 日記ヲツケアト雜誌ヲ見テ眠ル

▲▼57ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月22日(水)

天気晴

七時十五分工場着 明日東京行キノ用件ノ準備ヲナシ工場作業ノ差(ママ)圖 倉庫
整理
東京地方裁判所ヨリ又々訴状ガ來タ 見レバ安藤幾太郎ノ件デアッタノデ意外アッタ
スグ調ベテ見タラ其當時ノ書類ガアッタノデ先ヅ安心。同時ニ宮本ノ手形預リ書モ出
テ來タ
帰宅 夕食時大蔵東京ノ帰りニ寄ル 春海氏明日來ルトノコトデアッタ 夜松本楼ニ行
クコトヲキメル
囲碁新聞ニヨツテ一寸練習 就床後獨逸雜誌ノライトプレーンノ性能表ヲ見タガ中々
分ラナイ 航空用語デ調ベタガ半分位シタ分ラナイ アトハ判シテ讀ム ソレデモドウニ
カ大部分判ル 二時頃眠ル

▲▼58ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月23日(木)

天気晴

七時起床 八時出ル 佐藤ニヨリ日本自動車トタイヤー会社ノ受領書ヲ受取り局行キ 検査ヲ廿五日ト打合セ拂下ヲ写シ橋本国來 奨励金願書ニ通書キ直シ終ッテ函土地ニ行ク 鈴木ニ依頼 廿五日來ルコトニシテ日日ニ寄ル 吉田君居ラズ馬話ニ会フ 今夜ノ会合又太平洋問題ニカユツケ協会カラ金ヲ取ロウト云ウ話ナノデ出席ヲ中止スルコトニス。坂地氏ニ会ヒ今月五十円位二三回拂ニテ諒解ヲ得ル。日日ニカヘリ吉田氏ニ会フ 三型機体賣込ノ話シ有望。鳥飼ニ寄り、商業會議ニ行ッテ秋田氏ニ会ヒ博覽會開會式飛行ノ飛行七台五万円ニテ引受ケ、時間ガ早イノデ銀坐ヲ徒キシネマヲ見テ五時半上ル 駒形ニテ夕食後松本樓ニ電話ニテ大蔵ト廿五日試飛行ノ打合セ 今夜大坂ヘ立チ廿五日十時迄ニ必ず帰ルトノコト
小栗ニ博覽會飛行ノ諒解ヲ得ベク寄ル 不時(ママ) 名刺ヲ預ケテ帰ル。コレヨリ先キ電通吉川氏ニ会ヒ計算書ノ説明ヲナス アト修理ハ見積リ返上ナリトノ説ニヤ、フンガイ。不信用ナモノナラ金ハ入ラナイト云フ
八時帰宅 田中居リ九時過ギ帰ル

▲▼59ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月24日(金)

天気晴

六時十五分起床 七時三十分工場着
倉庫整理
夕方大蔵ヨリアス間ニ合ワヌトノ入電アリ 終業後田中上京サセ榊部君ヲ依頼ス 十一時頃帰り來ルトノ返アリ
夕方帰宅スルト大坂ノ兄ガ來テ居タ 何ニカ重大事カト思ツタラ、取引ノ金ヲ取りニ來タトノ事デアッタ ヤ、安心シタガ大分急(ママ)ガシイ金ノ様子デアッタ 朝日ノ件心配シテ居タガ、アラカジメ話シス
食事ヲ共ニス。床ノ中デ五目ヲヤツテ一寸小供気分ニナル

▲▼60ページ▲▼ 昭和3(1928)年2月25日(土)

天気晴

六時半起床 昨夜兄ガ共ニ工場ニ行クト云ツテ居タガ朝ニナルト眠イト見エテ中止シタ 食事ヌキニシテ工場ニ行ク
検査官森川、坂本氏來 榊部氏飯島氏モ來ル 十年式無事終了 アプロ機發振動アリ 夕方取降シ 荒木病氣休ミ 上野夕方病氣休ミヲラシク眞赤ナ顔ヲシテ居タ 風ヲ引タラシカッタノデ休ム様ニ云フ

田中安藤件松岡氏ヘヤル 不在ニテ會ワナカタ由 田辺書替利子、森川函土地共ニ

金取レズヤレナカッタ由
夕方今日ハ朝モ晝モ喰ワナカッタ 夕食後床ニ入ルトスグ眠クナッタ。兄ハ大坂へ今夜ス
グ帰ッタラシカッタ

◆▼61ページ◆▼ 昭和3(1928)年2月26日(日)

天気 晴

今日ハ眠クテ九時漸ク起床 小鳥ト植木雛段ノ飾リ換エヲナシ新聞ヲ讀ム 丁度十二
時。パンテ朝晝ヲ兼ネル
知覽氏カラ催促ガ來テ居タノデ収支予算書ヲ作り發送ス 二時半ヨリ散歩ニ出ル 信
太郎徳次ヲ連レ眞間停留所迄花ヲ買ヒニ行キ帰途梅ヲ探(ママ)ネテ附近ヲ歩ク 帰ッ
テ床ニ白桃ト菜種ヲ生ケル
田中來暮ヲ教エル 小栗來 中島壞シタトノコト 一時間程話シテ帰ル
田中九時頃帰ル
小供ニ白髪ヲヌカセツ、八時頃眠ル

◆▼62ページ◆▼ 昭和3(1928)年2月27日(月)

天気 晴

今日ハ倉庫ヲ一先ツ終リ組立工場ト元ノ金工場整理
夕方大蔵、田中、菊池、今村、西田、樋口、荒木ト会食懇談会 四月一日ヨリ五時終
業ノコト 代リニ晝四十分休息ノコトヲ決定ス
田中晝休ミ十分増ヲカレコレ帰ル迄云ツテ居タ 後チ自宅ニ來 十一時半頃迄右ノ事
カラツヒニ大蔵問題ニウツル。ヤハリ氣ガ合ワヌト云フノダロウ 大蔵モ欠點ガ多イノデ
彼レ之レ云ワレ安イノニモ困ツタモノダガ大分ヨクナリカケテ居ルノハ自分ニハ見エテ來テ
居ル 田中トノ折合ガドウモイケナイ 申申要スルニドチラモ上ニ立タウトスル氣持チ
ガヨクナイ
二時頃カラ自宅ニ加藤ガ來テ待ツテ居タ イオ今夜泊ル

◆▼63ページ◆▼ 昭和3(1928)年2月28日(火)

天気 晴

七時起床 加藤ニ要件聞ク 就職ノコトデアッタ 九時工場着 金工部整理半バ終ル
大蔵自分ガ行ク迄函ノ様ナモノヲ作ツテ居タガ、ラシン。パン用ノモノラシカッタ 後チ荒
木ヲ相手ニ中島ノ分解ヲ初メタノハ嬉シカッタガ午後一軒家へ茶ヲノミニ行ツテ大分永
イ時間居ラナカッタノハ後チニ注意ス

夜帰宅後十二月分未決算ノ引合セヲナス 未給ノ一ツガ付ケ落チニナツテ居タ 一度
ニ合ツタノデ氣持チヨカッタ 其勢デ十二月分ノ決算及ビ繰越迄終了ス
田中帰りニ寄ラネバ吉 寄レバ否ト想像ス 九時迄來ラズ

◆◆64ページ◆◆ 昭和3(1928)年2月29日(水)

天気 晴

時事 後藤勇吉氏大村出發後墜落焼死

六時半起床 八時半金町ヨリ乗車。十時荒川沖着 井上長一、安藤、局井上氏等ト
同道。函土地一汽車遅レル 自分現品見テ受取ル 後川上氏ト會ヒ運送店交渉タノマ
レル 中島組ニ立寄り交渉 今回ノ分ハ自動車デ取りニ來ル事ニ極メ大急ギデヤット一
時ノ汽車ニ間ニ合フ

今日ハ頭ガ熱クテ非常ニ困ツタ 熱モアル様子デアッタ 帰ツテスグ床ニ入ル
夕刊デ後藤機墜落焼死ノ報ヲ見ル スグ協会ト自宅ヘ弔電ヲ打タセル

◆◆66ページ◆◆ 昭和3(1928)年3月1日(木)

天気 晴

ドウモカラダガ変ナノデ熱ヲハカルト七度八分アッタガ、ガマンシテ工場ニ行キ仕度ノ
準備シテ上京 局ニヨリ五日試験ノ打合セヲナシ丁度大蔵ニアッタノデアトノ用事ヲタ
ノミ吉田氏ノ自動車デ日日迄オクラレ交詢社ニ長岡氏訪問 太平洋問題ニツキ話シ中
相羽來 馬話不參トノコトニ食堂ニ入ル 即チ三人招カレタコトガワカッタ 用件ハ航空
會館ノ維持ニツイテ要員ヲ講ジタイ 其節ハ尽力ヲタノムトノコト。外ニハ太平洋問題ニ
ツキ協会ノ話ガ大分出タ 内幕ノコトモアッタガナンダカ長岡氏が吾レ々々ニケシカケ
ルモノト思ワレタ 相羽馬話ハ思フツボデアロウガ長岡氏ハ相變ラズ老カイダ

◆◆67ページ◆◆ 昭和3(1928)年3月2日(金)

天気 晴

九時頃迄床ニ居ル 七度八分熱アリドウモ變デアッタ 午後ハヤ、ヨカッタ
帰宅後モ早ク床ニ入ツタガ田中來 例ノ調子デ今日ハ菊池ノ休日日給支給ヲ十一時
迄論ジ、シヤクニモサワツタガ捨テ居ク 若イ者ト云フモノハ自分ノ思ツタコトノミシカ
考慮シナイ。尚田中ハシヤベツテ居ル内ニ次第ニ熱シテ自己満足ヲ得ル形モアル 後チ頭
ガ少シ變デアッタノデ熱ヲハカルト八度アッタ 二時頃眠ニツク

◆◆68ページ◆◆ 昭和3(1928)年3月3日(土)

天気 曇少雨

七時半丁度工場着 大蔵二十年式ト中島ノラジエターハツサセル 十年式ハ残シテ中島式ト外一個賣拂ヒ小遣ヲツクル。ハタシテ夕方迄田中帰ラズ 泉退職手當等モ右ノ内デ間ニ合ス

夕方川辺ガ寄ツテ呉レトノ事ツテニ立寄ル。後藤氏ノ葬儀ニツキ民間側ヨリ自分ト石橋ガ要員トシテ出ルコトニナツテ居ルトノコトニ明日吉田ノ帰リニ寄ル事トス

今日ハ眠カッタノデ七時帰宅 夕食後スグ眠ル

今朝七度五分 ドウモ変ダ

西田ト今村ケンカス 今村、荒木、ニヨリ今日ノ工場ニツキ話ス 菊池見舞フ 尚田中ノ意見ニツキ今村、菊池、ノ意見ヲ聞イテ居ク

◆▼70ページ◆▼ 昭和3(1928)年3月4日(日)

天気 晴

七時半起床 大急ギデ散髪ヲシテ上京 阿佐ヶ谷ニ吉田氏訪問 今日拂下ノヨシニテ百五十円融通スルコトニ話シテ極メル 明日取引 外ニ吉田氏ヨリ今度高知カラ出タ中谷代議士ガ航空事業ニ金ヲ出シタイ希望アリトカニテ所沢分工場ニ対シ出資サセル話アリ 出來ルナラ本工場トマトメテノ話シニシテ來(ママ)レル様 尚大坂名古屋ノ定期ノ新規事業トシテ初メタイ事ヲ話シテ二時余リ懇談 帰途協会ニ寄ル 石橋來ラズ 帰ルベク上野ニテ橋本国ニ會フ 附近ニテ一二時間用談ヲスマセテ帰宅

◆▼70ページ◆▼ 昭和3(1928)年3月5日(月)

天気 大雪

朝來降雪盛 夜中ニヤム 積雪五寸余

六時起床 七時半工場着 明日急ニ飛行スル場合ノ準備シテ上京 函土地ニテ二百四十七円七十三銭受取り協会ニヨル 香奠ヲ送ル 馬詰、石橋、遠藤君ニ會フ 鳥飼ニ花環ヲ依頼シ日日吉田ニローン120百六十五円ニ賣リ百六十円ヲ吉田渡シ 外二十円式運賃廿五円受取ル。タクシーニテ田原町高尾山三行ク 二時半花ヨメ花ムコ式場ヨリ來 山田ノ父母兄、ヨメノ兄及親類一名 自分ト川辺代、且代外ニ鈴木家内ノ母、鈴木夫妻外一名デアッタ。五時帰宅 夜田中來 今日モ又金取レズ七日トノコトイヤナ電通デアル 十時過ぎ迄又話シ込ンデ帰ル

◆▼71ページ◆▼ 昭和3(1928)年3月6日(火)

今日ハ終日頭ガ変デアッタ

六時十五分起床 七時半工場着 十一時半ヨリ一度帰宅 晝食後上京 タクシーにて
青山斎場二行キ終ツテスグ帰宅 丁度五時
式中一人デ涙ヲモヨオスノヲドウスルコトモ出来ナカッタ
今朝八函土地現金デ麻布、全部ノ買物、内外ノ内入 米屋炭屋ノ内入等カナリ苦シ
イ 割り當テラシテ出カケル
大蔵今夜大坂行 三尾氏飛行ノ爲メ 鎌田君同道ノ予定
藤並本日帰り カモ一羽モラウ 夕方料理ス

▲▼72ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月7日(水)

天気晴

定刻工場着。芝入中川氏來
熊倉藤田検査終ル 宗里分ロンゲロン大傷発見 全部ヤリ直シ。今村田幡責任
夜田中オソク來 五百円ダケ貰ツタトノコト 明日ノ支拂方法ヲ定メテ帰ル

▲▼73ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月8日(木)

天気晴

七時半起床 九時半坂地二行ク 三十円支拂ヒアトハ自分ニ責任ヲ以テ入レルカラ手
形モカ、ズ支拂方法ハ自分ニマセサ(ママ)ルコトニテ承認
日日ニヨッタガ代々木へ行ツテ不在 秋田氏ヲ訪問 廿三廿四日飛行ノ件ヲ定メ飛行
協会航空局ニヨリ佐藤デ銅板ノ買物ヲ頼ミ、主人ノ見舞ニウヅラノ玉子五十個贈ル
二時半帰宅 氣持悪シク床ヲ取りアンマヲ呼ブ
田中來 又十時半迄話シテ帰ル

▲▼74ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月9日(金)

天気曇リ

今日ハ眠クテ変デ一度起キテ又九時迄床ニ入ル
八幡デウエルトヲサセ十時半工場着
四五通手紙ノ返事ヲ書キ藤田、熊倉ノ計算ヲナス
稲垣ノ計算モ行フ
六時帰宅

▲▼75ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月10日(土)

天気 大雨

終日大雨 八時工場着 樋口午後休ミ 田中休ミ
猿田金受取り方ニツキ苦心ス 泉屋米ヲ廻サズ 自分手紙ヲ書イテヤツタガ来ラズ
今月分ノ金デ渡辺ヨリ一俵取ル 値段ハ一俵ニツキ八十銭 安カタ
宗里ロンゲロン後部全部取替エニ決定
明後日拂下代金ニツキ苦心ス 宗里へ帰リニヨツタガタレモ居ラズ明日猿田へ橋本ヲ取
リニヤルコトニス 菊池今村ヲヤロウトシタガ菊池引越シ今村不得手ノ爲トテ行カズ、
橋本ヨリ外ニナク
田中来ルノヲ待ツタガツヒニ来ラズ

▲▼76ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月11日(日)

天気 雨及曇リ

朝橋本善ヲ猿田へ金取リニヤル 八時半宅ヲ出テ押上ニテ秋田氏ニ会見場所ヲ打合せ
稲垣ニ行ク 丁度十一時 一時間話シテ今月ヨリスベテヲ七十円ツツ支拂フコトニ取キ
メ(毎月廿五日)博覧会事ム所ニ秋田氏ヲ訪フ 丁度精養軒へ行ツタトノコトニスグ行ツ
テ、飛行内金二三日内ニ貰フコト 其内百円今日立替ヲシテ貰フコトヲ話ス 浜町デ渡
ストノコトニ名刺ヲ貰ツテスグ行ク 中々立派ナ待合デアッタ 玄関先キデ待ツテ金ヲ
貰ツテ帰ツタガ一寸変ナモノデアッタ
金ガ出来タノデ材料至急ノモノノミ買物シテ帰ル 四時帰宅 実ニクタブレタ
夜九時頃田中来 又十一時過話シテ帰ル

▲▼77ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月12日(月)

天気 晴

六時起床 七時半出ル 高田ノ馬場ヨリ伊藤酉夫氏川上氏ニ会フ 分工場ニテ少休
今日ハ数ガ多カッタノデ四時頃迄カ、ル 晝食川上氏ト共ニス 国際飛行場ノ問題ヲ市
川尻ニスル件ニツキ(元 件)自分ノ名儀(ママ)デ運動ヲヤッタラドウカ 運動ハ川上
ガヤルトノコトデアッタ 結構ダト云ツテ居ク 実際確實性ガアルナラ、ヨリヨイ事デア
ツタ

大蔵来 明日飛行ニツキ分工場ニ帰り打合せ 橋本ニ工場経済ニツキ注意シテ帰ル
大毎自動車ニテ帰ル 吉田君ニ會ヒ帰宅。夕食後スグ眠ル 九時

▲▼78ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月13日(火)

天気 曇リ

九時工場出

十年式スパリ削り過ぎ自分で見直し直サセル

▲▼79ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月14日(水)

天気晴

七時半丁度工場着 八時過ぎ田中菊池出勤 晝頃迄設計室にて田中ト自分ノ気持
ト目下ノムジュンセル方針ツイテノナヤミツキ話シ合フ

午後倉庫ノ方付ケヲサス 菊池又タオレル

荒木ニ練習機発ヤラセル

大坂西田へ打電 イソギ帰ル様 アスカエル予定トノ返アリ

夕方鈴木ノ招待デ夕食ヲ共ニス 工場ツイテノ彼レノ意見田中ニハ讚(ママ)意 大蔵ニ
ハ不讚(ママ)意等先ツ普通デアッタガヤ、其他参考ニナル事モアッタ

▲▼80ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月15日(木)

天気晴

七時半出 今日ハ木工場ヲ整理ス

▲▼81ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月16日(金)

天気晴

午前中、ガスタンクノ移轉ヲ行ヒ晝ヨリ上京

局ニ熊倉ト藤田ノ願書提出 アトハ全部來年度廻シノ事

日日ニ吉田氏ト会见 色決定 大蔵明野ニ不時着ヲ聞ク 西田早く帰ヘス様打電ス

航空懇談会出席

大蔵夕方津田沼ニ帰着 発故障ノ爲メ三方ヶ原ニモ帰ツタ由

大坂朝日ニテ上野氏ニ呼バレタトノコト ソレハ同ジサルデ十三日ノ飛行ニ朝日ヨリ後カ
ラ出テ廿分程先キニツイタ爲メ問題ニナツタラシイ 其爲メ大毎デハ夕刊ニ合ヒ大
朝デハ夕刊ニ合ワナカッタ爲メ

▲▼82ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月17日(土)

天気晴

六時十五分起床 工場行き 途中菊池ヲ新工係リトシテ工場住居トシテ教官ニ當ラ
セル方法ガ本人ノ爲メニヨサソウニ思ツタ 今日ハ菊池モ八時前ニ出勤シタ

田中オソク九時半頃出 支拂ヒニツイテハ給料ニ自分ト米屋、ヤヨイ商会ダケ 外ハ一切明後日ノ事トルコト云ヒ居イテ大蔵ト上京 日日ニテ橋本ニ会ヒ、大毎発動機ラジエターノ打合セヲナシ、サル大坂行ノ計算ヲシ分工場ノ方針ニツキ考慮シテ居クコト 明日ノ会见ヲ延期スルコト

帰途市川屋ニヨル 八十円デ他へ話シテ見ルトノコト ソレデハダメダカラ引取ル様云ヒテ帰ル ドウモ賣ツテシマッタラシイ 明後日行クコトヲ約ス

銀坐一丁目デ大蔵ト食事ヲ共ニス 稲垣ノ自分ニ対スル悪感ニツキ一寸話ス 五時帰宅 大蔵和歌山デ貰テ來タ花餅ヲ一ヶ居イテ帰ル 夕食後スグ床ニツク

◆▼83ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月18日(日)

天気晴

朝工場ニ出ル 発動機ノ方ト同工場戸棚ヲ樋口外数名ガ作ツテ居ルノヲ見テ帰り午後信太郎ト徳次ヲ連レテ鴻ノ台へ徳次ノクツヲ買ヒニ行ツタガナク信太郎ニ買物ヲ持タセテ帰り徳次ヲ連レテ上京 押上デ買ツテヤル

清平本日横浜ノ高工試験ヲ受ケル爲メ來ルトノコトデ待ツタガ來ラズ 夜ツクトスレバ十時過ギニ來ル筈ナノデ停留所迄何回モ見ニヤツタガツヒニ來ナカッタ

◆▼84ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月19日(月)

天気晴

午後ヨリ大蔵ト上京日ヨリ行ク

定時出勤 今日八午後アセチリン瓦斯発生機ノ置場ヲ作ル

西田出 昨夜八十二時迄ヤツタ由

清平へ旅費送ロカト打電シテヤツタ 夜帰宅スルト手紙ガ來テ居テヤハリ金ノ爲メニ中止シタトノコトデカワイソウデアッタ

◆▼85ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月20日(火)

天気晴

定時出勤 博覧会飛行ノ届用書類作製。田中ヲ待ツタガイッ迄モ來ラズ 十時半ヨリ上京 局ニ行キ操縦士免状ノ写ヲ作ル 丁度馬詰ニ会フ 四月三日ノ分ノ金ヲ廿二日半金貰フ話シヲシタガ末日ニシテ呉レトノコトデアッタ。川辺君ニモ会フ

函土地ニテ自動車賃ヲ受取り越前屋ニ行ク途中橋本国ニ会フ。自動車ト金ノ打合セヲナシ神田デ分レテ上野博ニ行ク 田中ニ会フ 田中ニ用件ヲタノミ帰ル。山田へ贈ル時計ヲ求メル

帰宅 夕食後スグ眠ル 十二時頃田中帰ッテ來タ ハンモンド明日金持ッテ行クコトニス
清平へ大坂ダケ最(ママ)非試験受ケル様手紙デハゲマシテヤッタ
アタタカクナッタ 午後八南風強クナル 今日初メテオーバーナシデ出タ

◆▼86ページ◆▼ 昭和3(1928)年3月21日(水)

天気晴

風強シ

昨日カラムツソリニ傳ヲ讀ム 八時工場着 信太郎徳次ヲ連レテ行ク 今日八大蔵菊池
モヨク働ライタ 金工場ノ機械ヲ移ス
芝入氏來 内ノイス。パノ三百見テ貰フ
田中夕食中來 黒イクスブッタ顔ヲシテ居タ 今日上京シナカッタ 明日警視廳ト博
覽会ダケ最(ママ)非行クコトノ打合せシテ帰ル。今日キング用事ヲ書イタモノヲ持ッテ
行ツタ時赤ン坊ノ泣声ガシタトノコト 多分今日アタリ出來タノダロウ

◆▼87ページ◆▼ 昭和3(1928)年3月22日(木)

天気晴

明日明後日ノ飛行準備ヲ行フ

三時半工場仕舞トナシ大蔵、今村、西田、菊池、荒木、日日招待ノ活動写真ツバサヲ
見ニ行ク

自分ハ正午ヨリ上京 局ニテ検査ノ打合せヲナシ日日デ橋本ニ会ヒ二百円受取ル
市川屋ニテアングー小型写真機借りテ帰ル
ツバサハ実ニヨク出來テ居タ 飛行機ヲ自由ニ使ツタ處ハ感心サセラレタ 九時半終ッテ
銀座デ皆ト食事シテ円タクニテ帰ル

◆▼88ページ◆▼ 昭和3(1928)年3月23日(金)

天気晴

六時四十分起床 田中來 共ニ工場ニ行ク 田中博覽会其他買物ノ爲メ上京サス
大海中務君來 葛西來 サル、アプロニテ正午飛行 サル調子悪シク二枚シカトレナカ
ツタ由 中食ヲ共ニシ三時頃工場ヲ出谷津(案内シテ自分ハ帰宅
函土地川上、鈴木両氏発動機三体ヲ見ニ來場 中食後船橋ノ土地ヲ見テ帰ル由
夕食後早ク寢ル

◆▼89ページ◆▼ 昭和3(1928)年3月24日(土)

天気 晴

時事 東京博覧会々開式

出勤前市川ノ三沢塗料屋へ大毎機柱ノ塗り方依頼ニ行ク 九時工場出 大蔵吉田氏
十一時前和田氏同道來場 日ノ分博覧会分ハ一所ニテ差支ナシトノコトニ正午クツ
ク、アブロ、學校甲三、サルノ準序(ママ)ニテ出發 内ノ甲三發惡シクツヒニ出發出來ズ。
新橋小栗助手來場 兎三角四十円ヲ内入トスルカラ女優ヲ乗セテ貰イタイトノコトデ
万事ハ小栗ガ帰ツテカラノコトトシテアブロニテ、菊池操縦東京ニヤル。葛西飛行機出
發後來ル 女優ノ写真ダケ取ラセル 昨日ノ分ハ皆ダメデアッタ。
稲垣ヨリ一般へノ辭任挨拶狀來ル 昨日氏問題ニツキ田中ハ例ノ橋本ノ爲メナリト主
張シテ居タ

▲▼90ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月25日(日)

天気 晴風

今日ハアマリ気分ハヨクナカッタ

八時起床 小鳥ト植木ヲ手入レシ後チ壺月分記帳ヲ終ル

午後大坂名古屋定期ノ予算作製ヲ初メ、夕方入浴ニ信太郎徳次ト行。

夜早く床ニツイタガキムソリヲ讀ム 八時過ギ橋本国來 明日サル最(ママ)非所沢へ
來テ呉レトノ事デアッタ

▲▼91ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月26日(月)

天気 雨風

昨日ノ風尚ヤmaz 曇リ 工場七時半着

發動機部全員戸棚整理 大蔵日力行。田中午後上京。九時出勤 例ノ工場改革案

デ又話シ込ム。雨モヒドカッタガ上京遅レル 此方ガヨホド能率ガ悪イ

夕方風モ雨モヤム

今日ハ工場デ一月分ノ不明ノ處ヲ調査 日本自動車会社飛行学校ノ入金ガナク拂ノ
金ノ出ダケガ記入サレテ居タリ 田中ニ注意ス

夜記帳

清平ニ大坂高工ノ試験受ケタカ打電シテヤッタラ結果悪ルシ如何ニセント返事來タ
行ツテ相談ニ乗ツテヤラネバナルマイ

▲▼92ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月27日(火)

天気 晴

大蔵トサルニ同乗 所沢行 途中博覧会ノ写真ヲ写ス。スグ工場ニ行ク 妻ガ非常ニコロフンシテ居テ問題ドウモサセタ

大毎九号機辻本氏検査ロンゲロン取換エヲ要スルコトニナル 大至急手當ニカ、ル妻問題片岡ガ來タノデ中(ママ)介ニ入レル 夜一時頃迄カ、ッテ決セス余リノコトニ自分ガ非常ニ立腹シタコトニシテ今日ノ處ハ未決ノマ、モチ越ス

▲▼93ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月28日(水)

天気 晴

七時起床 茶ヲノンデ居ル處へ大蔵來。工場ニ行キカケタ處へ片岡、妻來 オトコ橋本ノ宅ニ入レテ工場ニ行ク 吉田君へ立寄ル爲メアトハ橋本ニマカセテ大蔵ト帰ル 大蔵東京ニ直行 自分吉田氏訪問種々懇談 一三式ヤツテ貰カモ知レヌトノ福音ヲ得共ニ上京 局ニ行ク。五号機中川氏検査ノ結果右翼老衰ハゲシク取替タ方ガヨカロウトノコトニ電通交渉ニ時間ヲ取ツタガ確定ヲ見ルニイタラズ帰ル 帰宅 スグ夕食モ取ラズ寢ル非常ニツカレタ

昨日ノ写真ハ皆ダメアッタガ自信ガ出來タ

▲▼94ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月29日(木)

天気 晴

田中同道工場行き

此間取替エタ大毎ロンゲロン調査 ヤハリ面白クナイノデ櫂ニスベク船橋へ木ヲサガシニ行ク 尚宗里氏ヲ尋ネタガ不在 夜再度行キテアブロン件打合せ 今夜ハ津田沼デ泊ル電通ノ翼調査シタガ下翼ハ使用ニ堪エナカッタ

北河明後日ノ手形ノ件ニツイテ田中ト想(ママ)談 大坂行きヲ早メテ明夜出發 北河ニヨツテ諒解ヲ得ルコトニス

▲▼95ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月30日(金)

天気 曇後雨

七時半起床 大坂行きノ準備シテ十時頃今村ト西田ニアトヲ頼ンデ帰宅 散髪ヲシ仕度シテ十二時半児供皆シデ停留所迄送ツテ來タ。スグ局ニ行ク函土地ニ川上氏ト會フ合計八万式千余坪アリ 大部分塩田デ持ち主ハ自分ニ名儀(ママ)変更ニシテモヨイトノコトデアッタトノコトダガ自分ノ意見トシテ先ヅ格納庫ヲ作ツテ飛行場ノ型式ヲ取り其管理人トシテ運動シタ方ガ有利且ツ合理的ダト思フ旨ヲノベル 氏モ讚(ママ)意ヲ表シテ居タ 明日先ヅ荒井少佐ト會見ノコトヲ頼デ分レル。局ニテ大毎機ノ打合せヲ

ナシ日日ニ行ク 大蔵來テ居タ
馬詰明日ニシテ呉レトノコト 田中ニ静岡へ行クコトニシ自分ハ今少シ大毎機ノ目鼻ガツ
イテカラ出發スルコトニス
買物ヲシテ浅草デ田中ト会ヒ打合セテ帰宅
オドカシタノデビツクリシテ居タ

▲▼96ページ▲▼ 昭和3(1928)年3月31日(土)

天気 風雨

時事 伊飛行家コスト、ルブリ両氏來 ゲーベル少佐横浜着
六時起床 津田沼ニ行キ今村ニ仕事ノコト 大蔵ニ税金其他ノ支拂ヒヲ頼ミ、スグ上京
局ニ行ク 九時半タレモ來テ居ナカッタ 十一時迄居テ漸ク二日検査ノ打合セヲ終リ
宗里機三ヶ月証明書貰フコト等ヲキメ協会へ馬詰ニ會ヒ行ク マダ來テ居ナカッタノデ
パウリスタデ食事中來 式百円ダケ受取ル ビールヲノミシバラク話シテスグ帰場 田
中ノ電丁度來タノデ銀行へ使ヲヤリ北河ノ手形返送シ兼ネテ來テ居タ空中交通論ヲ
引取ル
五号機スパー取替作業ヲ初ム

▲▼97ページ▲▼ 4月

大坂行 定期航空ノ件
陸軍運動開始

▲▼98ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月1日(日)

天気 曇リ

休日ナレドモ作業ス 工場出勤 信太郎同道 大分役ニ立ツ様ニナッタ

▲▼99ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月2日(月)

天気 晴

七時起床 三沢二十年式柱ノ塗り替出來タカ聞きニ行ク マダ、テンデ手ガツケテナカ
ツタノデ大至急依頼シテ工場ニ行ク 辻本芝入氏來 鈴木發ヤハリダメ 十年式右翼
中央翼終ル

内十年式發取付終リ試飛行ス

安藤ヨリ大場氏來場 二名長屋ニ入ル
本日ヨリ七時初メ五時十分終業

◆▼100ページ◆▲▼ 昭和3(1928)年4月3日(火)

天気 雨

シヤーシヤー降ッテ居タノデ又寢タ 八時起床 シルコニ一杯トロールキベツニケヲ喰テ工場ニ行ク 馬話カラ降ッテモ來イト電來タガソレガ丁度十二時頃デアッタノデアス行クト返ス

午後二時半小栗來 一寸会フ 再開ヲ約シ氏ノ自動車デ停留所迄送ラレ信太郎ト芝入氏ノ宅へ行ク 家ヲサガスノデ大手間ヲ取ル ヤットサガシテ電通機ノ堪航証ノ件ヲ聞キスグ出ストノコトニ明日手續キスル事ニシテ菅野ニ帰ル

◆▼101ページ◆▲▼ 昭和3(1928)年4月4日(水)

天気 雨後晴

六時起床 工場行き 九時頃ヨリ雨小止ミトナリ十一時出発 所沢迄約三十分ガソリンヲ入レ高橋ニ大毎部品ノコトヲタノミ十二時五分出発 東京デビラヲ散(ママ)キアツギ、カラ山北ノ方ヲ通り三島ニ出デ静岡デ又ビラヲ散(ママ)キ三方ヶ原ニ着陸 一時間五十分

福永ノ鳥居機ハ厚木カラ海へ出テ静岡ヲ経テ又一所ニナッタ、ガ三方ヶ原デ車輪パンクシ隊デ借リタチューブガ不良ノ爲メアトニ残シ三時四十五分出発 西風益々ツヨシ伊勢灣ヲユス迄二一時間カ、リ、鈴鹿ニカカッテ、モヤトクモントザサレ明野ニ引返シ着陸 時二五時三十五分。格納ヲ依頼シタラ、クラクナッテ來タ 六時半ノ自動車デ宮川ニ出汽車ニテ山田着 高千穂館ニ入ル

◆▼102ページ◆▲▼ 昭和3(1928)年4月5日(木)

天気 晴

三時頃カラトナリノ部屋デガヤ、話シ声ガシテ眠リヲサマタゲラレタ。五時半起床 外宮ニ参拝シ朝食後六時四十分ニテ山田発 宮川ニ下車シタガ連絡ノ自動車ナク貨物自動車ニ同乗シテ明野ニ行キ準備シテ八時五分飛行 馬話カラ八時掛塚カラ立ツカラニ機雁行シテ大坂ニ行ツテ呉レトノ電デアッタガ寅(ママ)習開始前ニ立ツベク八時五分出発 グン、高度ヲ取り千二百呎上昇 風ハヤハリ強カッタ 九時五分前大坂ニ着 市内飛行シテ木津川飛行上(ママ)ニ行ツタガマダ準備ガ出來テ居ナカッタノデスグ 練兵場ニ着陸 格納庫ハ朝日へ 手入レトガソリンハ大毎ノ手ヲ借りル

■ 会社ノ人達ガ來タ結果練兵場ハ使用出來ナイコトニナツテ居タトノコトデ師團參某(ママ)ニ挨拶ニ行キ後、憲兵隊ニ行キヒドクメンドウノタメ六時迄カ、大蔵ヲ電話デ呼び隊ニノコシテ帰宅 父ガヒドクヤセタ

▲▼103ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月6日(金)

天気 晴

八時迄寢ル 九時五分憲兵隊ニ行ク 菊池氏ガ丁度來タ處デ大蔵モ間モナク來ル 始末書ヲ書ケトノコトデ提出シテヤツト終ル 師團西村少佐ニ一應挨拶ニ行キ練兵場ニ行ク 朝日ノ山本氏ヲ同乗スルコトニナル 十二時頃大毎へ行クベク分レル

大蔵二十円渡ス 十二時十分出發セリ 二時五十分立川着 所沢ニヨリ五号機ノ部品ヲ取ツテ帰ルコトヲクレ、云ヒツケル

福知氏ニ會ヒ金ノ件依頼 何ニカ手紙ヲ呉レトノコトニ一度帰宅 手紙ヲ書キ同時ニ吉田氏ニモ手紙ヲ出ス 再ビ行キテ下ノ食堂デ羽太、松下有雄君等ト会谈ス 福知氏ニ手紙ヲ渡シ五時中山氏ニ會フ 名古屋迄航空輸送ノコト 地所ノコト依頼 航輸ノ方ハ難事ノ様デアッタガ地所ノ方ハ行ケンウデアッタ 明日伊セへ旅行スルトノコトデアトロ頼ンデ帰ル

▲▼104ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月7日(土)

天気 晴

五日ト六日半日ゴタ、デツブレタノデ今度ハ少シモヨイ旅行気分ニナレナカッタ

田中ニ午後手形ノ金電送スル旨打電シテ十時頃父ト清平ト温泉ニ行ク 父ノカラダノシワノ多クナッタコト、多少ボケタ事 イタマシカッタ

晝食ヲ食堂デ取り余興ヲ見テ帰ル

スグ仕度シテ大毎ニ行ク 福知シ病氣ダカラ宅へ來テ呉レトノ事傳ニ行ク 起キテハ居タガ書(ママ)君ガツット休ンデ居ラレルトノコトデアッタ 夜七時頃迄色々ノ話シガ出タ。大蔵ノ件モ出ル 夕食ノ馳走ニナツテ帰宅

▲▼105ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月8日(日)

天気 晴

時事 コストルブリ佛飛行家ハノイへ向ケ立川ヲ午前七時二十分出發ス

九時起床 後チウラノニ階デ定期航空ノ計畫書ヲ作ル 十二時ヨリ大毎ニ行ク 二時

間程遊ブ 金ハツヒニ貰エズ帰りニ朝日ニヨッタガタレモ居ラズ帰宅ス

定期用小型機ノ設計ス

夜裏デ御馳走ニナル

夕方伊勢ノ叔母ガ女ノ児ヲ一人連レテ來タ 浅野ノ叔母ガ來タ 近所ノ話ニ花ガサク
大分變タ様ダ 自分等ノ児供ノ時ヨクナカッタ家ガ此頃ハ皆ヨク其頃ヨカッタ家ガ大
部分悪クナツテ居ル 殊ニ西ノ家ガナクナツタナドハ自分ニ取り淋シイコトノ一ツデアッ
タ 延次郎ハ親ハモトヨリ小供サエ養ヒカネテ居ルトノコトデアッタ

▲▼106ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月9日(月)

天気 曇リ夜雨

八時起床 朝食後堺大浜ニ行キ井上ト一時余リ話ス 局ノコト定期ノコトストライキ
ノコト等 久保田ガ來テ居タ 張ガストライキニ参加シタノデ入レ替エタトノコトデアッ
タ

佐渡島ニ行キ少時話シ朝日ニテ弘末氏ニ会フ 野田氏病氣欠勤ノ爲メ

帰ツテ福知氏ニ電話ス トモ金ニナリソウデナカッタノデ十三日試飛行ノ後スグ貰フ
コトニキメテ今夜立ツコトトノコト

清平航空研究所へ入レル予定ダイケナケレバ秋ノ機関士ノ試験ヲ受ケサセルコトニシテ
一所ニ連レテ出ルコトニス 父ニ少ナカッタガ大毎ノ金ガ取レナイノデ五円小遣ニ居ク
裏ノ姉モ來テ父ヤ兄相揃ツテ食ヲ共ニシ九時ノ汽車ニ乗ル

▲▼107ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月10日(火)

天気 雨

時事 コスト機無事ハノイニ到着セリトノ報アリ

九時東京駅着 日日ニハ早スギルノデ工場へ急グコトニシスグ帰宅。家ハキチント方付キ
風呂迄立テテアッタ ヤハリ家ハ有難イ 母ガ立タノダソウダ

大坂ノキン姉ガキチニ呉レタ下駄ヲ早速母ニ呉レタコトニシテ家内ガ母ニ見セタノハ大出
來デアッタ 中々ヤサシイ處ノアル奴ダ

清平ヲ寢カセ自分ハ工場行キ 思ツタヨリ仕事モ出來テ居タノハ嬉シカッタ 一月ノヤ
リカケノ決算ヲナス 少シ合ワナカッタ

五時十分終ツテ村山部吉ニ会ヒ帰宅 菱井サンガ來テ居タ 岡崎ノ公判ノ模様ヲ聞キ
決算ノ打合せ、金ノ件等ヲ相談シテ帰ル 知覧氏ヨリ出資ノ件デ明日午後一時東京
駅デ会ヒタイトノコトデアッタ

▲▼108ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月11日(水)

天気 晴

六時起床 七時出テ浅草デ土産物ヲト、ノエ九時十五分吉田氏宅ニツク 妻君病氣デ寢テ居タ 金ノ件、計器ノ件ヲ打合セ共ニ東京ニ出ル。佐藤ニテ橋本ニ会ヒ奥山ノ金五百円渡ス 内百円借りル 今大変ニイソガシイトノ事デアッタ。清平ノコトヲ頼ミ東京駅ニ行キ知覧君ニ会フ 晝食ヲ共ニ十三日午後三時又会フコトヲ約シテ日日ニ行ク 金全額ハ堪航証出テカラ必粟デナイト出セナイカラ十四日二千円ノコシタ、ハンパダケ出ストノ事デアッタ。鳥飼ニヨル オートバイヲ持ツテ帰ッタトノコト 自轉車ト交換ヲタノム。工場ノコト色々聞イタ 田中ガ話シタラシイ事ばかり話シテ居タ
朝日ニ立寄り帰宅 夜田中來 十一時

◆◆1109ページ◆◆ 昭和3(1928)年4月12日(木)

天気晴

五時半起床 七時十分工場着 清平ヲ連レテ行ク 機械ノ据付ヲ自分ト二人デヤル 飯島氏帰宅ス

大場君ヨリ安藤君カラロールスロイスヲ式台送ルカラトノ事傳ガアッタ 十年式十六日 検査ニ行クトノコト
中山、福知、橋本国ニ手紙出ス

上野今日デ二日モ續ケテ休ンデ居ルノデ出ル様話ス 田中ノ言葉ニダマサレタノガイヤダトカ云ウノデ夜自宅ニ呼ビヨセテ話シテヤル 霞ヶ浦行ヲ非常ニイソギ期待シモシ行ツタラ、生レ変タ様ニ働キ出ストノタノモシイコトヲ云ツテ居タ

◆◆1110ページ◆◆ 昭和3(1928)年4月13日(金)

天気晴

時事 関東飛行クラブ、記事クラブノ観桜会

晝迄二一月分決算ヲ終ル 田中スグ上京シタノカツヒニ來ラズ 竹中ノ飛行ノ件デ昨日 警視廳カラ呼ビ出シニ來テ居タガ明日ノ事ニス 正午ヨリ帰宅 散髪シテ上京 丁度四時 知覧君ト同道岡野氏ニ會フ。先方ニ陸軍方面ノ仕事ダケヤリタイ 即チ出資ガナクテ自分デ仕事ヲヤリタイノダトノコト 民間ト切りハナスコト等デアッタ ソレニ対シ陸軍ダケ切りハナス事ハ不可能ト思フ 尚考慮ノ上デ返事スルコトヲ約シテスグ新宿ニ行キ日日ニ電話スル 吉田君居ラズ和田君ニ明日ノ検査十六日ニナツタコトヲツゲテ多摩川ニ行ク 丁度六時過ギタノデ余程ヲオソイト思ツタラマダ五六人シカ來テ居ラズ七時過ギ漸ク宴ヲ開ク 九時 君ト共ニ帰ル 十二時帰宅 田中ガ待ツテ居タノデ明日ノ仕事ノ打合セラシテ床ニ入ル

◆◆1111ページ◆◆ 昭和3(1928)年4月14日(土)

天気 晴

今日ハ清平ニ設計室ヲ方付サセル

大野君來 アプロ整備引受ケル

竹中來 午後風強ク飛行明日ニス。田中夕方帰ル 吉田休ミ 大毎金ニナラズ。銀行ノモノ二百二十円引出シ皆ナニ明日ノ休ミニ対シ分ケニヤロウト思ツタガ田中ノ反対デ中止シタ。アトデヤハリ分ケヤツタ方ガヨカッタト思ツタガ其マニス。今早ク床ニツク

▲▼112ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月15日(日)

天気 晴

七時起床 朝食後帳簿記入 二月分晝迄ニ一通リ終ル 午後少シ頭痛ヲオボエタノデ午後庭ニ花壇ヲ作り金魚ヲ買ツテ池ノ手入レヲナス 夕方終ル

夕食迄時間ガアツタノデ定期航空ノ計算ヲナス 橋本国夜八時過ぎ來 奥山ノコト打合セヲナス

田中來 十一時過ぎ迄橋本善喜ト大蔵ノ事ヲ又話シ込ム。少シ神經的感情的過ギル様ニ思ワレタ 一應事実ニツキ調査ノ必要アリ 橋本モ気分ノ上ニ面白クナイノデ、自分ノ目ノト、カナイトコロデンレガ現ワレルラシイ

▲▼113ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月16日(月)

天気 曇時々晴

六時起床 清平ヲ所沢ヘヤル様ニシテ八時工場ニ出ル

十時頃辻本芝入氏來 北風強ク試飛行明日ニ頼ミ機体ト内部検査ダケ終ル 宗里氏來場 アプロ検査終リ次第持ツテ來テ呉レトノ事デアツタ

大毎和田氏検査立會ヒニ來ル

田中工場規定原稿ヲ持參 午後一通リ目ヲ通シ修正後意見ヲ加エル
十二時頃田中東京ヨリ帰り宅ニヨル 明日工場ニ出ル様ニ命ズ

▲▼114ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月17日(火)

天気 晴

七時五十分宅ヲ出金町ニテ宗里氏ニ會フ 霞ヶ浦十時半着 十二時スベテノ手續キヲ終リ菊池、鈴木、且代ニ會フ 菊池二十円渡ス。川上氏ト関根ニ行キタイヤー三本十年式尾櫓一本一円デ買入レ、阿見ニテ晝食 二時四十分ニテ浅見、木暮氏ト同車シテ帰ル 四時半帰宅 帳簿記入ヲナス

▲▼115ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月18日(水)

天気 晴

時事 姜、安武三式ニテ所沢ニテ墜落死ス

六時四十分宅ヲ出ル 工場七時二十前(ママ)前着 余リ遅レルモノハナカッタ 田中十

二時出 少シ遅過ギル 午後上京セシム

電通十年式東京近郊写真撮影ニ出テ川崎ニ不時着 ラジエターノ爲メ無事 明朝帰ル
トノ電アリ

大蔵所沢ヘヤツタガ川辺カラ直接加藤君ヲ頼ンダトノコトデ帰ツテ來タ

大場藤次郎君來 甲三ホシイトノコトデ六百円デ賣ルコトニス 内五十円ハマグネトニ

個 現金五百五十円内三百円受取り式百五十円爲替ノコト 夕方同道シテ帰宅 泊
ル。本日休業及金収入ノ予定作り西田、今村、田中ニソレ、渡ス

▲▼116ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月19日(木)

天気 晴

七時工場着 大野氏機体到着 大場三型分解ダケ初メサセタ處後チ出荷シタ由聞ク

田中ノ輕擧ト見エル

午後上京 日日及航空懇談会ニ行ク 大蔵和田同道ケール少佐講演アリシモ英語

講演デサラニ分ラズ。ソレデモ邦ヤクシタ謄写版ズリガアッタノデヨカッタ。オレモ少シ

英語ダケハ分ル様ニナラネバイケナイ

帰りニ久シ振リデ浅草ノ電気館デ松竹ノ活動ヲ見ル

▲▼117ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月20日(金)

天気 雨

八時工場出 見習工五六名來タガ田中出勤オソク漸ク十時過ギ出ル。モウスツカリ支

配人氣取りニナルノハ早スギル 報告書作製後明大飛行ニツキ大蔵ト協議 絶対ニイヤ

ダトノコトニ打チヤル。其他種々田中ニツキウツタエル處アリ 田中ノ欠點ヲ最モヨク現

ワシテ居タ、ガ大蔵ノ欠點モ又ソノマ、現ワレテ居タ。兎ニ角機会サエアレバ止メタイ意

志デアルコトハ認メラレタガマダ時機ヲ得ラレナイカラ少シハ大丈夫

午後上京 鈴木ノ変更登録申請 ニュポール検査 大野アプロ検査類提出 日日ニテ

五時追待ツタガ移讓ナシ ヨホド電報ヲ打ツテヤロウト思ツタガ止メタ

▲▼118ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月21日(土)

天気 曇り

七時工場着 八時田中出ル 晝前橋本善昨夜田中ト会谈 万事差圖ニ從フ旨話シタトノコト 大出来デアッタ 其際五百円八月賦デ返スコトニスルカトノ話シガアッタノデアレハ所長ニ貸シタノデ工場カラ何ント云ワレテモ自分ニ即答出来ナイト話シタ由之レハ田中ガ自分ニ一言モナク話シタコトハ僭越至極デアッタ 田中出テ彼レカラ橋本ト会谈シタコトノ話シハアッタガ金ノコトニ言及シナカッタ 彼レ獨特ノ一人ヨガリデアル自己ヲエラク見セヨウトアセル處ガマダ、人物トシテ出来テ居ラナイ 到底自分ノ次席トシテノマダ、貫禄ハナイ マヅ會計ト仕入ガ最モ適任デアル 其他ハマダゼロダ 営業ハ大蔵ガ円満ナ人物ナラ最モ適任ナノダガオシイモノダ

十時ニテ上京 局ニテ大毎九号機ノ補助金願書提出。函根へ陸上アプロノ願書提出方ヲ依頼書類ヲ預ケテ日日ニ行 馬詰ニ会フ 先日ノ百円先方ヨリ取レヌガ廿五六日頃何ントカナルトノ話シデアッタ 吉田馬詰ト晝食ヲ共ニス 四時半漸ク五号機 ■■■
■ 四十一円〇六銭小切手ニテ受取ル。帰宅 夜九時過ギ清平所沢ヨリ帰ル
五号機奨励金願書ヲ作り吉田氏ニ渡ス

▲▼119ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月22日(日)

天気 雨

終日大雨 式月分決算ヲ終リ五月人形ヲカザル 夜七時頃床ニツク 八時頃田中来又十二時迄話シ込ム 田中ニヤラセテ貰フニツイテ、障害ニナルモノヲノゾイテ貰イタイト云フノガ結論デアッタ 目的ハ大蔵排セキデアッタガ障害ヲノゾクコトハ努力スルガ止メサセルカ否カト決定出来ナイコトヲ事ワツテ居ク

▲▼120ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月23日(月)

天気 晴

カラット晴レテマブシイ様ナ日ガサシテ居タ
昨夜屋根ノ上ガミシリ、音ガシタリお金ガ天窓ガガタ、スルトフルエテ来タノデサワギトナリ眠レズ ソレニ小説ヲ讀ミテ三時過ギ眠ル 今日ハ非常ニ眠カッタ
上京 警視廳デ飛行許可証ヲ貰ッタ時明日例ノ竹中ノ飛行ノ件デ九時迄ニ來テ呉レトノコトデアッタ

銀行デ大毎ノ金受取り鳥飼ヘ大蔵ノ件デヨル 丁度行カウト思ツテ居タトコロダトテ一寸話シガアッタガ品川迄行クカラ待ツテ呉レトノコトデアッタガ帰リヲ急イダノト明日ドウセ來ルノデ明日ヲ約シテ帰ル
支拂ヲナス。工場ニ出ルト丁度田中ト大蔵ト話シテ居タガ氣マヅイモノラシカッタ 大毎機來テ呉レトノコトデ準備シテ居タ

▲▼121ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月24日(火)

天気晴

大蔵ト西田ガ大毎五号機ヲ所沢へ空中輸送スル音ヲ床ノ中デ聞ク 五時半
八時田中ト警視廳へ行ク 竹中ノ件ニツキ自分ニ聞カレタガ不在中ノ出来事ニツキ場
主トシテノ責任ハ受ケルガ事実ノ事ハ田中カラ聞カレタシトノベテ田中ヲ呼び入レラレタ。
コンナ場合田中ノ態度容姿ハマコトニ不適當デ如何ニモ恐縮シテ居ル如ク見エナイヤッ
ト一時程デ終リ自今飛行場ノ名儀(ママ)ヲ以テスル場合ニハ田中ハヨサヌコトナド注
意アリ。知覧君ニ東京駅デ合フ 清平ノ履歴書ヲ渡シ岩本博士ニ會フコトヲ依頼ス 局
ニテ検査ノ日取り打合セ宗里氏ノ堪航証明書ヲ貰ヒ鳥飼ニ行キ大蔵田中ノ件ニツキ
協議 尚上野丸万ニテ鳥飼氏ト懇談 両者各自ニユヅリ合ッテ工場ノ発展ニ努力スルコ
ト ソレニ田中ヲ明日鳥飼氏へ明後日大蔵同道自分ガ行クコトニ決定ス。宅へ帰ッたら
大蔵ト西田ガ來テ居タ 今夜ハ別ニ其話シハ出ズ帰ル
夜オソク今村來 橋本又女工ヲ引張ッテ居ルトノコト イヨ、ハダメダ

▲▼122ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月25日(水)

天気晴

八時工場出 田中九時頃出 事務ニカケテハ実ニナッテ居ラナイ 二時頃漸ク出テ行ク
警視廳始末書提出 稲垣田辺金拂ノ爲メ、鳥飼行キ
昨日荒木カラ工場内ノ田中大蔵ニ対スル気分ヲ聞ク 今日橋本ノコトヲ上野カラ聞イ
タツイデニ上野カラモ聞ク。田中大蔵共二人氣ハナカッタ。夕方今村ニモ意見ヲ聞クヤ
ハリヨクナイ。夜西田今村來 菊池ト想(ママ)談ノ結果來タトノコト。結局昨日自分ガ
鳥飼氏ト話シヲマトメタコトト一致シテ居タ

▲▼123ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月26日(木)

天気晴

大蔵所沢早朝ニ行ッタノデ田中ノ件ハ明日ニ持チ越シ 田中鈴木ト警視廳行キ
ソコデ今日ハ橋本ノ問題ヲ解決スベク夕方方應接ニ呼ビヨセ、自分ノ努力ヲ裏切ッタコトニ
対シ責メ女ノ親ニ対シテ自カラ身ヲ引クコトヲ進メ一度国へ帰ルコトニス 三十円出シテ
ヤッタガ十円ダケ貰ヒマストテ工場ヲ方付ケニ行ッタト間モナク、村山ニオブサテ右ノ
足ノ先カラポタ、血ヲタラシテヤッテ來タ スグ宮田ニヤリ別ニ自動車ヲタノミ千葉ノ
醫大へヤル。甲三ノ脚ノ金型ヲ落シタノダトノコトデアッタ

▲▼124ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月27日(金)

天気晴

十時前工場着。本日ノ作業振り思ワシカラズ 今村ガ今少シ、シンケンニナラナクテハ駄目ダ

午後大蔵所沢ヨリ帰ル

兄服部氏ヲ連テ來 鈴木アブロ三同乗サセテ帰りニ谷津デ夕食ヲ共ニシ帰ル

大蔵ニ明日鳥飼氏行キヲ約シテ居ク

田中警視廳行キ 本日モ終ラズ又明日行ク由自宅へ云ヒ居イテアッタ。葛西ガ來タ由菊池ヲ橋本ノ見舞ニヤル 右指ニ本外ニ一所等折リ一週間デ経過ガヨケレバ出ラレル由

▲▼125ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月28日(土)

天気晴

一度工場ニ出テ上京ノ予定ヲ晝迄ニ工場へ帰ルコトニ変更シテ八時上京 早イノデ鳥飼へ先キニ行ツタラ十時ニ帰ルトテ本所迄行ツタトノコト 函根ニ電話スルト午後二時ニ川上氏が來ルトノ事傳ガアッタ由 日比谷ヲ散歩シ三橋亭デコーヒーヲノミ大蔵ノ件ヲ考へ鳥飼ニ行ク。議會ノ爲メ大蔵飛行機ノソバヲハナレナイノデ終ツタラヨコスコトニ打合セテ日日ニヨル 丁度大蔵來テ居タノデ鳥飼ニ同道 スベテ一任スルコトニナツテ先キニ帰ル 後チ二人ヲ使ツテ行クナラ、コレヲオサエル人ガ入ル ソレニツイテ鳥飼案ガアルトノコトデアッタガ要スルニ鳥飼自身乗出ス考ヘラシイ。自分ハ二人共止メサセテモヨイト考エ尚一兩日中ヲ約シテ二時過ギタノデ函根ニ行ク マダ來テ居ラズニ階賣店ヲ見物シ三時デマダ來ラズ 尚一時間應接デ待ツテ見タガツヒニ來ラズ。見積書ダケ預ケテ帰ル 其間田中大蔵ヲ止メサセ鳥飼ノ方モヨクナルノデ其事ニツキ橋本国ヲ明日呼ビヨセルコトニ打電ス。五時半帰ル 間モナク兄モ帰り今夜帰坂スルトノコトニ夕食ヲ共ニス 九時廿五分ニ乗ルトノコトデ清平ト信太郎東京駅迄行カセ自分ハ小供等ト停留所迄見送ル

今日終日田中大蔵ノ事モ頭ヲ使フ 時間ノ都合モ悪シク工場ニ出ラレナカッタ

▲▼126ページ▲▼ 昭和3(1928)年4月29日(日)

天気晴

朝少シシグレタガ後チ好天長節日和トナル

一寸甲ニデ名坂定期ノ計算ヲヤル

晝頃小家モノ水ガ漏ルノデ手入レヲナス

清平ノ友人福原十郎來 晝食ヲ共ニス
食後眠クナツタノデ横ニナツテ居ル處へ田中來 續イテ橋本來 一所デ工合ガ悪イノ
デ田中ヲ一度帰宅サセ昨日以來ノ考ニ基ツキ此際大蔵田中共ニ止メサセルコト、ソレ
ニヨツテ鳥飼ノ野心モクダクコトガ出來ルノデ、橋本善喜モ止メルシ一度ニ方ツクコトニ
ナル 大蔵鳥飼自分交渉 田中ハ橋本ヨリ話スコトニシタ食方外ニ同行サセル。九時
頃電話デ呼びニ來タ 一度コトワツタガ二度目ニ行ク 田中コウフンシテ種々キウハクガ
マシキコトヲ云ノデ、ツヒニ自分モ話ヲ切ツテ勝手ニシロト、ドナリ返ス 後チ彼レ大ニ折
レテ好意的ニ辭職スルコトヲ申出ル 時二午前五時

◆▼127ページ◆▼ 昭和3(1928)年4月30日(月)

天気晴

細カイ打合セハ又後ノコトトシ五時半帰宅 スグ仕度シテ宗里ニ立寄ル 不在 工場行
キ 非常ニ眠カッタガツヒニ眠レズ

安藤小栗等來ル 鳥飼氏來

株式会社總會ノ爲メ菱井氏來。夕方共今一度宗里ニヨル 二日ニ仙台ヨリ帰ルカラ
ソレ迄待ツテ呉レトノコトニ菱井氏ニ氣ノ毒デアッタガ三日夜自宅へ來テ貰フコトニシテ
分レル 帰ツテスグ眠ル 実ニクタブレタ

◆▼129ページ◆▼ 昭和3(1928)年5月1日(火)

天気晴

今日大蔵ニ退所ノ件申渡スツモリノ處出勤八時ニナツタノデ遅レ大蔵上京セシ爲メ申
渡シ出來ズ 今村菊池ニ大体ノ話シヲナス

田中西田警視廳ヨリ四時頃帰ル

夜田中來 昨朝氣持ヨク分レタニカ、ウラズ又々オドカシノ如キコトヲ云ツテ帰ル 明日
又今日ノ様ナコトヲ云フタラ、ウント、トリヒシグベク、アレコレト條件ヲ考ヘル 眠レズ
二時頃シイテ眼ヲツブル

田中ニハウント強ク出レバ必ズヘコム 要スルニ口先キノ男デアル。止メテヨカッタ 大シテ
力ニ出來ナイ

◆▼130ページ◆▼ 昭和3(1928)年5月2日(水)

天気雨

大雨ノ中ヲレンコートナク、キマリ悪ク五時半出ル 七時半川上氏宅訪問 アプロ張替
手金受領ノ件依頼。水上試験ノ時黒米氏來テ貰フコト、尚リバテイー賣込ミ方交渉

書類ニシテ出シテ見テ呉レルトノコトデアッタ

鳥飼ニヨリ田中大蔵ノ件ニツキ自分ノ決意ヲ語リ十円程金借り受ケ局ニ行キ検査日取りヲ七日ニ打合セ拂下品ヲ調べ、橋本国ヲ待チ合セ、同道シテ警視廳ニ西田ノ始末書持参 之レニテ竹中事件スツカリ終ル 田中マダ來ラズ 途中晝食シテ佐藤ニ行ク 佐藤氏ハ温和的ニ解決ヲ希望サレタガ自分ハ當(ママ)底兩立セザルヲ説キ同意ヲ得 田中來 橋本ト三人會見 今日ノ田中ハ意外ニ音ナシク、外部デ材料仕入ヲヤルコト、練習ニツイテ鈴木ヲ頼ムコト 其他二三條件ヲ打合セ佐藤氏ノ御馳走デ六時頃話シハスツカリ好意的ニ止メルコトニ決定。鳥飼ニ報告シ帰宅 頭ガ晴レヤカニナッタ

◆◆131ページ◆◆ 昭和3(1928)年5月3日(木)

天気 曇リ

七時起床 宗里ニヨル ローン120 80交渉ノ件所沢分返送シテ貰フコト 運賃弊所負擔 80ハマグネトツケヌコト 整備ハスル。金ノ件四日カ五日ニ必ず呉レルトノコト 工場ニ出ル

大蔵ヲ呼び昨日ノ決定ニモトツキ云ヒ渡シヲナス 本人ノ意志ハ後チニ菊池今村西田ニ云ヒ渡シテ居ル時二本音ヲハイタ處ニヨルト皆シナデ止メテ呉レルツモリアッタラシイ。ソシテ持チ場ヲキメテ、ヤルト云フコトニナルノヲノゾンデ居タラシイ。尚人格的修養スルコトヲ話シ將來ノコトニツイテハ云ワナイツモリアッタガ余リ不安ラシクテ、カワイソウデアッタノデー一寸モラシテ居ク

夜鈴木菊雄ヲ自宅へ呼び田中ノ練習ノコトヲ依頼 ガンリン代ハ田中ガ持参 機体ノ消(ママ)却費ヲ飛行機ノ破損費ノ内カラ差引事トス。田中來 共ニ出テ行ク。菱井氏來 宗里ノ金取レス事ハル。

今日本月ノ収支予算ニツイテ調べル ヤ、有望

◆◆132ページ◆◆ 昭和3(1928)年5月4日(金)

天気 晴

工場出

夕方大蔵ヨリ田中ト直接会谈ノ結果田中モ折レ自分モ今迄ノコトヲ一切水ニ流シ今後二人共調シテ工場ノ爲メニ働キタイ旨申出アリ 田中ハ自分ノロカラ云ヒニクイノデ大蔵ガ代ツテ話ストノコト 田中ニソレニ違イナイコトヲ首ユウス。ヨツテ雨降ツテ地面マルノ形ニナッタノデソレナラヨカロウト云フコトニシ、スグ西田、菊池、今村ニ話スコトニス 帰途西田ニヨル 田中ガ居タノデスグツヒデニ菊池今村西田ヲ呼びニヤル 今村一人外出中ニテ來ラズ 今日ノ結果ニツキ話ス 皆嬉(ママ)ンデサンセイシタノデ其事ニ決定ス

▲▼133ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月5日(土)

天気晴

局ニテ検査ノ打合せヲナシ函根土地ニテ六百円受取ル 大毎ニテチューブノ金受取ル
鳥飼ニヨリ大蔵田中ノ件話ス 嬉(ママ)ンデ明日來テ呉レルコトニナル 馬詰ニ行キ競技
会ノ打合せ会アリ 高木、徳永、木暮川辺自分 夕食後散会 期日ヲ七月十二日トス
ルコト
帰りニ佐藤ニヨリ大蔵ノ件明日会合ノコトヲ話ス 之レモ嬉(ママ)ンデ承認シテ呉レタ。
橋本へ來ル様電報シタガ帰宅シタラ行カレストノ返電ガアッタ

▲▼134ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月6日(日)

天気晴

大蔵寢テル中ニ來ル 田中モ引ヅキ來。鳥飼佐藤氏晝過ぎ來 コ、デ先日來ノ事ヲ一
切解決シ鳥飼佐藤氏ヨリ二人ニモ希望ヲノベラレル 大蔵スベテ受ケテ田中多ク語ラズ
終ツタ

明日ノ検査ガ氣ニナツタノデ津田沼ニ行ク 田中家内ニ話シアリトテ残ル。自分ガ帰り
モマダ居タ。ソシテマダ大蔵ガ自分ノ下ニ働クコトヲ最(ママ)認シタカラ氣ヲ直シタトカ
負ケオシミ(自分ハ負ケオシMIT見ル)ヲ云ツテ居タ 男ラシクナイ男ダ

▲▼135ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月7日(月)

天気晴

七時過ぎ工場出 スグ今村ヲ呼び大蔵田中ノ件ニツキ話ス 同人ハ自分ノ取ツタ行爲
ガアマリニ早スギタノデ皆ノモノノ中ニ不平者ガアルトノコトデアッタガ、コレ等ハ事情ヲ
知ラナイモノデアルカラ一人一人話セバ分ルガ今村ガ大蔵田中ガ止メルモノト思ツテ
居タガ居据ルコトトナリ大ニ當方違ツタノデ彼レ自身ノ感情問題ト見ラレタ 今夜懇
談会ヲヨク催スカラト云フコトニシテ、鳥飼ヤ検査官ヲ接ス 予定通り検査進行シタガ
函根水上。ペラハヤハリイケナカッタ

夕方懇談会ニ病氣欠勤荒木ハ云ワナカッタノデ知ラズニ帰り、樋口今村ハ云ツテアルニ
モカ、ワラズ出席セズ 非常ニシヤクニサワツタ 田中東京ヨリ帰ラズ、ウヤムヤニ終ツタ
ノデ帰途菊池ニヨリ今村ノ今日態度ニツキ非難シ注意ヲウナガス

菱伊氏來 宗里ニヨツテ帰ル 非常ニツカレヲ覺エル

入浴後シルコロニ杯喰ツテ寢ル

◆▼136ページ◆▼ 昭和3(1928)年5月8日(火)

天気 曇り雨

時事 加藤憲一郎氏外七名ノ葬儀

今日ハ工場ノコトモ気ニカ、ツタガムシロ一日位様子ヲ見ルノモヨカロウト朝約束ノ通り
八時十五分浅草駅ニテ佐藤氏ト会フ 鳥飼氏急用ニテ行ケズ 二人同道茂林寺駅下
車 分福茶釜ノ由來ヲ聞キ、十丁程トノコトニ花山サシテ徒歩デ行ツタラ四十分カッ
タ 廿五丁目アル由

花ハ一寸オソカッタガヨイ花ハ今ガ丁度サカリデアッタ スシトダンゴデ腹ヲツクリ帰り
ハ舟デ館林ニ出デル

一時半太田着 車中高木氏ナドト會フ 丁度葬列ノ途中ニ會フ。寺モ道モセマイノデ
非常ナ困難デアッタ 三時半終リ三時四十分ノ電車ニ乗ル 雨が降り出シタ 帰りハ
中務君ヤ信田君ト同車ス 中バ以上眠ル 今日ハ非常ニツカレヲ覺エタ

◆▼137ページ◆▼ 昭和3(1928)年5月9日(水)

天気 雨曇

近頃非常ニツカレヤスイデ今朝熱ヲハカッタラ卅六度九分アッタ 平熱ヨリ少シ多イ。
ドウモイヤナ予感ガシタ

工場ニ行ツタラ九時 マツ今村ヲ呼び極力諒解セシムベク言葉ヲツクシ又一昨日ノ行爲
ニツイテハ非難シイロ、ヤツタガ中々ガンコナヤツデアッタ 尚考ヘル様命ジ、樋口ヲ呼
ビ聞ク 予期シタ通り樋口ナドニハ、ソシニアノ問題ニハトラワレテ居ナカッタ 大友休
ンデ居タノデ樋口ヨリヨク話ス様ニシテ上野ヲ見舞フ 春秋ニ必ズヤル目舞ガ起ルノデ
休ンデ居ルトノコトデアッタ。田幡ハ郷里ニ帰ル予定ノ由樋口カラ聞ク

午後上京 局ニ鈴木ノ奨励金ノ件不許可ノ理由ヲ森川氏ヨリ聞ク 九日検査後十二
日迄使用シタダケデ全部張換エデハ金ガ出セナイノガ理由デアッタ 尚今年ハ昨年ノ
様ニムヤミニ出サナイ方針ニナツタノデ今後ノ注文ヲ取ルニハ注意スル事ニス。

清平所沢ヨリ帰ル

◆▼138ページ◆▼ 昭和3(1928)年5月10日(木)

天気 晴

七時前工場着 今日ハ大友ガ休ンダ外皆出勤シタガ夕方方気が着イタガ前二田中ガ十
日迄ニ給料ヲ渡スト話シテ居タ爲メラシカッタ 尚今村ノ態度面白カラズ 夕方大友
宅ニ今村上野田幡ナド打寄ツテ話シ合ッテ居タノデ、菊池宅ニヨリ万一ノ場合ニ菊池
ヨリ今村ヲ説カシムル事ニシテ帰宅ス 発動機ノ方ハ今日ノ處皆ヨシ

▲▼139ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月11日(金)

天気 曇少雨

今日ハ一日頭ノ重イ日デアッタ 八時ヨリ上京 振替貯金局ニ行ツタガ今日ノ金ニナラズ困ツタ 局ニ行キ鈴木補助金願書兎ニ角受付ケテ貰フコトニナル。尚遠藤ノモ引カツテ居ルトノコト 之レハ課長ニモヨク今後ノ事ニツキ諒解ヲ得ル必要アリト思ワル。大野、猿田堪航証明日ノ事

鳥飼ニ行キ晝食ヲ馳走ニナリ三十円十三日夕方迄ノ約束デ借り受ケ博覧会ヲ見テ帰ル 別ニ何ノ感モナイ。工場ノ事ノミ氣ニカ、リ明日大蔵菊池今村三人ヲ自宅ニヨビ話シテヤルコトニシヨウト思ツタリシタ

▲▼140ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月12日(土)

天気 曇リ雨

颱風ヲオソレタガツヒニ無事デアッタ

今日工場デハ樋口休ミ外皆出テハ居タガ、タイ業氣分甚ダシク今村ノ處置ニ腹ガ立ツテタマラナカツタ

田中ヨリ大蔵ニ対スル希望、今後ノセイ約書ノ如キモノヲホシイトノ事デアッタ

▲▼141ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月13日(日)

天気 曇少雨

五時自宅ヲ出テ森川氏訪問 七時鈴木ノ件ヲ依頼 局其他ニツキ意見ヲ聞キ、大久保鶴林館三川畑氏訪問 同道シテ帰宅 晝食後工場ニ行ク 丁度鈴木ガ東京ヘヒラ撒布ニ行ツテ帰ツテ來タノデ乗セテ貰フ 谷津ニテ茶ヲノミ四時帰ル 大蔵荒木門松西田、等照(ママ)介

▲▼142ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月14日(月)

天気 晴

午前西田大蔵菊池今村金谷。大蔵ニ対シ菊池ヨリ意見ヲ述ベ西田菊池大蔵間ニ諒解ナル 今村尚考慮ヲ乞フ 菊池ニマカセル 田中協会ヘ荒木ノ件行ク ハーモンド百円延期 夕方田中ヨリ電報アリ 二十日ニナルトノコトニ大蔵ニ明日銀行依頼ノ件命ズ

帰途宗里ニヨリ帰宅 菱伊氏待ツテ居タ 宗里金取レズ明日ノ拂下金不足 夕食後共

ニ上京 押上ヨリ佐藤氏へ電話シテ三十円借用申込み明朝受取ルコトヲ約シ押上ニテ分レ帰宅ス

▲▼143ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月15日(火)

天気 曇リ

六時宅ヲ出テ佐藤宅ニヨリ三十円借り受ケ七時東京駅着 七時半川上氏來 三十円預ル 精養軒ニテ休ミ八時三十二分ニテ信田君ト同道田浦二十時着 手續キヲ終リ二時五分ニテ且代ト帰ル 三時三十分ダツタノデ局ニヨリ大野ト猿田ノ願書ヲ森川氏ニ見セル 預ツテ居クトノ事 鈴木ノ件課長ノ諒解ヲ得ル必要ナキヤヲ聞ク 一寸待ツテ呉レトノコトデアッタ。坂地氏訪問 不在 店員ニ金ノ件延期ヲ交渉 百円三十円ヅ、入レルコトトシ今月末三十円 來月ニヶ月分ヲ約ス 手形ヲ書イテ呉レトノコトデアッタ 一三二日中ニ届ケルコトトス 知覧君ニ立寄り、六時イケス三川上氏訪問 拂下ノ精算ヲシテ一寸馳走ニナリ帰宅 大野ト鈴木君ガ來テ待ツテ居タ 種々勞ヲ取り十一時頃帰ル 漸ク五百円ニテ話マトマリ明日覺書ヲ書キ効力發生ハ鈴木帰国調印ノ上ノコト

組立全部サボツテ居タトノコト

▲▼144ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月16日(水)

天気 曇リ

清平ヲ先キニヤリ自分十時工場ニ出ル。サボリ方ハナダシクタ方今村ニコン、話ス今村ツヒニヤリ切レズ自分ニ話シテ呉レトノコト 尚今村一時国へ帰りタイトノコト 之レハ大々自分ノ意ニカナツタノデ早速承認ス

帰 眠クテタマラズ食後スグ床ニ入ル

▲▼145ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月17日(木)

天気 曇リ

八時工場出 樋口、大友、上野、田幡、門松ノ順序ニテ話ス 樋口ノ言葉ニ前月三千余円ノ収入ヲ五百円ヲ工場ニ使ヒアトハ所長ガドウシタカ分ラナイトノ風説アリトノ事デアッタ。ヨク事情ヲ話シタノデ反(ママ)ツテ諒解ス。ソレニシテモコンナコトヲ云ヒフラスिताノハ一体何モノガ ドウモ田中ラシイ六感ガスル

上野ダケハ止メルガ一月程居イテ呉レトノコトデアッタ ヨク考慮スルコトニ云ヒソレニシテモ仕事ダケハ完全ニヤルコトヲ誓フ 女工ハ本日全部休ンデ居タ。村山來 ペラ削リ直シタガツヒニモノニナラス

帰途電車ノ中へ大蔵田中ノ誓約書草稿ヲ忘レテシマッタコトヲシタ
石垣弟來 東京へ來テ金ヲ落シタカラ金ヲ貸シテ呉レトノコトデアッタ
橋本ノ叔父來場 会見ス

▲▼146ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月18日(金)

天気 晴

午前上京 森川氏ニ会ヒ鈴木遠藤ノ分頼ム 當分預ツテ居クトノ事デアッタ ドウモハ
ツキリシナイ 佐藤商店ニ立ヨリ協会へ電話シテ月曜日貰フコトヲ約シ一寸帰場 今村
スデニ出発シタアトデアッタ
田中上京セシム 買物其他
銀行大蔵ヤル
夕方帰ルト橋本ガ來テ待ツテ居タ。遠藤ト奥山ノ補助金ノ件及差當リ金ノ件デアッ
タ 今迄相談ニコナイノガ不思議ナ位デアッタ。奥山ノ残金明日事情ヲ話シテ貰フコト、
明日午後森川氏訪問ノコト 奥山同道セシム

▲▼147ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月19日(土)

天気 晴

田中出勤ナシ 上京セシモノト思ワル
今日ハ女工モ出デ仕事モハカドル様デアッタ
楠計算シテ解雇ス 尚特別工全部ヲ呼ビ訓示ヲナス
十二時頃田中帰り岡田怒ツテ居リ自分ニ会フトノコトデアッタトノコト
所沢ヨリ電話アリタリトノコトデアッタ 廿一日奥山機試飛行ノ件。ペラナイトノコト
森川氏訪問シタガ濱名氏ガ居テヨク話シガ出來ナカッタトノコト

▲▼148ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月20日(日)

天気 晴

終日在宅 収入ト支出ヲ計算シタガドウシテモ予算ガ成立タナイ イヤニナッタ 気持
悪ルク終日ヲ終ル
ドウシテモ飛行部ヲ活動サセテ月収三百円以上上ゲサセネバナラヌ 今日ノ収穫ハコ
レダケデアッタ
夜田中來 明日協会田中ヤルコトニス 引越シ二百円程入用トノコトデアッタガ決定ヲ
見ルニ到ラナカッタ

▲▼149ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月21日(月)

天気 晴

今朝○時半地震アリ カナリ急ナ大キナモノデアッタ 小供ヲ皆引起シテ家内ハ外ニ飛ビ出シタ

工場行 三時半田中協会ノ荒木ノ奨励金ヲ貰ツテ帰ル 銀行入レタトノコト ホットシタガ百円田中ガ天引 ハーモンドニ支拂ツタ受取リヲ持ツテ來タガ仮領収書ヲメモニ書イタモノダカラアテニハナラナイ 何ニシテモ皆ニヤル金ガ百円タラズシカナイノデ苦心シテ分配ヲ極メル 四時スグ出カケル 上野ニテ青バス内ニガマロヲ落シスグ氣ガツイタノデ上野カラ引返スノヲ待ツテ貰フコトガ出來タ。東京駅ニテ川畑氏ニ会フ 今朝ヤツト鈴木カラ取ツタ三十円ヲ其マ、渡ス アト二十円出來ナカッタコトヲコトワル 大坂へ今夜出發スル由

東京會館ニ伊藤酉夫氏ノ結婚ヒロウニ行ク 立派ナ披露会デアッタ 九時過ぎ終ル 相羽、野沢氏ニサソワレタイヤーヤバツカスニツキアッテ大蔵ト帰ル

▲▼150ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月22日(火)

天気 晴

五時半起床 七時五分前ニ工場着 崔ヨリ食費十円受取ツタノデ五円ヲ置キ五円デカスキケ浦ニ行クベク九時出ル 自宅ニヨリ仕度シテ金町十一時四十分ニテ行ク 開花ニ行ツタガ十年式ノ翼ガヤ、ヨイモノガアッタガアブロハ胴体ノ悪イノガアッタノモ、タイヤーニ本ダケ買ツテ土浦ニ出津久井ニヨツテ見タガ何ンニモナシ 五時十五分ニテ帰ル 七時十五分帰宅 菱伊氏今帰ツタトノコト 明日又來ル由。伊藤光義來 後援者ノ伊藤勲氏同道 明日遠藤ト乗池君ノヲ聞イテ見ルコトヲ教エル 其他ニ家ノガ出來ル迄待ツ外アルマイ

不在中荒木ノ兄ニ等ニナツタ禮ニ來タ由 ■■花ニ本アッタ

▲▼151ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月23日(水)

天気 晴

ウス曇リ 温度高シ

七時工場出 今日ハ皆ヨク働イタ 鈴木ノ甲ニ完成ス
田中三時半頃東京ヨリ帰ル 無断上京ハ要領ヲ得ナクテ困ル 田辺ト稲垣へ行ツタ由 宗里ニ山田氏帰ツタトノコトニ帰途ヨツテ見ル 行違ヒ八津田沼へ行ツタトノコト 金ハ僅カシカ取レナカッタトノコトデアッタ

今日ハ非常ニクタバビレタ 帰宅 夕食後散髪ヲシテ入浴モセズハダカノマ、横ニナツテスグ

眠ッタ

▲▼152ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月24日(木)

天気 曇り雨

今朝早起キニクク八時迄眠ル 漸クハッキリシタ ドウシテ昨日ハアンナニ、ツカレタノカ
不思議デアッタ

今日ハ和服で行ク

ツバサノ宣傳飛行デ十年式デ千葉ヲ飛ブ

夕方ヨリ千葉ノ高橋辨ゴ土へ運送屋ノ件ニツイテ行ク 不在 明日モ不在ダガ六時頃
六帰ルダロウトノ事デアッタノデ明日ヲ約シテ帰ル

夕食後床ニツク 実ニ眠イノニアキレル程ダ

▲▼153ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月25日(金)

天気 晴

田中今日ハ初メテ八時過ぎニ出勤 東京へ買物ヤ検査ノ件デ上京サセル

今日午後思ヒツイテ應接ニリノルームヲ引クベク整理ヲナス

夕方終ツテカラ千葉へ白井保太郎借金ノ件ニツキ高橋辨ゴ土ヲ訪フ 本年ノ決算期迄
其マ、待ツテ貰ヒタイ旨事情ヲノベル マ、一ヶ月強ニ何ントカ具体的ニ案ヲ立テテ貰ヒ

タイ 來月五日迄ニ返事シテ呉レトノコトデ案内ヤサシカッタ スグ帰宅 橋本善喜帰

国ニツキ弟迎ニ來 夕方ヲ共ニス 五百円ノ借用証書替エヲナス

菱伊氏來ル 明日宗里ノ方聞イタ上電報打ツコトヲ約ス

十一時床ニツク

▲▼154ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月26日(土)

天気 晴

七時前工場出 樋口休 大友來ラズ 見舞ニ行ツテ見ル 樋口床ニツイテ居タガ大シタ

コトハナカッタ様 大友昨日上野ニツイニ行ツテ今日帰ツテ來タ由 後出勤 上野ノ父ハ

上野ヲ勘當シタ形ニナツテ居ルノデ家ニ入レズ困ツタトノコト 母ノ情ケデ叔父ノ家へ連

レテ行ツタ由 直ツタラ母ガツイテ來ルトノコトデアッタ

今日ハ女工ハヨク働ライタ

明日休ミニツキ金ヲ都合シテヤリタイト思ツテ大蔵ニ猿田ニ話サセタガ結局月曜日ト

云フコトニナル

應接室整屯(ママ)ヲ終ル

夜七時帰宅 夕食後伊藤光義來 仙台へアプロヲ借りニ行クトノコトデナルベクナラ宗里ノヲ借りテ金ヲ工場ノ方へ送ルコトニ話シテ出發サセル

▲▼155ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月27日(日)

天気晴

廿時工場出 終日現場ヨツタノオ非常

今日ハユツクリ寢ル 終日何ニヲスル氣ニモナラズ無(ママ)ス事ナク終ル 田中午後十一時來

何ンダカオシイ様ナ氣ガシタ

田中午後來

▲▼156ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月28日(月)

天気晴

七時十分前工場出 今日ハ皆ヨク働イタ

中川駒林氏來場 函根水上、鈴木甲三完成終ル

猿田水上、内甲三内部検査終ル

晝頃伊藤光義來 今夜仙台ニ再ビ行クトノコトニ荒木午後ヨリ同行サセル 自分ト後

援会ノ伊藤氏ト船橋ニ行キ東京ヨリ取引スベク共ニ上京 銀行間ニ合ワズ明日ノ事ニナ

ル。帰宅 今日ハ空腹ノ金デ僅カニ上京 自宅ノ八百屋其他一切先月分ガマダナノデ

氣ノ引ケル事 水田ニモカワイソウデアッタ 明日宗里弍百五十円呉レタラ少シ支拂ヒ

ガ出來ル予定

橋本国來テ居タ 夕食後九時過ギ帰ル 之レモ金ガナクテ工場ニモ居ヅライラシク氣

ノ毒デアッタ 明日大毎デ会フ約束ヲス 田中所沢ヘヤッタノト行キ違ヒニナツタ

▲▼157ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月29日(火)

天気晴

七時半工場着 午後上京ノ予定デ局ノ検査願ヤ何ニカトイソガシカッタ 十時大蔵ヲ

船橋ニヤル 二時頃帰ル 百六十五円ヨリ取レズ 時間ガ遅レタノデ上京ヲ中止ス 菱

伊、高見大毎へ電報電話デ明日行クコトヲ知ラセル

川上計算書ヲ作り奨励金願書ヲモ作ル

明日猿田金呉レトノコトニ給料支拂予定ヲ作ツテ大蔵ニ渡シテ居ク

上野帰場 尚二三日休養サセテ呉レトノコトデアッタ

田中本日來ラズ 多分昨夜所沢デ泊ッタモノト思ワル

▲▼1588ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月30日(水)

天気 晴

暖イ日デアッタ ユックリ起キテ九時宅ヲ出ル 先ヅ函根土地ニ行ク 川上氏居ラズ書類ヲ預ケ立替ノ廿五円七十五錢ダケ受取り局ニ行キ検査願提出 猿田ト大野ノ分又書キ直シノ點アリ イヤニナツテシマウ

日日ニ行キ吉田君ニ会フ 晝食ヲ共ニシ來月三日頃迄ニ何ニカ百五十円バカリトノコトデ考ヘテ居クコトニス 鳥飼ニヨリ、佐野ニ行キ手形渡シ今月分ニ三日延期ヲ乞フ。航空研究所ニ栖原氏訪問 清平ノコトヲ依頼ス 製圖ト履歷書ヲ持参スルコトトノコトデヤ、有望

高見氏訪問 少シシテ川畑氏來 六時過ギヨリ〇局へ案内シタ食ヲ共ニス 十八円余取ラレ、オシカッタ 宅へ帰ツタラ工場カラ五十円來テ居タガ先月分ダケ支拂ツカズ家内ノコボスコト

▲▼1599ページ▲▼ 昭和3(1928)年5月31日(木)

天気 晴

終日工場 清平ツレテ行ク

局援助ノ書類作製ニ終日ヲツヒヤス

▲▼1611ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月1日(金)

天気 晴

正午頃鈴木菊雄ト上京 局ニ行キ技術課長ニ鈴木ノ研究所関係ニツキ諒解ヲ得テ同人ノ甲三奨励金願書提出 登録証堪航書受領。目下作業中ノ作業見込書三通提出 内函根ノ分ダケ発動機ガナカッタノデ持チ帰ル

丸ビル中央亭デ鈴木ガ御馳走スルトテ晝食ヲ六時頃共ニス。上野ハ函根へ這入ル計畫中ナリトノコトデアッタ

日日ニ吉田氏訪問 ラジエターヲ渡スコトトシテ領収書ト計算書無記入ノマ、渡ス銀坐ノ元ノ家ヲ見ニ進(ママ)ツタガマダ手ガツケテナカッタ

内外へ二度電話シタガ坂地氏不在 店ノ人ニ六日行クコトニヨクタンデ帰ル

▲▼1622ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月2日(土)

天気 大雨

七時半工場出 ドウモ朝起キニククテイケナイ
机ヲ應接室内へ移轉 何ンダカ落ツイタ気分ニナッタ 作業ガ殆ンド上ガッタノデアト
「サル」ト三葉ニカ、ルヨリ外ナクナッタ 「サル」ノ補助金ガヨホドウマクヤラナイト問題
ダ。三葉モ利用ノ道ニヨツテ作業ヲヤラナイト一寸困ルノデ川上氏ニ会フ必要ガアル
田中身体ヲモテアマシテ何ニカ仕事ヲト請求シテ居タノデ明日営業方針ヲ立テルコトニ
シ橋本ニモ來ル様上京シテ電話カケサルコトニシタ
大友へ午後大蔵ヲヤル 妻君ト打合セテ付添ヲ付ケル事ニハ妻君ヲ付添ワセルナラ其間
小供ハ工場デ食事サセルコト
三分記帳ヲ終ル
終日雨ヤマナカッタ

▲▼163ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月3日(日)

天気 晴

八時起床 午前責(ママ)務合計ヲナシ固定収入手形等ニ区別シテ見ル 合計十万四千
余円 一万円アレバキレイニナル 十年頃ナラ半月分ノ経費ナンダガ金ト云フモノ即チ
信用ト云フモノハエライモノトツクゞ、思ワレタ
午後大蔵田中來 以上ノ事ヲ話シ営業部ノ活躍ヲ希ム。田中尚工場内ノコトニツキ意
見アリシモ其必要ナシトス

▲▼164ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月4日(月)

天気 曇リ

七時清平同道工場出 水上完成 三葉トサルニ着手ス
今日明日ノ手形ニツキ打合セ田中上京セシムルコト
大蔵ニ前田交渉セシム
三分分決算ヲ終ル

▲▼165ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月5日(火)

天気 晴

清平出勤 夕方ヨリ千葉ニ大友ヲ見舞ヒ高橋辨ゴ士ニ会ヒ確答延期ヲ乞ヒ歸ル
橋本国秋田ヨリ歸ル 金ツヒニ取レズカワイソーデアッタ 十時頃菱伊氏來 明日函根
ニヨツタ結果ヲ局ガ通知スルコトノ約束ヲナス

▲▼166ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月6日(水)

天気晴

上京 川上氏訪問 不在 三葉改造旅客機ノ圖ヲ預ケテ局ニ行ク 釜石其他ノ人々ト改造ニツキ打合せ大体ニヨシト云フコトニナル。晝菱伊氏ニ会フ 出多羅目デ氣ノ毒トハ思ツタガ止ムヲ得ヌノデ川上氏不在ヲ幸ヒ金取レヌコトニシタ。橋本國ニ会ヒ航空研究所ニ行キ栖原博士ニ清平ノ圖面ヲ見セ履歷書ト學校ノ証明書ヲ預ケテ帰ル。鳥飼ニヨル 何ニカ用事ガアルトノコトニ内外ニ行キ三十円支拂ツテ再ビ帰り五時頃迄待ツ所沢拂下ノ事デアッタノデ所沢ヘ電話ヲカケルコトヲ依頼シ車輪ノブシノイモノヲ頼ンデ帰ル

◆▼167ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月7日(木)

天気晴

清平ト工場出

辻本坂本両氏來場 十年式検査

田中上京サセル

三葉ノ利用法トシテ銚子カラ魚河岸ヘ魚ノ輸送ヲ思ヒ立チ尚定期モ計畫シ猿田ヲ通ジテ銚子ノ方ヲマトメ東京ハ東京デ進メルコトトシ先ヅ東京方面魚問屋組合長ヲ訪問サセルコトニ打合せヲナス
今ノ處仕事ハ皆仕上ツテ注文仕事ハ一ツモナク内ノ三葉トサルダケナノデ少シ心細イ

◆▼168ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月8日(金)

天気晴

清平同道工場出 田中出 上京サセル 昨日ハ又マダ魚組合ニ行カナカッタトノコト

今日ハ最(ママ)非行クコト 尚川上氏ニ会ヒ金ノ件ヲ火曜日ニ貰エル様頼ミニヤル

大蔵西田、猿田ノ招待デ水郷メグリノ爲メ午後休ミ 明日一日清遊ノ由 ツイデニ三葉計畫ヲ話シサセルコト 金件モ話サセル

夕方引ク時ニ菊池ヨリサルノ右脚客車便デスグ送レトノ電アリ 送ツテヤルト日時ハ手紙ヲ出ト電報デ出ス

後藤三太氏ヘ來週中ニ多少製作案ヲ以テ御伺ヒスルコトノ返事ヲ出ス

村山明日ヨリ出勤スル由

田中ガ飯島君ニ聞イテ來タ處ニヨルト佐野ハ早川氏トケンカ分レニナツテイシ、松サンチドモ遊ンデ居ルトノコトデアッタ 午後ソレカラヌカ、イシカ佐野ノ手紙ヲ持ツテ早川氏ニ渡シタ金ノコトヲ聞キニヨコシタ

◆▼169ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月9日(土)

天気晴

工場出 場内三葉一台ダケハダカノ作業中ノモノ 何ンダカ淋シイ感じガシテナラナイ

木下來 三型ヲ持ッテ來ルカラ整備シテホシイトノ事デアッタガ補助金ノコトヲハナス
尚ソレデモスデニ發送シタカラ明日來ルカヲトノコトニ其上見テ見積リヲナスコトトス
午後イシ來 佐野ノ手紙ヲ持テ早川氏ニ渡シタ金ノ高ヲ聞イテ來タ イヨ、事案ラシ
イ

▲▼170ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月10日(日)

天気晴

快晴 今日ノ水郷メグリハ大當リデアッタ

午前中庭ノ手入レヤ朝顔ノ鉢植ヲナシ一段落ツイタ處へ高見氏來 ドウニモ金出來ズ
結局千円ガ出來ナケレバ五百円デモ作ッテ呉レトノコト コトワル事ハ出來ナイ金デモ
アルガ出來ル見込ミモナシ 兎ニ角努力シテ見ルコトトス 色々考ヘガツヒニ今日ハ成案ナ
ラズ明日ノコト

夜九時半佐々木工場ヨリ來 本日午後二時頃松田學校機ヨリ飛行中墜落 同乗者ハ
死シ松田ハ千葉醫大二入院セリト 大蔵今帰ッテ來タトノコト。鈴木ガ居タノニ今頃知
ラセルトハ氣ノキカナイ話シダ

倉庫ノカギヲ渡シ大蔵ニ取ツカイク様云ヒツケル

▲▼171ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月11日(月)

天気晴

入梅ダガ快晴 八十度カラニ昇ル 田中昨日モ上京シタト云フガ殊(ママ)ンド仕事出
來テ居ラズ今日又上京サセル オートバイモ持ッテ來テ居タ

六時半川辺宅ニ寄り松田ノ見舞ヲ述べ長屋ニ行キ死体ニ礼ヲシテ工場ニ行キ長屋デハ
余リキタナラシイノデ設計室ヲ方付ケ死体置キ場ニアテルコトトス 棺ノ事デ少シゴタ
ツイタガ決極(ママ)寢棺ニス 初メカラ僅カナコトヲケチニスルカライケナイノダ。夕方
少シ長ク居テ通夜ノ代リトシテ八時半帰宅

高見氏ノ件ニ六田中ヨリ電話サセテ居ク マダ何等ノ成案ヲ得ズ。千葉ノ高橋辨ゴ土モ
手紙デコトワッテ居ク

藤田武明來 勘定ヲ呉レタノデ大野ヲスグ花ノ香奠ト川辺ノ見舞ヲヤルコトニシ包ム
藤田ヨリ佐野ノコト聞ク シバラクゴタ、シテ居タガ事実トノコト アトハ早川ノ手ノモ
ノガ代表者デアアル由 ウマクシテヤラレタノダ。カワイソウダガ自業自得 女中責メソコ
ネノ形デアアル

▲▼172ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月12日(火)

天気晴

予報デハ降ル、ト云ツテ中々降ラナイ 今日モ熱イ日デアッタ

ユツクリ起キテ十時清平ヲ連レテ出ル 航空研究所ニ行キ田中助教ニ会フ タゞ一度会ツテ居クノダトノコト 採否未定 清平スグ帰宅サセ自分局ニ行ク 別ニ用ナク午後一時函根土地ニテ川上氏ニ会フ 十五日残金呉レルコト會計ノ齊藤氏カラ話シアリ。高見氏ノ件ニツキ川上氏ニ五百円程話ソウト思フ内來客アリ 中々帰ラナイノデアキラメテ日日ニ行ク。飛行場ヲ見ニ行クトノコトニ同道 鶴見ニ行ク 途中パンクシタノデ其間ニ羽布引取ニ関シ話シ明日福知氏上京ノ上想(マ)談ノコトニ決ス

六時頃帰り鳥飼ニヨリ夕食後高見氏ニ電話スル 芝ノ南川庵ニ居ルトノコト 來テ呉レトノコトニ行ク 奉天ニ居タ川本氏外一名ノ招待ラシク碁ヲヤツテ居タノデ散会ガ十一時ニナル 昌平館ニ行キ泊ル

昨日出來ル四百円ガ出來ナカッタトノコトデ大坂ノ遠藤ハ今夜モ來テ三時間モ宿ニ待ツテ居タ由 大連ノ方ハ十六日迄日延べ出來タトノ電ガ來テ居タ

▲▼173ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月13日(水)

天気晴

一度帰宅後工場行き 丁度十二時ニナル 花ノ父叔父ニ会フ 父病身ノ爲メ一先ツ先キニ帰エス

二時頃葬送 船橋火葬場迄行ク 帰ヘタラ丁度五時。所沢カラ大勢職工ガ來テ居タ聞ケバ橋本ガ三日バカリ帰ラナイトノコト 色々話シノ末四日カラ十円貰ツタ切りデ米屋炭屋ガ呉レナクナツタトノコトデ三十円浦山ニ預ケ橋本ガ多分行違ヒニ帰ツタト思カラ同人ニ渡スコト スグ帰ツテ居ナカッタラ適當二分ケルコト等外ニ旅費ヲヤル 此頃ヨリ雨ハゲシク食事ヲサセ傘ヲ買ツテ帰ヘス。今朝ノ電報デ田中ヲ所沢ヘヤツタ處氏ハ帰ツタラ田中ガ來テ工場へ行ツタトノコトデアッタ 橋本ノコト何ニモ分ラズ

▲▼174ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月14日(木)

天気雨

定時工場出 雨ヒドク閉口 明日函根金受取レルノデ請求書ト領収書ヲ作り田中ニ明日ノ打合セヲナシ午後一寸高見氏ノ金作ルベク出ル 鈴木骨上ゲヨリマダ帰ラズ 待つ間散髪ニ行キ川辺宅ニテ会フ 三時過ギ川辺ヲ出テ途中デ高見氏ノ爲メニ必要ナ金ニツキ金策ヲ相談 結果今夜崔ノ練習費ガ貰エタラトノコトデ頼ンデ帰宅後着物ヲ

着替上押上迄行き高見氏ニ電話シタガ不在 ソレヲシホニスグ引返スアトヨリ高見氏
來 明日ヲ約スア、実ニイヤダ、、

▲▼175ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月15日(金)

天気 曇り雨

今日ハ八幡小學校デ電話ノ打合せガアルノデ行ク 一人五十年配ノ人ガシキリニ金額
一度ニ前金拂込ミヲ主張シテトク、トヤッタガアマリ誰レモ何ニモ云ワズ心デハ反对者
ガ多イラシイデ自分止ムナク其不可能ヲ論ズ 結局三十円拂込ミ決定シテ十一時ニ
ナツタノデ先キニ失礼シテ工場ニ行ク。鈴木百円呉レタノデ大助カリ 之レデ幾分高見
氏ニ対スル責ヲフサグコトガ出來ル

田中帰ラズ。帰宅 上京ノ予定ナリシモ行キタクナカッタノデ、キンニ八十円ダケ持タ
セ手紙ヲソエテ高見氏宿ニヤル 行違ヒニ高見氏來 眠ク早く來テ呉レトノコトニ承知。
橋本國來。田中來 久シ振りデ十一時シヤベテ帰ル 今後ノ方針ニツイテ自分ノ外部
積極主義、田中尚内部云云説デアッタガソレデハ機会ヲナクスル、オソレアリ

▲▼176ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月16日(土)

天気 曇り雨

スツカリ梅雨気分デイヤデアッタ 橋本ト共ニ上京 スグ高見氏訪問 マダ金出來ヌラ
シク何分タノムトノコトデアッタガ自分ニモアテナク兎ニ角局ニ行ク 課長ニ大蔵ノ飛行
ノ件話ソウト思ツタガツヒニ機会ヲ得ズ。吉田氏ニ会フ 羽布ノコト想(ママ)談シタガ今
如何トモ出來ナイトノコトニ止ムナク朝日へ行クコトニス 函根ニヨツタガ不在 商工会
議所ニ秋田氏訪問シタガ不在 日日高見氏ヲ待チ合セ福知氏ニ会フ。高見氏ト花
月デ晝食ヲ共ニシ朝日ニ行ク 久シ振りデ早川久松氏ニ会フ 羽布ヤハリ安イモノヲ買
ツテ居ルノヲ話シセズ、出ル 三菱ノ後藤氏ニ局デ会ツタノデ三時頃会フ約束ヲシタノ
デ行ク 時間ガ早イノデ函根ノ川上氏ニ会ヒ三菱ノ件交渉シタガマダ何等成案ナシ
三時五分後藤氏訪問 結局三菱ト十年式ノ整備補助金半分ヲ内入スルコトニ約ス。銀
坐へ廻リ高見氏ニ電話シテ菱伊サンニ五十円持ツテ行ク 大貫ニ預ケテ帰ル 上野ヨリ
又高見氏ニ電話スル 不在 帰宅 河原木熊本ヨリ帰り來ル 練習ノコトニツキ相談
十時頃帰ル

▲▼177ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月17日(日)

天気 曇り

午前中庭イジリト日記其他

午後二時ヨリ上京 知覧訪問 箕浦氏ニ明後日朝会ヲ約束ヲシテ帰りニ高見氏へ電話ヲシテ見タガ今日ハ御帰りニナラナイトノコトニスグ帰宅

夜鈴木ト渡辺ノ兄來 鈴木ノ貸金ト渡辺ノ借金ヲ差引シテ呉レトノコトニテアツタガ、只今ノ處帳簿上出來ナイガ何ントカ方法ヲ考ヘテ居コウト云フコトニス 尚補助金出ナイ時ハ半額ニマケテ呉レ、之レニ對シテハ補助金ノコト決定ノ上キメル事。然シ補助金ニ注文主ニ出ルモノヲ工場ニ出ルモノデナイコトヲコトワツテ居ク 格納庫料五十円ノ割ニ外へ飛行ニ出タ場合平均一ヶ月 ■円ノ仕事ヲ五回ト見テ一割ヅヽヲ出スコトニシタイトノコト 之レニモ練習時間ノ部分ヲ加エルコトヲ要求シテ居ク 以上ノ如クスベテ不調田中丁度來テ居タ 自カラ工場現在ヲ承認 外部ニ活躍ノ申出アリ 我意ヲ得タルモノ

▲▼178ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月18日(月)

天気 曇り晴

定時工場出 清平同道

大藏午後一時所沢着 スグ大坂へ三時ニ出発セリトノ入電アリ
田中晝頃出 大野ノ金出タ通知ニヨリ請求書ヲ出スコトト佐藤へ三型ノタイヤノボスヲ取りニヤル 然ルニ請求書ノ判ヲ宅ニアルカラト云ツテ居イタノニ帰ツテ見ルト判ヲ押しニ寄ラナカッタ由 不都合
高見梅田氏來 谷津ニ行き晝食 梅田氏ニモウカル仕事ナラ金ヲ出スモノアリトテ事業計畫ヲ聞キニ來タ訳ケ 定期ノコトニ葉ノ利用性等話ス

▲▼179ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月19日(火)

天気 雨

終日工場 辻本駒林氏來 甲三雨中三十分大藏飛行シテ無事終ル 三葉内部検査モ終ル 安藤水上モ一寸下見シテ貰フ フロートニ疑點アリ 安藤へ照介(ママ)ス

▲▼180ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月20日(水)

天気 曇雨

定時清平ト出勤 菊池帰場 明日ヨリ出勤ノコト
工場モヤヽニギヤカニナツテ來タ 全員ニ葉ニ努力ス
猿田ニ交渉 クレルジニテ三百円内金ヲ取ル

▲▼181ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月21日(木)

天気 曇少雨

定時出勤清平同道定時出 菊池本日ヨリ出勤 自分八時四十分航空局行き 猿田ノ陸上補助金ニツキ経歴拂下月日相違ノ點ヲ辨明シ十年式補助金出ルコトヲタシカメスグ帰ル 途中高見氏へ電話シタガ不在 十一時半工場出 大蔵大毎へ行く
上野夕方昨日ノ件ニツキ返事 旋バンヲ習ヒタシトノコト ヤハリ他ニ轉ズル意デアアルガ尚キメル迄居イテ貰イタイトノコトニツキ絶対ニ止メルコトヲ他言セザルコト、勤務ヲ忠實ニスベキコト 未拂給料ハ支拂フガソレ意(ママ)外ニ手當ヲ出サナイコトヲ申渡ス
菊池ニ設計部ノ統活(ママ)主任橋本 次席菊池タルコトヲ申渡ス
夜高見氏來 三百円出來レバ東京大坂ノ各宿分百円ヅ、旅費百円トテ帰ルトノコトデ最(ママ)非タノムト云ワレテ困ツタガ明日川上氏ニ会フノヲ的ニ引受ケル

◆▼182ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月22日(金)

天気 曇晴雨

節子姫横濱着 大毎朝日共今日ヲ待チニマツテ航空機ノ利用ニテグスネ引イテ居タノニ朝カラ大雨デ気ノ毒デアツタ 八時三十四分金町発ニテ宗里ノ山田氏ト同道 車中井上長、浅見、木暮君ト同車ス 井上ヨリ鶴源トノ契約ヲ聞イタリ佐野ガ相羽ノ處へ行ツタトノコトナドヲ聞ク内荒川沖ニツク 手續キ後引取リヲナシ宗里君ノ自動車ガ來ルノデ山田君ニ依頼シテ上京。川上佐藤氏ト日吉川デ会フ。黒米君ニ会ヒタイカラトノ事情ガアツタノデ行ツタノニ何シノ話シモナクタ、君ノ工場ヲ百万円ノ株式会社ニ内ノ会社ト一所ニ仕様ダノ、大層喜(ママ)シソウニ話シテ大倉組トヤラセヨウダノ煙ノ様ナコトダケデアツタ。高見氏ノ金策ニツキ話ソウカト思ツタガアトノ事ヲ考ヘ云ヒ出セナカツタ 高見氏へハ不在デ明後日夜デナケレバ帰ラヌト返事シテ居ク。
大毎ニ行キタ方福知、吉田中務君ト菅可川ト云フノデ夕食ヲ共ニス 四人デタラフク喰ツテ十円二十五銭ニ安イノデ驚イタ

◆▼183ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月23日(土)

天気 晴曇

高見氏トノ約束ガアルノデ工場ハ清平ニ用件ヲ云ヒツケテ九時前宿ニ行く。米田サンカラ電話デアツタノデ出ラレナイ 又昨日ノ僕ノ案デアアル 高見氏ノ知人カラ自分名儀(ママ)ヲ借りル事モ能不可(ママ)トノコトデ、スグ局へ電話スル 幸ヒ井上君ガ居タノデ行テ会フ バイキングノ金デ弍百円タノンダガイケズ 別ニ借りル方法ヲ氏ノ友人ガ丸ビルデ金貸シテ居ルトノコトデ、弍百五十円タノンデ鳥飼ニ行キ返事ヲ待ツ 二時頃漸ク返事ガアツタガ月末ナラトノコトデコチラカラ事ハル 鳥飼氏ニ魚輸送ノ件昨日ノ井上ノ意見ヲ参考ニ花月ト相談スルコトヲ話シ三時頃同道シテ丸ビルノ花月ニ行キ主人ニ

会ツテ話シス 一ツ研究シテ見ルトノコトデソヨリ高見氏ノ宿ニ行キ今日ノ不結果ヲ話シ此上ハヤムナク何ニカ拂下モノデモスルコトトシスグ所沢へ電話シテマグネトヲ鳥飼へ持参サセルコトニス 鳥飼へハ電話デ明日金ニシテ貰フコトヲ依頼シタガ予期シタ様ニ高二ハ賣レズホトンド半額デアッタ

◆▼184ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月24日(日)

天気 曇雨

入梅気分濃厚 八時前起床 黒土ヲバケツニ一杯近所デヒロワセ朝顔ヲ植カエル 入浴久シブリデュックリ湯ヲ使ツテヒゲヲソリ朝食後日記、手紙、明日局へ出ス願書ヲ書キソロル 丁度十二時ニナル 工場ニ出懸ケル 大蔵ニテ自轉車ヲ借りニ行ク 今日ナンダカダルイ日デアッタ

高見氏ノ約ヲハタスベク工場カラ倉庫トシラベタガ何ンニ賣ルモノハ、モウナカッタ 重イ氣持ノマヽ東京へ電話スル 鳥飼不在 高見氏が來タトノコトデ今カラ上京スル旨ヲノベ一寸宅ニヨリ上京ス 四時鳥飼ニツク 高見氏待ツテ居タ マグネト四個鳥飼ノ手デ所處分スルト五十円ガヤットナノデ高見氏自身ドコカエ担保ニ金ヲ借ルトノコトニ大キニ安心シテ分レテ帰ル 鳥飼氏不在 田中來テ居タ 明日工場へ又行ケナイノデ其事ヲ打合セ、三葉利用ノ件ニツキ意見ヲ交換ス

◆▼185ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月25日(月)

天気 雨後晴

風強ク後雨ハゲシク午後晴レ熱クナル

十時局ニ行ク 鈴木ノ請求書ヲ出シ橋本固ト同道花月ニテ晝食 鳥飼ニ行キ今月金ノ件其他ヲ打合セ日日ニヨル 大蔵來 囑託決定ニツキ吉田ヨリ給七〇 外飛行ノ場合手當 東京大坂五日ヤルベク東京ニ居住シテ貰ヒタイトノコトナリシモ、ソレニハ特ニ工場ノ出張所カ何ニカトシテテナケレバ金ノ出物ガナイトノ事デアッタ 丁度二時ニナツタノデ、クワシイコトハ別ニ又來ルコトトシテ加地氏ノ件ニツキ北川氏訪問 加地サンニ會ツテ呉レトノコトニ事ム所ニ行ク 中村ト云フ前ニ來タ辨ゴ士ノ事ム所デアッタ。品物代金トシテハ支拂フコトハ出來ナイガ加地氏ノ事情ガ事情デアルカラ手形ノ手前幾分ノコトハスルガ金ヲキメテイツ、イクラヤルト云フコトハ決定出來ナイ旨ヲ再三クリ返ス先方デハソレヲイクラデモヨイカラキメテイツレトノコトヲ主張シタノデ兎ニ角廿八日ニ返事スルトテ分レル 加地氏居ラナカッタノデ苦戦デアッタガ今日中村氏カラ加地氏ハ現金デアシタ恩金デアルトノコトヲ云ワレタガ不思議ニタラナカッタ。ヨク調査シテ見ル必要ガアル非常ニツカレタ

英商会ニ行キ佐藤ニ立寄り風□接ノ話ヲシテ帰ル 菱井氏ガ待ツテ居タ 三十円ダケ

何ントカシテ呉レトノコトデアッタ(マグネットハモノニナラナカッタ) 高見氏ハ、ツヒニ臼井
サンデ何ントカシテ貰フトノコトデアッタ

◆▼186ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月26日(火)

天気 曇り少雨

久シ振リデ工場ニ出 午後猿田氏ニ銚子飛行ニツキ同氏ニ差支ナキヤヲ確メ尚今後ノ
提携等ニツキ懇談 同氏ヨリハ銚子ノ方ノコトニツキ同道シテ照(ママ)介ノ労ヲ取ルトノ
コトデアッタ

加地氏ノ件ニツキ帳簿ヲ取調ベル 三千円ノ手形ニツイテハ帳簿ハ勿論自分ノ日記ニ何
ニモ記入サレテ居ラナイ ドウシテ書イタ手形ダカサツパリ分ラナイガドウモ先方ノ都
合上書イテ上ゲタモノトシカ思ワレナイ。中村氏ノ言ワレタダケ金ヲ貸シタトノコトデ
アッタガ、ソレカラ受取ル金ガナケレバナラナイガドコモ入金ガナイ

◆▼187ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月27日(水)

天気 曇り少雨

朝局ニ検査日取りノ打合せニ行キ工場甲三ノ奨励金願書提出 十年式ノ登録証ト堪
航証ヲ返ス スグ帰ル

一時工場出 田中ト打合せ明日加地氏ノ件田中行クトノコトニヨリ調査ノ結果ヲ話シ
テ居ク 銚子飛行ノ打合せ、明日鈴木甲三ノ金ノ件等打合せル

橋本国來タガ奥山ツヒニ來ラズ 帰途奥山宿ニ立寄ルコト
浦山本日ヨリ出勤

◆▼188ページ◆▼ 昭和3(1928)年6月28日(木)

天気 曇り

田中局ノ金取り加地ノ件等ニテ上京

久シ振リデ清平ト定時出勤 大蔵ト三葉ノ件打合せ 飛行場調査ヲ大蔵ニヤラセルコ
ト 東京砂村ノ競馬場ヲ候補地トスルコト

午後一時頃千葉裁判所ヨリ二名神子岡崎ノ件ニテ差押ニ來ル 書類ニヨリ合資会社ナ
ルコトヲ説明シ旧会社預リ機体リバテ30フライングポート10スポーツ5カーチス
5 合計四台金額五十円ヲ押ヘテ共ニ自宅ニ帰ル 宅ノ方ハ先搬(ママ)差押ノ節來タ人
デアッタノデヨク事情ヲ知テ居テ金太郎トノ貸借証ニヨリ、書類ダケ作ルツモリノ處ビ
ワト蓄音機ガ出テ居タノデ前回ニナカッタカラ止ムヲ得ヌトノコトニ、ソレナラ今度買ッ
タ風呂モアルコトヲ申出結局三點デ二十一日 イヅレモ來月九日競売日取ト定メ帰ル。

其後ズット宅ニ居タガ二三時ダカタイクツシタ 夕食後七時半床ニ入
九時半橋本代理ニ神田佐藤ヨリ店員來 塗料ノ件デアッタガ今日シラベタ處ナカッタ
ノデ其旨云テヤル 明朝電話カケテ貰フコトトス

▲▼189ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月29日(金)

天気 雨

終日ジヤン、、降り

清平ト七時工場出

大蔵午後上京 夕方所沢行 大毎機練習ノ爲 高見氏様子聞カセル 順潮ニ進ンデ居
ルトノコトデアッタノデー安心

職工五月分内渡シ八分通り終了

菊池休ンダノデ帰リニオイテ來テヤル

松田大友田中見舞ニヤル

▲▼190ページ▲▼ 昭和3(1928)年6月30日(土)

天気 雨

今日モ又シト、、降ッテ居タ 終日止マズ

清平研究所ヘガキニヨリテ行ク 日給一円八十銭 月曜日カラ來テヨイトノコト先

ヅー安心ダガ洋服ヲ買ッテヤラネバナナイノデ閉口

四月分記帳ヲナス

田中ヲ県水産課ト東京花月ヘヤル

発動機部明日休マナイコト

今日ハ終日腹ガ工合悪ク夜ダケオジヤラ喰ッタガスグ出テシマッタ 早く床ニツク

▲▼191ページ▲▼ 7月

一 三葉利用

一 ライトプレーン設計

一 名古屋箕浦氏行

▲▼192ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月1日(日)

天気 曇少晴

今日ハ心身体養 午後一寸支出表ヲ作製
夕方佐野利一來 手形ノ件五日ニ間ニ合セテ貰イタイトノコトデアッタ
清平、信太郎徳治津田沼へ行ク
夜少時田中來 特別工中不良ニ関スル件 平尾兎三角櫛部氏へ話シスルコト
夜昭和一新論ヲ讀ム

▲▼1933ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月2日(月)

天気 曇リ晴

七時工場出 大蔵カラ自転車ヲ借りテ行ク
明日上京ニツキ工場打合せヲナシ、ソレ、申付ケテ居ク
田中午後千葉ヨリ帰り商工水産課長ノ名刺ヲ貰ツテ帰ル
夕方菊池引越シヲナス
収入少シデモト思ツテ猿田ノ計算書ヲ作り田中ニ渡ス 鈴木マダ
清平本日研究所へ入所ス
夜十一時頃久太郎兄來 非常ニヨツテ居タ
ホトンド寝ナカッタ

▲▼194ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月3日(火)

天気 晴少雨

七時半宅ヲ出ル 清平ノ服ヲ買ツテヤリタク日日デ金貰フツモリナリシモダメ 二時
頃吉田氏ト晝食ヲ共ニス
之レヨリ先キ九時前局出頭 鈴木、竹中ト監理課應接ニテ約二時間待ツ 監理課長、
技術課長、岡崎氏立会ノ下ニ四月八日ノ件ニツキ經過及今後ヲイマシムル旨ノ書類ヲ
讀ミ聞カレ將來ヲチカツテ無事済ンダガ後チ技術課長ニ挨拶ニ行ツタ時二人ヲ呼ベト
ノコトニ鈴木竹中同伴 竹中カイシユンノ情ナシトテヒドクシカラル 尚鈴木ニモ一等飛
行士トシテノ債(ママ)任ナシト追イワレソレニ加エテ大蔵ノ千葉ノ件モアリ津田沼ニハ飛
行士ラシキ飛行士ハ居ラヌトシカラレタ
後チ別府少佐ニ鈴木ノエン罪ニツキ個人トシテ聞イテ居イテ貰フ
鳥飼ニ行キ五円借ル 花月會エズ 川上氏ニ會ヒ輕井沢土地借入決定 兄ト打合セ一
足先キニ帰ル
金ノ件ニツキ所沢ニ電話シタラ佐野ガ來テ居ルトノコトデアッタ

▲▼195ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月4日(水)

天気 曇少雨

押上ヨリ高見氏ニ電話ス 話シ良好ニ進行 本日午後一時ヨリ確定的ニ決定ノ爲メ会見ノ由 スグ所沢ニ行ク 丁度上田君來 取引今夜ニシテ呉レトノコトデアッタガ橋本宅ニテ事情ヲ話シ今アルダケ先キニ貰フコトトシテ十一時頃四百円ダケ受取り内三百円受取り免状ヲ預ケテ鳥飼ニ行キ小僧ヲ頼ンデ所沢へ持タセテヤル 花月ニヨツタガ今日モ不在 鳥飼ニ聞ケバ鎌倉へ行ツタトノ事デアッタ

吉田サン、兄ニ会フ 銀行へ金トゞケルノガ間ニ合ワナイノデ電話ヲカケタガカゝラズ、船橋へ電話シテ山田君ニ事傳ル

夜七時帰ル 堀洋ニ氏來 バイキング飛行艇ノ事ヲ話シガアッタノデバイキングノ事ヲ話ス 改造シテ千円トキメル。堀氏ガ帰ルトスグ鎌田ト前田君ガ來タ。クレルジー急グコト 今日手配シタコトヲ話ス。後チ田中來 兄泊ル 十一時半床ニ入ル

◆▼196ページ◆▲ 昭和3(1928)年7月5日(木)

天気 晴

兄今夜七時ニテ帰坂 清平送ル

終日工場

鈴木モ渡辺ノ件アブロノ金ヲ廻スコト 工場ノ金ヲ先キニ入レルコト 九日二百円入用ノ事ナド打合セル 高度計一個賣タ

◆▼197ページ◆▲ 昭和3(1928)年7月6日(金)

天気 晴

七時工場出 大蔵ニ春海ノ件聞イテヤル 午後マダキマラヌトノ返電アリ

保俚署カラ今日ハ少シウルサイヤツガ來タ 十五日迄ニ契約 猿田夕方ニクレルジーノ件話シス 自分ノ前デハ大變オトナシイ事ヲ云ツテ居タ

森川芝入氏來場 十年式ト三葉、クレルジーイヅレモ内部検査終ル

堀氏來 明日バイキングノ買手ヲ連レテ來ルトノコトノ打合セデアッタノデ若シ半額デモ呉レタラ今日大ニ助カルガ否ヤ運ダメシノ様ナ氣ガシタ 帰宅 田中夕方來 スグ帰ル

◆▼198ページ◆▲ 昭和3(1928)年7月7日(土)

天気 晴

待チニ待ツタ堀氏一行女小供連デヤツテ來タガツヒニ今日キマラズ追テ返事スルトノコト。井上カラモ丁度行違ヒニ見積リヲ云ツテ來タ

菊池ノ出発ハヤハリ九日ノ必要アリ 之レニモ五六十円入ル コマカイ金ノ事デ一杯ダ
イヤニナル

田中ノ妻今日ツヒニ死ンダトノ事

▲▼199ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月8日(日)

天気 晴少雨

四時半起床 スグ上京 鳥飼ニ行キ玉井氏ニバイキング改造ヲ依頼ノ件頼ミ電通ノ受
取リデ廿四円四十九銭立替テ貰ヒ、高見氏ヲ訪フ マダ寝テ居タラシクシバラク待ツ。
成立シタ契約書ヲ見セテ呉レタ 三千円現金 アト二千円ニテ來年ノ二月迄ノ生活移
轉費等ニアテ其後ハ毎月三百五十円ヅ、利益及特許權ハスベテ資本家六分高見氏四分
ノ割デアッタ サシ當リ、千円シカ取レナカッタ由 アト式千円ハ廿五日トノコトデ僕ノ
立替金ハフイ 少シ失望シタガ明日ノコトサエナケレバ初メカラ帰ル予定デナイカラアキ
ラメテ居タガ何分ニモ明日ノコトガアルノデ閉口シタガ別ニ口ニ出シテハ云ワナカッタ
九時半東京駅ニ見送リスグ工場行 十一時半 スデニ荻野氏一行來テ居タ 海二案内
シテ帰ツテ辨當ビルトヤキ蛤ヲ出ス エモノナク蛤ヲ買ツテ贈ル 帰リニ鈴木ニヨリ明
日呉レル金ヲ話シテ帰ル 市川屋ガ來テ写真屋ヲ待ツテ帰ッタ由 八十円ノ預リ書ヲ
書イテ行クトノコトニスグ取リニナル 九時半頃取ツテ來タノデ明日ノ方一寸一安心

▲▼200ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月9日(月)

天気 晴

工場出 大蔵田中居ラズ閉口

明朝菊池出発セシムル爲メ夕方宅へ時計ヲ取リニナル 菊池ニ入質サセテ二十円ヲ得
三十円ニシ菊池ニ渡ス

昨日ノ八十円デ今朝ノ差押處分ノ分ハ菊池名儀(ママ)デ株式会社ノ分ヲ五十一円
宅ノ方ハ金太郎名儀(ママ)ニテ二十一円

▲▼201ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月10日(火)

天気 晴少雨

五時頃菊池出発シタ ■■五十分ニテ帰ル スグ下志津ニ行キ晝ル過ギ通過シタ酒匂
川ニ不時着 後チ夕方御殿場ニツク

大蔵帰ル 野田氏ガ最(ママ)非所長ニ会ヒタイトノコト 一度定期デテモ來テ呉レトノ
事傳アリ

作業進行思ワシカラス

猿田機検査受ケシモ発工合悪ルク明日ノコト

◆▼2022ページ◆▲ 昭和3(1928)年7月11日(水)

天気 晴少雨

七時宿ニツク頃荒木ガ頭ノ上ヲ出發シタガ三十分程デ帰ツテ來タ 後九時頃出發シタガ行ケズ下志津ニ行キ後午後二時頃通過スルノヲ見タガ大磯ニ不時着 キリ晴レヲ待ツ由

大蔵ヨリ三十円工場へ 宅へ二十円受取ル 電燈会社分トシテ二十三年金太郎三預ケル 田中ノ金ツヒニ間ニ合ワズ 明日八田中工場出勤 自分大蔵代々木行キ 夜菊池ヨリ二十円送金方來ル 明朝電気ノ分ヲ送ルコトニ打合セ十一時頃代々木ヨリ荒木 明朝佐々木ハコイトノ入電アリ スグ大磯警署(ママ)氣付ト御殿場宛打電ス イヨ、猿田ノ發動機間ニ合ワズ前田君ニ氣ノ毒デアツタガ断念シテ貫フ 止ムヲ得ナケレバ鈴木ノ機体ヲ借りテヤルコトノ手續キヲ取り大蔵ニマカス コレデ猿田ヨリ金取レヌコトニナル 十五日前ノ入用金ニツキ無収入 何ントカ方法ヲセネバナラヌ

◆▼2003ページ◆▲ 昭和3(1928)年7月12日(木)

天気 晴

三時頃カラ出カケ様ト思ツタガ馬鹿ニクモツテ居タノデトウトウ、オソクナル大倉八時頃來テ先キニ行ク 九時半ヨリ出カケル 局ニ行キ十年式ト三葉ノ見込書ヲ森川氏ニ提出、會計ニテ猿田ノ請求書出セルコトヲ聞イテ鳥飼ニ行キマイバツハノ返事ヲシテ日ニヨル

大蔵帰ツテ居タ 代々木ノ模様ヲ聞キ知覧君ガ待ツテ居ルトノコトニ、円タクヲハリコンデ行ク 知覧居ラズ 六時迄居タガ御殿場キリノタメ飛行中止トナル 黄班上川氏愛タカ山ニ墜落失格 菊池ノ組デ失望 外二三組ハ大差ナク赤班最モ優勢ニテ帰途各務ヶ原通過迄報告アリ 知覧君宅ニヨツタガ一度帰ツテ又出タトノコト 帰宅

◆▼2004ページ◆▲ 昭和3(1928)年7月13日(金)

天気 晴

六時田中ヲ呼ビニヤル。大蔵ト打合セ猿田ノ請求書出スコト 所沢デ羽布ノ交渉ヲナスコトヲ云ヒツケ上京 知覧君ニ寄ル マダ來タカ調ベテ居ナカッタノデスグ知ラセルコトニ打合セ代々木行キ 十時四十五分伏見機來 ツイデ熊川機 次イデ荒木機 予想以上ニ見事ニ降リテ呉レテ嬉シカッタ 且代最後ニ來 十二時頃頃(ママ)帰還サセル 降リラレネバ下志津へ行ク様ニ命ズ

日ヨリニヨルト大蔵ガ來テ居タ 猿田マダ話シテナカッタトノコト 晝食後協会ニヨル 谷田氏不在デアンザニーノ件話出來ズ 道永氏ニ会フ 荒木ノ件マダニツテヤツテ居ナカツタトノコトデスグヤツテ貰フコトヲ頼ミ尚母艦見学ノ件ヲ教ヘテ帰宅 五時 明日女工ダケデモ支拂ヒタイノ夜自分ト家内ノ冬モノアルダケ持タセテヤル 金明朝トノコトデアッタ コンナ時スシモ不顔ヲシナイ家内デ非常ニウレシイ。夜田中所沢ヨリ帰ル 菊池ニ昨日金ヲ送ツテヤラナカッタ由 不都合デアッタ シカモ金ハ自分デ持ツテアルイテ居ル由

▲▼205ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月14日(土)

天気 晴

田中出勤オソク入質ノ金四十円ヨリ廿五円菊池ニ送金 アト職工ヘヤル分ガ少ナイノデラジエターヲ處分シテ四十円程ツクル 田中ヨリ十五日帰ル ソレデ皆ニ五円ヅヽ分ケル

大蔵昨夜帰ラズタ方帰ル

夕方帳簿ヲ終リテ、山田君ガアブロノ部品ヲ持ツテ來タノデ菅野ヘタンクヲ頼ム

菱井サン來ル様ナハガキガ來テ居タガ來ナカッタノデ助カッタ

稲垣ノ書イタ工場改革意見ナルモノガ机ノ上ニアッタ ドコカラタレガ持ツテ來タカ

見ルノガ初メデアッタガ最モノ事バカリデアッタ

▲▼207ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月15日(日)

天気 晴

ホントーノ夏空ニナッタ 今日ハ終日清平ト午後佐々木ガ來タノデ手傳ワセ井戸ノタンクヲ健(ママ)設ヲナス 夕方終ル

田中來 少シ手傳フ

菊地昨夜十一時頃帰ツタ由

田中佐々木ト夕食ヲ共ニス

朝頭ガ變デアッタガ夕方汗ヲ出シタセイカゼイヽシタ。ヤハリ働イタ方ガヨサソウダ

▲▼206ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月16日(月)

天気 晴

工場出 午前中出庫傳票整理

奥山來 サル残金奥山支拂イニツイテハ半金ヲ今月中アトニ三回ニ支拂フコトニ承認

金高其他ノコトハ分工場ト協定シテ貰フコト

芝入氏來場 クレルジー検査晝迄ニハスマナカッタ

午後上京 北川辨ゴ土三行キ中村氏事ム所ニテ会见 ツヒニ品代金トシテノ請求ニハ應
ゼラレヌコトヲキツパリコトワル。加地氏ニハ一度私的ニアツテヨク諒解サレル様御話シ
タイ意味ノコトヲ告ゲル 氏ハ會ヒタクナサソウナ風デアッタ 大分氏モ人ガ悪クナッタ
様ダ 要スルニ境遇ガソウサセタノデアロウ

日日ニヨリ、秋田ニ立寄ツテ帰宅

白戸ガ妾サント二人デ四時頃來タトノコトデアッタ

▲▼208ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月17日(火)

天気 晴風強

田中銚子行キ 夜オソク帰ル 今夜モ泊ル 銚子ノ方デハ幾分援助スル氣持ハアルラシク
賣先キニツイテハ、ヤハリコチラデ定メナイト問屋出シハ勿論ダメトノコトデアッタ由
今日ハ大藏局ニ行クノデ甲三ノ金ガ出テ居タラ請求書出スコト 猿田ノクレルジーガ合
格シタノデ登録申請ヲ出スコトヲ依頼
金ガナクナッタノデ心細イコト 泉屋ハ明日米ガ入ルノニヨコサナイ由 今日競技会ノ
賞品授與式ニモカロウジテ菊地ダケヤル。鈴木ノ處ヘヤッタガ少シモナイトノ返事デア
ッタ 處ガ後チニ聞ケバ今日出席後富士登山ニ行ッタトノコト 少々、シヤクニサワル
今日ハ其カワリ記帳大ニハカドル

▲▼209ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月18日(水)

天気 雨

工場へ出懸ケニ秋田ト鳥飼ニ電話シテ今日田中ヲ上京サセルカラ花月其他ノ事ヲ依頼
ス

工場ニテ魚影賣込ミ方針ヲアタタメ花月、丸子園、ヘ。ハラシユート投下トシテ輕井沢ニ
行クコトトス。之レニテ約四五百円ノ收入トシテ一週式円ノコトノ予定ニテ田中ヲ上京
セシム。花月ハ鳥飼ガ今夜会フトノコトデ、丸子園ニモ行カズ甚ダ熱ガナカッタ 之レデ
ハイケナイ。運動スベキモノニ氣ガナクテハ何ニモナラナイ

女工ノ働キ振り心外ニ堪エズ 大藏午後三時出 猿田ノ方ノ打合セヲナス 今夜交渉
ノコト

▲▼210ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月19日(木)

天気 雨

田中ヲ工場ヘヤリ朝上京 局ニテ甲三請求書提出 猿田ノハ明日取レル 甲三八明後日

トノコト 森川氏休ミノ爲メ帰ル 鳥飼ニ行キ花月ヲ聞テ貰ツタガヤハリダメ 熱ノナイ
コトオビタ、シイ
早ク帰ル 眠クテタマラナカッタノデ寢ル 近頃殊ニ頭ガツカレル
日日ニテ大蔵ト会フ 猿田ニマダ頼リナイトノコト

▲▼211ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月20日(金)

天気 雨

七時工場出 大蔵ニ猿田ノ計算書ヲ渡シ局ノ金取りニ上京サセル
田中引越シヲナス 十時迄工場ニ來ラズ 自分上京ス 宅ニヨッタラ十一時頃 マダ、ウ
ロ、シテ居タ
上京 川上氏ニ會フ ローシヲ整備シテ一日ニ飛行機ヲ飛バシタイトノコトデアッタ。急
(ママ)ガシクテ駄目ダガヤレルダケヤルコトニシテ鳥飼ニヨリ所沢へ電話ス 明日羽布ノ
件朝日へヤツテ金ニスルコトニツキ協議シ丸山ヲ函根ノ仕事ニ廻シテ貰フコトノ交渉ヲス
ツカリ忘レテシマッタ
大蔵ニ会フ 猿田小見川へ帰り居ナイトノコトニ今夜帰ル様打電シタ由
銀行明朝返事スルコトニナツテ居ルノデ明日最(ママ)非受取ルコト
宅電話ガ廿六日二百円納入ノコトノ通知ガ來テ居タ

▲▼212ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月21日(土)

天気 雨

再度ノ梅雨デ寒イ位デアル 七時前大蔵ト打合セ工場ニ行キスグ田中ヲ呼びニヤリ今
日ノ金ノヤリ繰リニツキ打合セアトハ大蔵ト相談シテ迅速ニ持ツテ帰ルコト 橋本モ東
京デ待ツテ居ルコトヲ話シテ上京サセタガアトデ聞ケバ九時頃出カケテ行ツタトノコト
田中ノ此頃ノ不誠意モ少シ目ニ余ル 一度注意ヲ要ス
上野退職申出アリ
保俚署、八百屋、伊藤栄助等スベテ今日アスノモノ銀行モ月曜日迄置イテ呉レルコトニ
ナル
夕方、大蔵菅野ニヨッタガ田中、松田ニモヨク會ワナカッタノデ結果分ラズ 田中ヨリ
返ナク気分悪シク床ニ入ル
荒木国へ帰セナイノデツヒニ東京迄ノ旅費ヲ與へ東京デ借リテ帰スコトニス

▲▼213ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月22日(日)

天気 雨

終日気分悪シクブラ、ト過ス

明日ノ金ノ事モ氣ニナツテ居タノモ一原因デアロウ

夕方大口來 共ニ夕食。之レモ大分困ツテ居ルラシカッタ

▲▼214ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月23日(月)

天気 曇リ

朝大蔵田中ト打合セ上京サセル 大蔵晝過ぎ帰ル 田中三時半甲三ノ金ダケ持チ帰ル 銀行手形ヲ落シ菊池ヲ各務ヶ原へ出發サセル 猿田來 前田大蔵ト計算ノコトニツキ協議 陸上機ノ計畫(ママ)百八十余円デ明日外ニ水上ノ分トシテ二百円猿田明日ノ都合ニテ借リルコト 出來ナイ時八月末廿九日ニ弍百円ト云フコトナリ水上發ヲ來月五日迄ニマトメルコトナル。丸山ツヒニ來ラズ打電ス。今月デ止メルトノ話モアル由。夕方終業時間ト同時ニ猿田上ノ畑ニ不時着陸ヲナス

▲▼215ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月24日(火)

天気 晴

久シ振リノ晴天 菊地モ今日ハ立川ニ來ラレルダロー

荒木帰ル 國ノ方ダメラシイトノ事デアッタ

松田機完成サセニ時過ぎ大蔵試飛行 三時頃猿田氏來 金受取ル 結局羽布ニ対シ百円不足シタノデ上京 丁度五時ニナツタノデ押上ヨリ電話シタラ得能氏スデニ帰ツタアトノコトニ予期シタ通りニナツタノデ明朝十時ヲ約シ所沢ニ電話ヲカケ橋本二百円都合シテ來ル様ニ話シ、荒木ヲ立川ニ出發サセテ帰ル

奥山氏來 サルノ價格二千円デアツタコト(實際千弍百円)ガ糸野氏ニ知レテ、非常ニ八ヶ間敷イ手紙ガ來タトノコトヲ心配シテ居タノデ弍千円デアツタ証明ヲシテヤルカラ安心セヨト返ス 實際補助金ガ貰エナイ爲メニ奥山ハ右ヨリ以上ノ金ヲ今後支拂ネバナラナイカラデアアル

夜十時田中寄ル

▲▼216ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月25日(水)

天気 晴

ドウヤラ天気モ困ツタ様ダ 其代リ暑クナツテ來タ

菊池無事昨夕立川着 今日十一時丁度工場ノ上ヲ通過 三時立川ヨリ帰ツテ來タ

荒木ノ曲技ト猿田ノ三等モ済ム

田中上京セシム 出足シガ遅クテイケナイ 今日モ九時頃漸ク出テ行ツタ

今日ハ工場ノ中ヲ整屯(ママ)ス
帰宅後井戸ノポンプノグラヽヽ動クノヲ直ス
アト入金ノ工夫ガドウニモツカナイノデ困ル 電話モ明日百円納メナケレバナラナイガ
見込ナシ

▲▼217ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月26日(木)

天気晴

定刻出 大蔵上京スル■ト会フ

田中上京サセル

午後菊池ヲ保健署へ事ワリニヤリ尚今村ノ見舞ヲサセル

久保田廿八日點呼ノ爲メ七月分ノ計算ヲシテ帰ス 鈴木菊雄ニ計算書ヲ渡シアプロ百
五十円値引以外ニ引カナイコトヲ云ヒ渡シ今日五十円内入ヲ受取ル

▲▼218ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月27日(金)

天気晴

時事 米國ハ国民政府ヲ承認セリ 日本ノ立場頗ル困難ヲ來ス

鈴木ニ今月百円作ルコトヲ交渉 處ガ百円作ルカラ例ノ補助金問題ノ四百円ヲ負ケテ
呉レトノコトニイササカアキレ気味デアツタガ彼レノ人格ト將來ノ爲メ其ノ不心得ヲサ
トス

田中今日練習シカケテ中止シタ 又何ニカ考タノダロウ 終日工場ニ居タノデ將來ノコ
トニツイテ話シ初メタガ明答ヲアタエナカッタ。今日ノ仕事ニ不忠実ナモノニ健(ママ)実
ナ將來ノアル筈ガナイ

函根ローン安藤イスパノ内部検査ノ爲メ浜名氏來場

▲▼219ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月28日(土)

天気晴

夕立アリ

乗池ノ學科試験無事終ル

帰宅スルト又郵便局カラ電話ガカヽツテ居タ 明朝持ツテ行クト云ツタトノコト。ドウモ
ダメ

夜清平ト打合セヲシテ、マダ旅行カラ帰ラナイ事ニシテ居ク

▲▼220ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月29日(日)

天気 晴シユウ雨

六時半宅ヲ出テ知覧君訪問 箕浦氏送り定期計畫書ヲ渡シアト陸軍方面、航空会
社方面ニツキ会談 九時辭シテスグ帰ル

今日清平ヲ郵便局ヘヤル 取消シニスルトノコト 止ムヲ得ナイガ、誠ニイヤナ感ガシタ
自分ノ軽率ヲ悔ユル外ナカッタ

晝大蔵ヨリ昨日ノ飛行料八十円届ケテヨコス 夕方清平ノ服ヲ買ヒニ上京 四十円以
内ト定メ自分ノ靴ツボンモ買フコトニシタ

午後小僧ヲ連レテ小川ニ川狩ニ行ツタガ、目高、フナ ドジョウ、等面白カッタ。日曜日
ハジツトシテ居ルヨリヨイ氣持デアッタ

▲▼221ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月30日(月)

天気 雨

途中大蔵ニヨル 母、大病ニテ帰ベシトノ電ガ來テ居タ 旅費ヲ東日デ都合スルトテ九
時半出テ行ツタ

田中土曜日出來ズ來月二日頃トノコト 朝日ハアテナラナイ 何ントカセネバナラヌ
ガ、何ントモナル處ガナイ 鈴木ニ交渉ニ行ク。之レモ今、朝日ニハアテナラズ

保俵署ヨリ來ル 今日迄ノ事情ヲ書イテ返ス

田中川上ノ部品、岡田、鳥飼内外等ニヤル

午後宗里アブロノ翼自分デ點檢ヲ初メル。佐藤來場 久シ振リデラジオオヤ色色ノ話シ
デ帰り一所ニ電車ニ乗ル

▲▼222ページ▲▼ 昭和3(1928)年7月31日(火)

天気 雨

風雨ツヨシ タイ風ケイ報アリ

今日多少デモ皆ニヤリタイト思ツタガ鈴木ニ行ツタガナシ 猿田マダ帰ラズ。収入予算
書ヲ作ツテ樋口ト西田ヲヨンデ話シテ諒解ヲ求メル 心細イカギリ

▲▼223ページ▲▼ 8月

三菱利用

名古屋進行

ライトプレーン設計作業ニカゝル

拂下機作業増進策

▲▼224ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月1日(水)

天気 雨

時事 床次氏民政黨ダツ黨 第三黨着手

少晴レ

今日モ又雨 田中工場出十一時頃 面白クナイ 銀行へヤル マダ居イテアッタトノコト ゲツツ商会返電ナク又電話カケサセタガ不在

今日ハ女工ガ皆休ンダ 多少予期シテ居タガ不快デアッタ
終業後スグ帰宅

今日ハ帳簿五月分ヲ終ル

▲▼225ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月2日(木)

天気 雨

タイ風動カズ 増水被害各所ニオコル

今日モインウツナ日 夕方少シ日ガ出タ

朝菊池ニ旅費ヲ與ヘ局ヘヤッタ 後田中十時頃出 之レモゲツツ商会明日引取レル様
其他急用ヲ命ジテ上京サス 命ジテヤット一時間以上シテ出カケタ。出足ノワイル(マ
マ)事此上ナシ

少シ買物シタラアト金庫ニ二錢自分ノ手許ニ一錢シカ金ガ残ラナカッタ

鈴木ヲ呼ビニヤツテ話シタガ金出來ズ。前田ニヤツタガヤハリナシ 樋口今日ノノビレ別
ニヤツテヤリタカッタガヨク話シテ西田モ荒木モ中止 自分三時頃工場ヲ出テ帰宅 途
中自分ノ努力ノ足リナイコトニ考ヘ及ビ自カラセメル處アリ
今日ハ休養ス

▲▼226ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月3日(金)

天気 雨

今日ハ工場デ自カラ仕事ヲシテ見タ 働イテ居ル方ガ氣持チヨカッタ

昨日田中上京サセタガチットモ用ガ足りナイノデ又ヤル

猿田ノクレルジ―來ナイノデ山田君ニ交渉 引取ルコトニシテ話シタガ取りニヤツタラ妻
君ガ渡サナカッタ由 ムナシク帰ル 宗里ノローンダケ受取ル 猿田本日モ來ラズ

米屋米ヲヨコサス。田中交渉セズニ上京シテ、ラチアカズ 金太郎一斗ダケ買ツテ來ル
夕方思ヒ出シテ帰ツテ來タノカ田中泉屋ニヨリ一俵持ツテ來ル

◆▼227ページ◆▼ 昭和3(1928)年8月4日(土)

天気 雨

十一時過ぎ橋本來場 金ノコト聞イテ見ルトアト猿田ノヤツ三百五十円ヨリ収入ガナイ由 尚仕事モナクナツタトノコト 幸ヒ電通ノサル 主台見積リスルコトニナリ田中ト二人デ上京セシム 夜田中帰りニヨル サル三台ヤルコトニナツタトノコトデアッタ 猿田ヨリ夕方五十円受取ル 西田樋口ニ五円ヅ、昨日來テ買フノニ借りタ五円ヲ造ル 村山二十円 荒木帰国二十五円 残ツタ五円ノ内三円ヲ菊池ニヤリニ円ダケ手許ニ残ス。大蔵ニテビールノ馳走ニナリ帰宅

◆▼228ページ◆▼ 昭和3(1928)年8月5日(日)

天気 雨曇

今朝九時頃起キタラ反ツテ氣持ガ悪ルカッタ 終日何ニモ手ニツカズ僅カニ知覽君へ名古屋ノ件返事ヲ出ス
午後家内ヤ小供ト又川狩ニ行ク 水ガ大變フエテ居テアゼ道ハ一尺位モ這入ラネバナ
ラヌ處ガアッタ 三時過ぎ帰ツテ昨日大蔵デ貰ツテ帰ツタ西瓜ヲ皆デ喰べル

◆▼229ページ◆▼ 昭和3(1928)年8月6日(月)

天気 曇リ少雨

定刻出 今日カラ因幡出テ居タ
辻本芝入氏來場
函根陸上機。ペラ悪シク中止

◆▼230ページ◆▼ 昭和3(1928)年8月7日(火)

天気 晴曇

ヤット日ノ光リガサシタ
今日ハゲツツノ羽布ガ取レルノデ田中ヲ急イデ上京 出來ルダケ金ニスル様ヤル
クレルジノ件ニツキ山田、猿田、大蔵ト協議 ツヒニ安藤ノヲ引取り一時貸スコトニナ
リ引取りノ爲メ猿田ヨリ四十円出ス。先月分残金今日モツヒニ呉レズ
女工金請求アリ 明日トハ云ツタガ今日出來テ居レバヨイガ
馬詰ノ参加手當イツ呉レル事カ分ラズ 保健署モ明日持參ノ打電ヲナス
函根ノペラ調査スベテ良好 最後ニバランスヲ計ツタラ大分違ツテ居タ 之レヲ自分デナ
ラス。ガソリンナク試運轉明日ニ延バス

鈴木一向金ヨコシソウニセズ腹ガ立ツ程デアル

▲▼231ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月8日(水)

天気 曇り

田中帰ラズ 大蔵ニ猿田ノ金請求スル様云ヒツケテヤッタノニ其マ、上京 不都合千万デアッタ

飴ノ米無ク金太郎左官屋ヨリ借りテ使用ス

▲▼232ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月9日(木)

天気 晴後少雨

久シ振リニカラット晴レタヨイ朝デアッタノデ白ズボン白クツニ新ラシイムギワラデ出懸ケタノニ午後カラ曇リ帰リニ六丁度又雨ニナツテシマッタ

田中出テ來タガ明後日頃デナケレバマダ受取レヌトノコトニ金六横濱迄手續トク促ニヤル。大蔵イツノ間ニカ居ナクナル 東京へ行ツタトノコト アトデ聞ケバ前田君等ノ願書ヲ持ツテ行ツタトノコトデアッタ 此頃ハ猿田ノ使用人ノ様デ不快デアッタ

鈴木菊ニ話シタガ金ハタツタ式円持ツテ來タ ガソリン一函取ラセ猿田カラカストルヲ返ヘサセテ函根ノペラ試験ヲ行フ 非常ニヨクナツタガマダ充分ノ見込ミ立タズ

鈴木克衛ニアブロノ金ノコトヲ話ス 内半分ハ今持ツテ居ルトノコトニ内式百円ダケ借リルコトニマトメ明日郵便局カラ出シテ呉レルコトニナリ一寸ホットシタ

▲▼233ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月10日(金)

天気 雨後晴

一時間遅レテ出ル 鈴木克衛ト打合セ郵便局ノ金間ニ合セテ貰フ様ニタノンデ工場ニ行ク 十時頃金ヲ持ツテ來テ呉レタノデ皆三分ケル 午後ニナツテ今村ノコトヲ思ヒダシタガスデニ金ハナカッタノデ明日ノコトニス

田中ハ横濱ヘヤルベニヤ板取りニ□

清平大坂ヘ立タセル 十五円ヤル

▲▼234ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月11日(土)

天気 曇雨

田中又帰ラズ 午後行先キニ電話シテ様子ヲ聞ク 羽布今日夕方東京ニツク由 函根アブロヤット発動機ガヨクナツタ

▲▼235ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月12日(日)

天気 晴

今日ハ吉田君ヲ訪問予定ヲ変更シテ縁台一ヶト植木ノ棚ニケヲ作ル 丁度一日カヽル
夕食中橋本善喜來 津田沼へ泊リニ行ク

▲▼236ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月13日(月)

天気 晴

久シ振リデ朝カユヲ喰ウ 信太郎徳次ヲ連レ工場行キ
今日早ク羽布金ニスベク田中八時頃呼ビニヤッタガ、アトデ聞ケバ中川氏ト停留所デ
会ッタノガ十一時ダッタトノ事 実ニ出足ノノロイ奴ダ 今日ハ到底間ニ合ヒソウモナク
明日午前中ニ帰ル約束デ出懸ケル

芝入中川氏來 函根陸上機機体ハ済ンダガ發動機少シ振動アリ 七時過ギ迄芝入氏
ヤツテ呉レタガ直ラズ 明朝特ニヨツテヤルトノコトデアッタ
帰宅後夕食 クタブレテスグ眠ル

今日航空タクシーノ草稿ヲ作ル

▲▼237ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月14日(火)

天気 晴

芝入氏早朝來場 十一時半終了 合格

田中立川ヨリ電報ヲヨコシ○スンダ今カラ帰ルトノコトニ七時迄待ツ 帰ッテ來タガニ
百四十余円ノ内百六十円ヨリ残ラズ 橋本国ガ百円ヲヤカマシク漸ク五十円取ッテ來
タトノコトデアッタ 支拂予定ハ作ッテ居イタガ何トモナラズ 所員ニダケ分ケルコトニス
樋口ニ五十円 上野ヲ早ク立ノカセル爲メ之レニヤル 飛■入りノ橋本ノ爲メニ三十円
取ラレ西田村山氣ノ毒ダッタガ十円ヅヽニス 金太郎ニ五円 小僧連ニ二円ヅヽアトニ
倉庫へ五円ト明日ノ旅費ニ五円シカ残ラナカッタ 保健署ハ勿論米屋ニモヤレズ今朝現
金買ヒニ鈴木カラ借りタ十五円スグ返セナイコトニナッタ
十一時帰宅 橋本善喜泊ル

▲▼238ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月15日(水)

天気 雨

橋本ト上京 上野デ分レル 函根ニ行キ川上氏ニ會ヒ登録申請書ニ記名捺印ヲ受ケテ

外ニ旅費ガソリン代トシテ五十円受取り局ニ行キ手續キヲナスツヒニ今日ノ間ニ合ワズ

鈴木ノアプロノ件マダ決定シナイガ先ヅ大丈夫 尚陸軍省器材局長ガ代ツタノデアンザニノ件又聞イテ貰フコトニ荒井サンニ頼ム 課長ニ大佐昇進ノ祝詞ヲ述べ航空タクシーノ件諒解ヲ得

十二時再ビ川上氏ニ会ヒ請求書ヲ渡シ金ヲ頼ミ、尚会社株式会社ニ変更ノ件ニツキ話シアリ 何分宜シクト頼ンデ丁度知覧君ニ会ツタノデ少シ話シテ帰ル 三時半帰宅 工場へ出ル勇氣ナク猿田ニダケ会ヒ三行コウカト思ツテ居タ處へ鎌田君ト浜田君ガ來タ 発動機整備ハ引受ケタガ廻シタ後チノコトハ確實ニ引受ケラレナイコトヲ事ワル

▲▼239ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月16日(木)

天気 雨

工場ニ出ル 休ミ多ク張り合ノナイコトオビタダシイ

田中ヲ呼ビニヤリ用件ヲ命ジテ上京 川上氏ニ会ヒ請求書ヲ渡シタガ、イツクレルカハツキリシナカッタ トニカク會計へ渡シテ居クトノコトデアッタ

局ニ行キ一時半漸ク登録証出來ル

スグ工場ニ帰ル 三時半デアッタ

▲▼240ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月17日(金)

天気 晴少雨

定刻工場出 因幡、上野、女工ヨリ金請求アリ 因幡ニハ勤メ振りニ対シ注意ヲ與ヘル 田中上京サセ大蔵ヨリ前田ノ金受取り買物スル様ニス。夕方大蔵ニヨル 家内中デア上京シタトノコト 之レデハ又前田ノ金受取レナカッタカモ知レナイ

午前中函根土地ノ堪航証明書枠ヲ作り、午後ペラ二本ノ、クルイヲ調ベル。カナリツカレタ

西田ハヅット工場デメシヲ喰ツテ居ルトノコト 多分金ヲヤラナイカラダロウ 氣ノ毒ニ横田ガ夫妻ツレデ遊ビニ來タ由 オバーサン今日カラ泊ル

▲▼241ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月18日(土)

天気 曇り少雨

定刻出勤 今日ハイヤナ日デアッタ 金取りニ栄助、八百屋、ソレニ僅カナ工場懇話会ノ三円 淡島神社ノ三十銭ナドガアツタガ支拂出來ズ 淡島神社ノハ西田ニ借りテ支拂 夕方方ノ米ガナイノデ鈴木ヨリ十円取り漸ク三十キロ買フ 村山、キク等ヨリ給料

ノ催促アリ ツクツクイヤニナッタ

夕方前田氏へ交渉 月曜日ニ持ッテ來ルトノコトデアッタ内丁大藏度東京ヨリ歸ル 函根來月ノ五日トノコトデアッタ

帰宅 入浴 夕食 食前ノ淋シイコト 最モ二ヶ月以上皆支拂テ居ナイノダカラ仕方ガナイ。ソレニシテモヨク催促ニコナイモノダ

▲▼242ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月19日(日)

天気 雨曇リ

時事 十七年振リデ飛行機模型競技会ガ今日代々木デアルノダガダメカモシレナイ
今日ハ日曜 少シユツクリシテ工場ニ行ク 発動機ノ方ヤツテ居タ 今日サンワヲ取リニ
ヤラネバナラヌノデ不用タンクヲ三個拂下シテ廿一円ヲ得タ内ヲ因幡ト上野ガ來テ
勘定ノコトヲ請求シタノデ上野ニ待ッテ居テモイツカ分ラヌカラ行キ先キガアレバ行ッ
タ方ガヨイ 因幡ニハ今後モ此状態ハツヅク覺后(ママ)デナケレバ勤メラレナイカラ其ツ
モリデ居ルコトヲ申渡シ後五円小遣トシテヤル 発動機ノ連中ニハ夕方カツレツデモ取ッ
テ出ス様賄ニ云ヒツケテ、猿田ヨリ五十円マグネトノ金トシテ受取り上京 金剛砂砥
石ノ小サイノヲサガス 幸ヒ業平橋極ニアッタノデスグ帰宅 シバラクスルト大坂ノ兄ガ
來タ 豚肉ヲ沢山買ッテ來タノデ共ニ夕食 大分酒ヲノンデ寢タ
二三日來又夜中ニ目ノ醒メルクセガツイタ 金ノ心配カラダロウ

▲▼243ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月20日(月)

天気 晴

ドウシテモ鈴木ニ話シテ作ラセル外ナイガ駄目ナ場合ハイヤダガ白戸ニ話スヨリ道ガナ
クナッタ。鈴木ニ夕方話シタガ例ニヨッテ融通ハ絶対ニ出來ナイ 丁度昨日加藤ガ飛行
機ヲ借りニ來テ居ルノデニ型デ行クコトニシタイトノコトデアッタ。今日アプロハ佐々木
ニ單獨ヲヤラセテコワシタ
京城(ママ)電車ガ三十日迄ト昨日大藏ガ約シタノデ今日飛行デ何ントカ差引スルコト
ノ案ヲ持ッテ大藏出張シタ
田中買物ニヤッタガオソク出カケタノデ所沢迄ハ行ケナカッタ
白戸ニハモ―一日考ヘルコトニス

▲▼244ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月21日(火)

天気 晴

行きニ大藏ニヨル 京成ニ行ク由

今日ハ自分デ鈴木機ノ脚ヲヤッタノデ大汗ニナッタ
一時頃春海氏來 夕方成田ノ帰リニヨルカラ乗セテホシイトノコトデサルヲ試運轉シテ
待ツタメ午後ハ発動機部ホトンド休ミ、之レハ大ニ考慮ヲ要スル
夕方大蔵ニヨル 吉田氏今夜盛岡ヘ立ツタ由 十年式ニ一台月曜日ニカスミヶ浦ニ取りニ
行ク由

今日ハ結局白戸ヘイヤダガ金ヲ借りニ行ク外ナイト覺後(ママ)シタガツヒニ行カナカッタ
明日ハドウシテモ行カネバナラヌ
宗里ノ委任状ト願書ヲ用意ス

▲▼245ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月22日(水)

天気 曇り晴

▲▼246ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月23日(木)

天気 晴

今日ハ金融ノ爲メ白戸ニ行クノデ宅ニ終日考ヘタガドウニモ仕方ナク夕方カラ出懸ケル
案外思ツタヨリ好意デアッタ 夕食ノ馳走ニナル 白戸モ近來ニナクノンダトテ、ヤハリ
友ホシノウデアッタ 食後金ノ話ヲシテ兎ニ角承諾ヲ得 明日貳百五十円 中島ノ方
ヲアト百五十円 明後日出來ルコトニナリホットシテ帰ル
久太郎兄今朝上京 夜九時十分ニテ帰坂ス

▲▼247ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月24日(金)

天気 雨

又雨ニナッタ 工場ニ行ク 橋本昨日來ナカッタノデ田中所沢へ出張 打合せサセル
大蔵上京

今日ハ何ンダカ荒木カラ金ガ送ツテ來ルカ鈴木ガイクラカ入レソウナ氣ガシタガソソナ
コトハナカッタ 荒木カラ手紙ダケ來タガヤ、有望ナ手紙デアッタ
白戸中島ノ方百円シカナカッタノデ夕方信太郎ニ又手紙ヲ持タセテヤツテ居ク

▲▼248ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月25日(土)

天気 晴

定刻工場出 昨日カラ大分スズシイ 秋ノ様ダ

今日約束ノ通り一時ニ金太郎ヲ白戸ヘヤッタ 三時頃帰ツタガ一文モ出来ナカッタ。コイツニ一番ヨワッタガ仕方ガナイ 銀行ヘ手紙デ返ストテ居イテ芝トモ宜シクト云ツテヤッタラ月曜日迄置クコトニナッタ 置イテ呉レタコトハ有難イガ金ノ目當ガナイノデコマッタ 鈴木ニ交渉 最低ニ二百円作ルコトトシタガタヨリナイコトオビタシイ
今日八十年式塗料トアプロ羽布型ヲ取ル
近頃金ノ心配ハスルガ体身(ママ)ハ身心(ママ)共ニ軽快ナ感ジガシテ氣持ガヨイ

▲▼249ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月26日(日)

天気 晴

今日ハ工場へ出テ計算書ヲ作ル予定ナリシモアプロノ胴体羽布ヌイニ三時迄カヽリツヒニ行ケナカッタ

大蔵上京前立寄ル様云ヒツケテ居タニ來ラズ 大毎十年式引取りノ件氣ニカヽッタガ明朝ノコトトス

明日ノ銀行氣ニナッタガ如何トモナラズ

▲▼250ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月27日(月)

天気 曇雨

時事 午後七時半頃千葉茨城東京方面カラヨク見エタ何ントモ分ラヌ怪光ニ秒間カナリ明ルクナッタソウダ

大毎機氣ニナッタノデ大蔵ニヨル 二機所沢カ一機所沢一機福永トノコトデアッタ 工場出 計算書ヲツクリソレゾレ請求ヲナス 鈴木金ナク明日五十円ダケ作ルトノコトニ午後上京 川上氏ニ借疑ヲ申込ダガナク函根ハヤハリ五日トノコト

吉田氏ニ久シ振リデ会フ 大毎機ハ一機所沢デ整備ダガ大毎ノ人間デヤルラシイ 一機ハ羽根一枚ダケ福永ニ送ルノデアトハ予備トノコトデアッタ 一三式ハ未定 石川島ヘヤラナイカラサグツテ見タガ之レハヤラナイラシイ

大蔵ニ明日局ヘ寄ルコト、奥山ノ金請求スルコトヲ命ジ鳥飼ニ行ク 今日明日ニ引越シラシナケレバナラナイトノコトデアッタ 都合デハツヲ津田沼ヘ預ツテ呉レトノコトデアッタ 夕食後帰ル

金工希望一名照(ママ)会サル

▲▼251ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月28日(火)

天気 晴雨

午後ヒドイシユウ雨ガアッタ

今日銀行カラ二度モ使ヲヨコシテ呉レタノデ午後田中ヲヤル 鈴木カラ這入ッタ五十
円ヲ持参シテアト銀行デ立替ヲ依頼シタガ出來様筈ナク結局來月五日迄待ツテ呉レ
ルコトニナツテホツトシタ
菊池妻君帰国ニツキ三十円ヤリアトデ泉屋ヨリ米一俵取ル 菊池少シ不足ラシカッタ
ガ歸リハ別ニ送ツテヤルコトニス 尚質受ケシナケレバナライノデ足ラナイ時ハ足シテヤ
ル様話シテ居ク

今日工場ノ前途ニツキ昨日思ヒツイタカスミヶ浦所沢ヲ作業工場トシ津田沼ヲ學校、
研究貸格納庫トスル件ニツキ田中ト意見ヲ交カンス

▲▼252ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月29日(水)

天気 晴レタリ雨

今朝便所へ行ツタ時シクジリヲヤッタ 腹ガヘンデアッタノデ終日寢ルコトニシタ
信太郎ヲ工場へ手紙持タセテ今日ノ用件ダケタス 寢ナガラ武藤山治ノ実業讀本ヲ
皆讀ンダ ヤ、得ル處ガアッタガドウモ讀ンダコトガ頭ニ這入ラナクテイケナイ

▲▼253ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月30日(木)

天気 晴雨

工場出 樋口昨日足ノツメヲハガシテ休ンデ居タ
田中東京ヘヤル。大蔵押上ノ京成へ電気料ノコトデ先日來日參 明日一ヶ月分ダケハ
支拂フコトニナツテ居ルトノコト

職工ダケ五日拂ノコトニ話シテ居ク
午後航空局ニ対スル希望ヲ書イテ見タ

▲▼254ページ▲▼ 昭和3(1928)年8月31日(金)

天気 晴

ドウヤラ暑サガ変ラシク反ツテ氣持チヨカッタ
十年式組立ヲナス

佐々木練習生食費クレズ米代ニ困リ金太郎ウラノ宅ニテ借受ケ三十キロダケ間ニ合ス
菊池妻ノ兄來場 菊池ノ歸リヨ三日迄待ツトノコトデアッタ
都筑氏來宅 午前中自宅 名古屋附近ニ温泉場ヲ作ルノニ必要ナル木管ノ製作ヲ頼マ
レタガ今木工場ヲ閉查(ママ)シテ居ルノデコトワル。名古屋ノ定期ニツキ話ス 計畫書ヲ
送ツテ來タラ、何ントカ骨折ツテ見様トノコトデアッタ

◆▼255ページ◆▲

名古屋進行
ライトプレー進行
カスミヶ浦ノ件ニツキ金策ノコト

◆▼256ページ◆▲ 昭和3(1928)年9月1日(土)

天気 晴

田中晝頃帰り來ル 奥山今日午後大蔵受取りニ行クコトニナツテ居ル由
高山ヨリ菊池ニ電報アリ 今明日ニ出發スルコトナリ丁度取ツテ居イタ金が大毎機
到着ノ運賃ニ支拂ツタノデ、万策ツキテ金太郎名儀(ママ)ニテ古金屋ヨリ二十円借入
レ十円菊池家内渡シヤット一安心
帰宅スレバ朝カラ米ヲ二三度タノミニヤッタガ來ナイトノコトデアッタガオソク漸ク一
斗ダケ届ケテ來タ

◆▼257ページ◆▲ 昭和3(1928)年9月2日(日)

天気 晴シユウ雨

五時起床 スグ出懸ケル 七時吉田氏訪問 十年式整備ノ件打合せ一時間程ノ後チ
岡崎氏訪問 朝日ノ名古屋計畫ニツキソレトナク願書ガ出テ居ナイカラ聞ク 今ノ處
支線ハニモ出テ居ナイトノコトデアッタ。航空タクシーノ件ニツキ畫計(ママ)書ヲ示シ
諒解ヲ求メル 尚二三航空事業其他ニツキ一時間余リ話シテ再ビ吉田氏ヲ訪ヒ十時
共ニ立川ノ大毎格納庫ヲ見ニ行ク。大蔵來ラズ 中務氏ニ時頃ニナルトノコト二十二時
半ニテ先キニ歸ル
佐野、高野ニ会フ。佐野自動車送ツタリシキリニオセジヲフリマイテ居タ 三時半歸
宅
夕方米屋ヨリ來 ツヒニ今後現金ニシテ呉レトノコトデアッタ。三ヶ月タメタノダカラ無
理モナイ

◆▼258ページ◆▲ 昭和3(1928)年9月3日(月)

天気 晴

定刻工場出 大蔵上京 局ノ拂下調査ト大毎運賃受取りノ事。橋本国電通ノ金受取
リノコトヲ事傳テヤル
十年式ベニヤハガシ作業初メタガドウモヨクナイノデ困ツタ

午後午前ペラノバランスハカリ午後猿田ノケレルジーサクシヨンパイプ合シヲナス。スツカリ汗ニナツタ
過日考ヘタ所沢霞ヶ浦ノ問題ニツキ其前ニ自分ノ意見ヲ聞キタイトノ田中希望案出シテ居タ イツモ之レデ時機ヲ失テシマウ 要スルニ計畫計畫ヲダカラ、グレル分ケダ
七時帰宅

▲▼259ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月4日(火)

天気 晴

定刻工場

此頃ハ作業ヲスルノデ夜時間後ニ帳付ケスル爲メイツモ帰場ガオソクナル

▲▼260ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月5日(水)

天気 晴

定刻出勤 因幡以外ハ皆ヨク働イテ呉レル 自分モ非常ニ今月ニナツテ元気ニナツタ様ニ思ワレル

心配シタ荒木ノ金來タコト來タガ北條ノ銀行ナノデ明日一番デ取リニヤル事ニシタ
夕方日本飛行學校ノアブロ到着 程度ハヨカッタ 荷オロシ後帰ル 帰宅七時

帰宅スルト名古屋ノ件ニツキ都筑氏ヨリ會ヒタイカラトノ手紙ガ來テ居タガ明日ハ出ラレナイノデ田中ヲヤルコトニス

今朝大蔵母死ス

自宅ノ米ガナクナツタトノコトニ購入方ノ心配

函根土地金皆呉レタトデヨカッタ 佐野ノ方モ九十円ヤツタ由

▲▼261ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月6日(木)

天気 晴

昨夜菊池帰ツタ由

朝工場着 同時ニ田中ヲ呼ビニヤリ都筑氏ニ自分今日上京出來ナイカラ東京デ会フ様云ヒツケル

黒米氏來 日本飛行ノアブロ修理ニツキ打合せ 江田氏來 水上機試運轉トマーク記入ノ件

金太郎三時過ぎ北條ヨリ帰ツテ來タ 荒木二百円返ス 二百円ノ内北河ノ手形式百弍十餘円支拂フ爲メニ皆ニヤル金ワズカニ五十餘円 タミヤニヤレズ延期シテ皆ニ少シツ、分ケル

上野朝日ニ早川氏ノ紹介デ這入ルコトニナツタトテ計算ヲ迫ツタ 五円ダケヤル。アトハ証書ニシテタ方ヤル 残三十二円余 腹痛ハゲシ

日本飛行ノアブロ門松君ニ責任懸賞付ニテ作業ヲ命ズ

◆◆262ページ◆◆ 昭和3(1928)年9月7日(金)

天気 晴

立川行キデヤ、ユツクリ出來タ

九時廿分前新宿着 馬詰ニ会フ 九時三十分発 列車ニ二等車三台ヲ連結シテアツタ 相羽其他ト同車シテ行ク

自分ダケ人カヲヤトヒ木下氏宅ニ立寄り土産物ヲ置イテ行ク。トナリニ藤表何トカノカンバンガ出テ居タ 表札ヲ見ルト佐野清三郎ト書イテアツタ

久松其他ノ人々ニ挨拶ス 割合ニ感ジガヨカッタ。ハンカチ式折ト氣ガ引ケタガ木下氏ニ渡ス

愛知ノ旅客機ヲ見ル アマリ感心シナカッタ 式場ニ入ル 輸送会社ノ西野、最所サンガ來テ居タ。ドチラモ安達謙造氏ニ似タ感ジノヨクナイデアツタ 相羽ガシキリニ接近シテ居タ。タレカニ紹介シテ貰ツテ居キタカッタガ其内同乗飛行ニ行ツテカラ会ワナカッタ大堀カラノ二機ガ一時半頃到着 一機ニ柳原ガ乗ツテ來タノハ意外デアツタ。長舉氏ト専務ガ來タガ野田氏ガ見ニクカッタノデ失望シタ。

日本飛行學校ハ金ヲ月曜日貰フコト 内部検査モ同日森川氏ニ依頼ス。帰途東日ニ吉田氏ト同道シ都筑氏ニ電話シタガ会エズ 五時半帰宅

◆◆263ページ◆◆ 昭和3(1928)年9月8日(土)

天気 晴

今日ハ六時半ニ工場ニツイタ 樋口ハ早カッタ 西田ガ朝メシヲ喰ヒニ來テ休ンデシマツタノガ氣ニナツタ

特別工ダケ八月分迄計算シテ支拂ヲ終ル

門松伊藤モホシガツテ居タガ月曜日ニスル 村山部ガ割合ニツメテ出テ居ル 他ノ仕事ガナクナツタノダロウ

日本飛行學校ノアブロハ順潮ニ進行シテ居ル

宗里。ペラト車輪モツテ來ズ。因幡又休ンダ 多分上野ト立川ヘデモ行ツタノデアロウ 田中上京サセル 都筑氏ニ先達テ会ワナカッタトノコトニ手紙ヲ出シテ居ク

◆◆264ページ◆◆ 昭和3(1928)年9月9日(日)

天気晴

今朝八幡様へ早ク参詣スルツモリデ小供ト話シテ居タガ昨夜二時過ギ追キングニ讀ミフケツテ起キラレナカッタ

朝工場方針ヲ考ヘテ記述シ熟慮ハ追ツテスルコトトシテ小供ノ自轉車修繕ヲナス

鈴木菊雄馬詰ノ處へ手紙ガ來タカラ行ツテ來ルトテ立寄ツタ 例ノ競技会ニ對スル寄書

問題デアツタ 夜十時頃帰りニ立寄リスベテハ川辺ガ内通シ自分ガ書カセタ様ニ云ツテ

居タトノコトデアツタ モーターニ取消文ヲ出スコトニシテ話シハツイタトノコトデアツタ

川辺モイヨ、カワイソウナモノダ

橋本国田中來ル筈デアツタガツヒニ來ナカッタ 橋本国ノ心持チガドウモ變ニ考ヘラレル

考慮ヲ要スル問題デアル

◆▼265ページ◆▼ 昭和3(1928)年9月10日(月)

天気晴

工場七時二十分前着 村山近頃大分ナマイキニナツテ來タ 或ハ上野カブレガシタラシ

イ

菊池西田二人共昨夜來行違(ママ)不明 夕方竹中ノ處へ見ニヤツタラ晝頃帰ツタトノコ

ト 多分マダ居タト思ワレル 何レニシテモヨクナイ現象デアル

樋口ダケハ感心ニイツモ變リナクヨカッタ

田中上京 金取リニヤツタガ時間半間ニ合ワズ 七時頃停留所デ会フ 村山部へ三十

円 大蔵へ十円ダケ今夜渡ス様ニシテ帰宅

辻本氏來場 日本飛行ノ水上アプロ内部 大毎十年式内部

◆▼266ページ◆▼ 昭和3(1928)年9月11日(火)

天気晴

出懸ケニ西田ニ寄ル マダ寢テ居タ 起シテ工場ニ出ス 菊池モオソカッタ 田中ガ今日ハ七時少過ギニ出タ。昨日ノ金ヲ分ケルノニ大分苦心ス

西田、菊池ヨリ金ノ爲メニ困難スルノデ色々申出ガアツタ 結局現在ノ作業ヲ早く

仕上グル外ハナイコトニナル。宗里機發動機廻シテカラ上京ノ予定ナリシモ間ニ合ワズ。

大毎機ノラストピースヲ試験シタガ之レ又結果不明 止ムナク其マ、ニ上京 スグ局行

キ 辻本氏ニラストピースヲ渡シ濱名氏ノ帰リヲ待ツテ明日中ニ試験シテ貰フコト 結

果三時頃聞クコトヲ約シ鈴木克衛ノアプロ依頼シテ安心セヨトノ言質ヲ得

電通ニヨツタガ五時半頃櫛部氏帰ルトノコトニ日ニ行キ吉田氏ニ明日ノ結果ヲ聞イテ

貰フコト 尚見積書ヲ預ケテ五時半櫛部氏ニ会フ 鶴見ノ森永工場写真撮影ヲヤルノ

ダソウデ百八十円ニキメル 明日正午頃飛行ノコト

◆▼267ページ◆▼ 昭和3(1928)年9月12日(水)

天気晴

大蔵宅ニヨツタガ昨日帰ッテ來タトノコト 一寸意外デアッタ 鈴木ニ寄り今日ノ飛行ノコトヲ打合せ工場ニ出ル

田中電通ノ金受取リノ爲メト買物ニ上京サセル 大蔵所沢へ相沢ノ試飛行ニ行ク

西田來ラズ氣ヲモム 大蔵立寄ッテ話シスルトノコト 午後出テ來タガ一向仕事手ニツカズ。クレヴ、作業ノコトヲ話シテ明日カラヤルトノコトニナツタガタヨクナイコトオヒタゞシイ

金六明日ヤルコトニ話シテ居ク

夕方大毎へ電話シタガ丁度帰ッタアトデ十年式ノラストピースノ結果ヲ聞ケナカッタノハ残念デアッタ

◆▼268ページ◆▼ 昭和3(1928)年9月13日(木)

天気晴

昨日電通中沢分三分ノ一ヨリ取レズトテ當方ニ入金ナシ 飛行料ノ方モ明日トノコト

ニ今日ハ一文ナシ 京成電氣來 非常ニコマツタガ丁度猿田ガ來テ居タノデ話シタガ之又持ッテ居ラズ、明日ニ延期

今日総ガ、リニテ三葉組立ヲヤラセル 西田宗里ローンノ振動ヲ取ルノニ苦心 夕方機体ノ方へノ振動ハナクナツタガ前ガマダフレテ居タ

◆▼269ページ◆▼ 昭和3(1928)年9月14日(金)

天気晴

都筑氏カラ十一時ニ東京駅デ会ヒタイトノハガキガ來テ居タノデ工場ニ出テカラ上京十一時十分駅着 都筑氏待ッテ居タ 階上デソーダ水ヲ一杯ヅ、一寸書類ヲ出シテ説明シタダケデ都筑氏一向食事ヲ云ヒソウニモナイノデ自分ハ二十錢ヨリ持合セナク急ギノ用事ガアルカラトテ夕方ヲ約シテ分レ電通ニ行ク スグ金ヲ呉レタ 銀行ニテ現金ニ換エ東日ニヨル 大蔵一人 和田機代々木ニテ破損 今日ノ写真輸送ハ全然失敗 皆極リ悪ルソウデアッタ 一時局ニ行キ大毎機スパー一本取換テ済ムコトトナリ、麻羽布ノ仕入ニ行キ外ニモ少シ買物シテ三時大毎三帰ル 吉田氏後中務氏ニ会フ 五時都筑氏來 曙ニ行キ後子前田氏ヲ呼ブ 次回ハ十八日十時會合ノ打合セヲナス 談タマタマ旧イ事ニ及ビ明治時代ノ航空関係者ダケ會合ヲ催スコトノ申合セヲナシテ分レル

▲▼270ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月15日(土)

天気 晴

今日樋ロガ休ンダ 午後門松ガ休ミタイト云フノデ樋ロニ出テ貰フ
宗里ノローン又降スコトニナツタ イヤニナツテ仕舞

北河手形二十日迄延期

猿田來 三十円クレル 少ナイノデ弱ツタ 西田ガプラグ付ケアルモノヲハツシタノデ
氣ヲ悪クシタ様デアツタ。ダカラ持ツテ來タカラ付替エル様ニ云ツテ居イタノモノヲ、氣
無ナシサンニモ困ツタモノダ

飛行協会ニ参加申込書ヲ出サセル 菊池名儀(ママ)

大蔵ニ見積書ト手紙持タセテヤル

▲▼271ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月16日(日)

天気 晴

七時起床 一寸庭ノ手入レヲシテ朝食後アプロ胴体ノ羽布又イ一時頃終ル

一休ミシテ居ル處へ鈴木ト別府氏來 京都ノ飛行ノ件 アプロ尅時間百五十円 高等
飛行三百円 運賃片道三百五十円ハ市役所へ出シタ受書ノ写シ ソレニ対シ高等飛行
式百五十円 同二人乗百十円トノコトニナツタガ百十円ニサセル 運賃ハ鈴木ガステ
二百六十円取ツテ居タ アト百四十円シカナイノデ居イテ行カウトシタノデ鈴木ニ渡
シテ受取ラズ。ズル男ダガンノ手ニ六乗ラナイ

三時帰ル 座敷ノソウジヲシテ五時夕食 七時床ニ入ル アンリオノ使用方法ヲ考ヘテ
居カネバナラナイ

▲▼272ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月17日(月)

天気 曇少雨

定刻工場出 今日ハ六月分カラ帳簿ノ記入ヲヤル

午後ホックトノツヅルヲ買ヒニ田中上京サセル

鈴木ヨリ運賃百五十円取ルコトニシ内百十円受取ル スグ練生ノ集金 郵便ガ期日
デアツタノデ支拂ヲナス

荒木カラ何ニモ來ナイノデ打電ス

四時工場ヲ出テ八幡ノ八幡様ニ參詣 濃(ママ)具市ヲ見テ帰ル 夕食後家内トキント
ナリノ老母ト又見ニ行ク スグ帰ツテ床ニ入ル

都筑氏カラ明日十時ノ約束ダガ午後二時ニ会见シタシトノハガキガ來テ居タ

▲▼273ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月18日(火)

天気 雨

工場二出 大蔵立川二行クノデ東京製作所ノ様子調べルコト 日本飛行學校ノ不足部品ト発動機イソガセルコトヲ頼ム

鈴木ヨリ運残金三十円受取り上京 日日二行ク。内金出セナイカラ福永ノヲ間ニ合セルベク急ガセルカラ津田沼ノ方ハユックリヤツテ呉レトノコトデアッタ 実ニ残念デタマラナカッタガ、後チ來月中ニ仕上グルカ発動機ガナイカラ金ヲ貰エナイ様ナコトノナイ様ニシテ貰イタイコトヲコトワツテ居ク

局二行 明後日検査ノコトヲ打合セテ橋本ト会フ。

都筑氏訪問 同氏訂証(ママ)ノ計畫書ヲ見テ意見ノ交換ヲナシ創立費実費ハ半々支出ノコトニ定メ少時雑談シテ、神田ノ佐藤へ久シ振りニ行ク 丁度主人ガ居タ

土地空渡シヲセマラレ其爲メ差押ヲ受ケテ大分困ツテ居ル様子デアッタ

橋本ト須田町デ食事ヲ共ニシ、アンリオノ件協議 明後々日廿一日夕方菅野ニ來ルコトニ打合セテ分レル

▲▼274ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月19日(水)

天気 曇リ後晴

大毎金貰エナイコトニナッタノデ昨夜ハ金繰リノ夢バカリ見テ頭ガ重カッタ 八時半起床 朝食ニ二本ノンデ十一時工場ニ出ル 不用ノ品ハ皆賣立テル事 幾分ツ、デモ皆ニヤツテ事情ヲ話シ大毎機ヲ完成セシムルコトトス

飛行収入ヲ得ル爲メ成田ノ御祭りニ田中ヲ交渉ニヤルコトトス

今日リバテイトポートノタンクヲハツシテ賣ル 六十円余ニナッタガ淋シカッタ

▲▼275ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月20日(木)

天気 晴

大蔵宅ニヨリ同道工場行 田中アンリオ京都市行キノ件ヲ話シテ居ク 田中成田山へ飛行ノ件デヤル 一日寄贈 アト一日百円 近ク返事スルトノコトデアッタ

今日樋口君ニモ大毎内金ノ件ヲ話シ苦戦ノ諒解ヲ得 北河手形延期ノ件ニツイテ手紙ガ來タ

今日検査來ル予定ノ處來ラズ タ方局へ電話スル 明日行クトノコトデアッタ
荒木ヨリ廿五日帰ルトノ返電アリ

▲▼276ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月21日(金)

天気 曇り少雨

森川坂本氏來場 送ッタ芋ノ禮ヲ受クル 今日ノ検査ハ沢山アツタ割ニ順潮ニ進ンダ。
スベテ終了

宗里アブロ完成

大蔵一時間試飛行

東京ノ水産講習所ヨリ魚ノ空中輸送ニ関シ照介(ママ)アリ 明日田中ヲヤル事トス

▲▼277ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月22日(土)

天気 晴

少シ遅ク出勤 ソレデモ七時半着 今日ハ米ヲ買ッテヤラナケレバナラナイガ少シモナク
止ムナク夕方タンク二個拂下 コレデイヨ、賣ルモノガナクナツタ

日本飛行學校カラ發動機到着シタガフロートマダツカズ今日ハ車輪ヲツケテ組立ヲナ
ス 自分ハパイプヲヤル

村山二五円 同高橋ノ小供死ンダノ二五円香奠事傳ル

因幡本日止メルコトノ申出アリ

宗里ノ登録申請ト鈴木ノ定期検査願提出

橋本朝來ル予定夕方來 自宅へ帰ッテ夕食ヲ共ニシアンリオノ件協議 自分ハ買入ノ方
ニカラムキ橋本ハ借入ノ方ニ重キヲ居テ居タガイツレトモ決定ヲ見ズ、今夜出發 京都
ニ上田ヲ訪問シテ明後日各務ヶ原ニ行ク由 來月アンリオニ台出ル由 之レヲ最(ママ)
非取ルコト 篠原ニ拂下金主ヲサセルコトヲ進メル

▲▼278ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月23日(日)

天気 曇り晴

今朝兄ガ上京スルトノコトデ清平迎へニ行ツタガ夜十一時頃帰り今夜スグ帰坂シタトノ
コトデアツタ

花ヲ生ケタリ床ノ軸ヲ取替エ、庭ノ掃除 鉢モノノ手入レナドデ氣ヲマギラシテ居タガ
ヤハリ氣ニナルコトハ忘レラレナカッタ

▲▼279ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月24日(月)

天気 雨

十年式廿八日二間ニ合セルベク西田ト打合セル 今日ハラジエタート水止ノパイプヲヤル
中々思フ様ニ行カナイモノダ

机ノ鍵ガ分ラズツヒニ今日ハ明ケラレナカッタ

十年式試飛行其他ニ金ガ入ルノデ大毎機ノタイヤーチユーブノ金ヲ今日貰ツテ來ル様
大蔵ニ命ズ

▲▼280ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月25日(火)

天気 曇後雨

十年式検査ノ打合セラシテ大蔵上京セシム 明日午後芝入氏來ル由午後電報アリ發
動機部夜業ス 自分ハラジエターヲ完成シテ八時頃迄工場ニ居ル

▲▼281ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月26日(水)

天気 曇晴

昨日骨折ツタラジエター戰闘機ノ分デ間ニ合ワズ、今日晝過ぎ迄又カヽル
芝入氏來テ呉レタガ試験出來ズ明朝ヲタノンデ歸ツテ貰フ

鳥飼氏ヨリスグ來ヒトノ電アリ行タガ六時。夕食ヲ馳走ニナツテ歸ル 用件ハ所沢ノ將
校ガ發明シタ品物ヲ一手デ作ラセルトノコトデアッタガ先方ノ人ガ五時迄待ツテ居タ
ガ遅レタノデ會エズ 少シ、マユツバモノデアッタ

▲▼282ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月27日(木)

天気 晴

早朝芝入氏來場 十年式検査終ル

大蔵スグ上京 宗里、十年式、アンリオノ証明書全部貰フ

▲▼283ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月28日(金)

天気 晴

時事 秩父ノ宮勢津子姫ト御結婚

六時工場着 大蔵ヨリ昨日ノ報告ヲ聞キ出發ヲ見送ツテ西田成ベク早く返ス様命ズ
猿田ノヲ廻シテ見タガ大分ヨサソウナノデ兎ニ角曲ガツテ取付タノヲ直サセル。日本
飛行學校ノモ廻シテ見タガペラモ發動機モダメラシク閉口 黒米氏來。ペラノ代品ヲタ
ノム

佐々木ヨリ食費這入ツタノミ、ドウスルコトモ出來ズ 宅ノ方モ今日ハ六七十円メクラ
フ。ナントモナラズ氣ガヽ、デナイガ猿田ノ發送セネバ金取りニ行ケズ銀行モ取アエズ延
期ス

夜雲多クサエタ月が見ラレナカッタ

▲▼284ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月29日(土)

天気 曇リ

猿田ト日本ノ水上機發運轉ヲヤラセタガ自分ガ出懸ケル迄ニハマダ見込ミガ立タナカタ 十一時ヨリ上京 途中デソバ屋ニ這テテ(ママ)晝食ヲシタ時フト今日ハ土曜日デ局ヘ行ツテモダメダト氣ガツイテムダヲシタコトヲ残念デアッタ スグ函根土地ニ行ツタラ五日トノコトデ日日ニ行ク 大蔵ニ会ツテ時間ヲウツシ三時岡山石材ニ都筑氏ヲ訪問 丸善ノ食堂デ日本菓子デ茶ヲノミ、タイライターニナツタモノヲ見ル。今日ハタバソレダケデ局ヘ提出ノモノト株主ニ示スモノトノ二通デアッタ。資本家ヲソロルニ東京ダケデ來月二十日頃迄カ、ルトノコトデアッタ。代表者ハ自分ニナレトノコトデアッタ再ビ日日ニヨリタンクノコトヲ吉田氏ニ話シ前田君ノ金ノコトヲ大蔵ニタノシデ帰宅ス
都筑氏午後三時岡山石材会见

▲▼285ページ▲▼ 昭和3(1928)年9月30日(日)

天気 晴

猿田水上イヨ、ダメ 取降スコトニナル
日本水上發動機ダケ漸クヨクナル

▲▼286ページ▲▼ 10月

- 一 大毎十年式仕上ゲ
- 一 ライトプレーン進行
- 一 凧式グライダー特許ノ件
- 一 カスミヶ浦解決

▲▼287ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月1日(月)

天気 晴

時事 陪審制本日ヨリ実施セラル

今日井上ガ來ルノデ嬉(ママ)ンデ工場ニ出タガツヒニ來ラズ 非常ナ當ガチガッタノデ困ツタ 田中ヲ相羽ノ處ヘヤル

◆▼2888ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月2日(火)

天気 晴

大蔵ニヨリ西田ト二人ニ會フ 工場出 晝ノ米ナク苦心ノ末ヤット荒木ガ持ッテ居タノ
デ二十円借リル

田中昨日ノマヽ帰ラズ 金ハ勿論マダ貰ワナイ由

今日モ井上ツヒニ來ラズ。北河明日拂込ム旨打電シテ居ク

伊藤元義立川ヘ大蔵西田ノアトヲ追ッテアンリオノマグネト持タセテヤッタガタ方追ッ
ヒニ飛ンデ來ナカッタ

◆▼2899ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月3日(水)

天気 曇リ雨

田中マダ帰ラズ困ッテツヒニ門松ヲ猿田ヘ使ニヤルコトニシタ オトヲ江田君ガ來テ今日
ハ主人ハ銚子ヘ行テ不在カモ知レヌトノコト。井上カラハ買手ガ上京シナイカラ來タラ行
クト云フタヨリナイ手紙デ決心シテ午後上京 福知氏ニ話シテ内金トシテ百円受取ル
女工晝迄ハ金ヤル予定出來ズ午後休ム。大蔵ト立川ヘ電話デ話シスル。アンリオニ時ニ
出發シタトノコト 小川氏操縦 田中久保田太ト何ニカヤッテ居ル由。後川上氏ニ會フ
会社設立ノ件ニツキ「イケスニテ馳走ニナル。田中ガ三十万ノ資産ガアルトノコトデ映
晝ノ株ヲ持タセタイトノコト 自分モ進メテ呉レトノコトデアッタ 昨晚モ一昨晚モ其
爲メ田中ヲ馳走シタラシイ

明朝ノ米ガナイトノコトデ津田沼迄金ヲ持ッテ行ッテヤロウト思テ宅ヘ寄ッたら田中ガ
來テ居タノデ事傳ル 後門松來 猿田一文モ寄コサズ

◆▼2900ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月4日(木)

天気 曇雨

霞ヶ浦行キ 井上ニ會フ 今夜買手京都ヲ立ッ由入電アリタリトノコトデ明日ヲタノ
シム

金不足ヲ生ジ猿田ヨリ二十円井上ヨリ二十円借入レ

関根ニヨッタガマダ引取リナカッタ 引取リ次第知ラセルコトニ約シテ居ク
サンビームヲ積ミ込ムノニ遅レ四時半終ル

山田、旦代ト帰宅 宅ニテ夕食ヲ共ニシテ十一時二人ハ帰ル

◆▼2911ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月5日(金)

天気 雨

井上一行今日モツヒニ來ラズ
田中集金ニ上京セシム。女工、村山等請求アリシモヤレズ。日本水上ノ検査モ來ラズ
黒米氏ヨリ八日トノ入電アリ
何ンダカ故意ニヨツテタカツテ金ノ這入ルコトヲサマダゲテ居ル様ニ感ジラレル。ヒガミト
云フモノダロウ 橋本カラ佐野ガ大毎ノ請求書ニ判ヲ押シテ呉レト云フテ來タトノ電アリ
押シテハナラヌト返電ス

▲▼2922ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月6日(土)

天気 晴

思ワヌ天気ニナツタ 田中ヨビニヤル 前田君母堂葬儀デ金六貫エナカッタ由。奥山ハ所
沢へ行ツテ会空ズトノコトニスグ上京スルコトニス
猿田ノ水上機到着ス。ローン預リノモノ式台分渡ス 局ニ行ク 新井氏ニアブロ一機最
(ママ)非貫フコト 鈴木ノ分ト工場ノ分ノ處ガドチラカ一機トノコトデアッタ。深草練
兵場使用ノ件スグヤツテ呉レル由
井上長一ニ会フ 七日夜出發スルトノ電アリシモ八日井上飛行場へ海軍機到着ノ爲メ
用件アリ 帰坂後十日頃改メテ來ルトノコトデアッタ
アンリオ拡張願書伊藤、荒木ノ分ヲ提出。福知氏ニ丁度会ツタノデ佐野ノ件話シス。
氏ハスデニ諒解アルモノト思テ居タトノコトデアッタ 早速骨ヲ折ルカラト云ワレタ
奥山ニヨル 津田沼へ行タトノコトニヤ、安心シタガ今日ハ気分悪ク帰宅 少時横ニナツ
テ漸ク気持チヨクナツタ。夜大坂ノ兄來

▲▼2933ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月7日(日)

天気 雨

予報ガハヅレテ大雨 兄ト朝食後津田沼行き 田中宅ニ行ク 奥山全額呉レテ皆二分
ケテヤツタトノコトニ安心 一時頃迄工場方針ニツキ協議シテ歸ル
キングヲ讀ム 知覧君カラ久シ振リニ手紙ガ來テ居タ
兄ガ歸ツテ來タ時ニ六床ニ這入ツテ居タ
村山良ニ解雇ス

▲▼2944ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月8日(月)

天気 風雨

朝快復シノウナ空デアッタガ午後又悪クナリ四時頃ヨリハゲシイ風雨トナル 帰宅シタ

ラビシヨヌレデアッタ

村山良造解雇ス。平川木工入所ス

今日ハ終日小カイ借金取りニセメラレ、イヤナ日デアッタ。水上ノ検査又明日トノ電アリ 何ンダカ故意ニ延バサレテ居ルニ様ナ氣ガシテタマラナイ

▲▼295ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月9日(火)

天気 晴

快晴氣持チヨシ 検査官モ來 オソクナツタガ日本飛行學校ノモ終ル 明日ハ金ガ取レル筈 今日ハ十銭ノ金ニモ困ツタ。コンナコトハモウナイ様ニシタイ
大毎機ロンゲロン取替エハ閉口

▲▼296ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月10日(水)

天気 晴

田中ヲ金取りニ大蔵ヲ協会へ出張サセル 田中ニ成ベク早く帰ル様ニ云ツテヤツタガ、五時迄ニ帰レナカツタ 金太郎ガ明朝ノ米ノ心配ヲシテ居タ
夕方黒米氏來 日ノ入りト同時ニ飛ビ出タガ降ル時ハ少シ暗クナツタダロウ
猿田來 二十日迄ニ作ツテ呉レトノコトデアッタ 承知ス

▲▼297ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月11日(木)

天気 晴

大蔵ニヨツテ佐野ノ件申含メ工場ニ行ク 時間ハ遅クナツテ居ルノニ米ガナクテ、メシノ仕度ガ出來テ居ナイトノコト スグ金太郎ト田中ヲ呼ビニヤル 田中今朝帰ツテ來タ爲メ此ノ始末 今日バカリハダマツテ居ラレナカツタ。スグ仕度サセテ九時頃メシニナル
九時半帰宅 大掃除ヲナス。何ンダカ今日ハ工場ニ居ルノガイヤナ氣ガシタノデ
晝カ夜牛肉デモ買ツテ馳走スル様ニ命ズ
鈴木帰場 夜自宅へ來 昨日川辺ガ協会デ多勢ノ前デ鈴木ニ喰テカゝル様ナ事ヲ云ツタ由。ソレハ大蔵ヤ田中カラモ聞イタ

▲▼298ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月12日(金)

天気 晴

田中夕方帰ル 随分困ツタ

六月分引合せヲナス

菊池へ二十五円電送シタ由
猿田水上クレルジーヤ、有望トナル

◆▼3099ページ◆▼ 昭和3(1928)年10月13日(土)

天気晴

今日ヤツト猿田ノクレルジー受検出來ル迄ニナツタ

小館御達カツケノ爲メ帰国

田中猿田へ出張サセル 例ニヨツテ出足悪ルク十一時四十分ニ合ワナカッタラシイ
北河ノ百八十四円入金ニヤツタラスデニ返シタアトデアッタノデ百五十四円口ニ入金
其旨打電ス

◆▼3000ページ◆▼ 昭和3(1928)年10月14日(日)

天気晴

モンテクリスト伯ヲ讀ンデ居ルノデニ三日氣ガ取レテナラナイ 今朝モ讀ミツゞケテ十
時清平ト工場ニ行ク 清平ノ友二人來場 アンリオニ同乗サセル。田中ニ會フ 猿田前
水上ノ残金ヲ十七日附小切手ニテ與レアトノ分ハ二十日出來次第クレルコト 前月分ハ
前田氏ヨリ取ツテ與レトノコトデアッタ

一時帰宅 三時ヨリ信太郎明日遠足ノ入用品ヲ買ヒニ押上道一所ニ行ク 今日八十五
日ノ金ガ空ニナツテシマッタ 明日ノ事が氣ニナルナル

◆▼3001ページ◆▼ 昭和3(1928)年10月15日(月)

天気晴

工場出 後上京 正午日ニ行ク 吉田氏病氣 自宅へ來テ與レトノコトニ局へ行ク 猿
田水上検査十七日ノ打合せナリ萩野氏ニ補助金聞ク マダ來テ居ナイトノコトデアッ
タ 田辺へ手形送ル 吉田氏訪問三時過ぎタ

佐野スガツテ來テ居タ 吉田氏ノ話シ振り一向進マナイノデ自分カラドシ、話シヲ進
メテ侘(ママ)状ヲ書カセル 五時半辭シテ帰ル。佐野モ初メカラ悪イト思ヒナガラヤッ
タ事デアッタノデ今日トナツテハ良心ニセメラレルノデアアロウ

吉田氏ヨリ立川出張所ノ話シ出ル 考慮スルコトトス

◆▼3002ページ◆▼ 昭和3(1928)年10月16日(火)

天気晴

工場出 大蔵ニ前田金ノコト所沢ノ事クレ、云ヒツケテ自分霞ヶ浦ニ行ク 丁度今日引取り中デアッタノデ入用ノモノダケヨリ分ケ値段ヲキメテ近ク引取りニ行クコトトシテ帰ル
帰リニ大蔵ニ會フ 自宅ニヨツテ夕食ヲ共ニス
佐野塗料屋來テ居タ 明後日電通ノ分ヲ打合セテ大蔵ノ處デ分ル様ニシテ居クコトトス
九時帰ル。スグ床ニ入ル。今日モ前田金ニラズ明日ノ米ニ差支ヲ生ズ 実ニイヤニナツテシマウ。新規計畫ヲ建テ新資本ヲ運動シナイト之レ以上ハ所員モ、動カナクナルダロウ

▲▼303ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月17日(水)

天気 曇後雨

工場出 前田來場ヲ待ツ 晝迄ツヒニ來ラズ
菊池帰ル 明日出發セシメネバナラナイシ試験ニガソリンモ入ルシ、今夕ノ米ガナイノデ氣ヲモンダガ差シ當リ今夕ノ米ダケ田中ニ命ジ所沢へ行ク 東京デ大蔵ニ電話シテ居ク 所沢三時半着 此頃ヨリ雨降ル 橋本上京シタトノコト ヤハリ行違ニナツタ 五時過ギ迫待ツタ 後明日晝電通デ會フコトヲ書キ置イテ帰ル
工賃八月分ガ未拂ダソウダ イロ、調ベテ見ルト中々楽デナイ 之レデハ電通ノ金取ツテヤルノモカワイソウダ。佐野ノ分ダケニシテヤロウ
帳簿ガ今年度分ガ一字モ記入サレテ居ナイ

▲▼304ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月18日(木)

天気 雨

時事 訪日獨機コンカー式フユネフェルト男外二名乗組雨中ツヒニ到着 多摩川原ニ不着ス
終日ジャン、降リ通シタ 三型組立終ツタガ試飛行出來ズ
菊池小見川ノ飛行ヘ金取りニヤリ田中ヲ前田ヘヤル 四時頃菊池帰ル

▲▼305ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月19日(金)

天気 晴

猿田水上漸ク検査終ル 菊池十二時、一時間遅レテ奥山機大坂ヘ出發 奥山五時半大坂着 菊池浜松泊リ
今日ハガソリント前田君ノ金デ大ニゴツイタ 其爲メアンリ才出發明日ニ延期ス

▲▼306ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月20日(土)

天気 晴

七時工場ニツク 丁度アンリオノ立ッ處デアッタ

午後北河ヨリ〇時十五分飛行機ヨリノ手紙正ニ拝見トノ電アリ 今日ハ小幡ヶ原ニ泊

▲▼307ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月21日(日)

天気 雨

信太郎徳次ヲ連レテ工場ニ行ク 午後ヨリ雨降ル

今日大ニ仕事ガハカドッタ 自分モ記帳ヲナス 大ニカドル

昨日カラ酒ガノメナイノデ少シ淋シカッタ

▲▼308ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月22日(月)

天気 晴

終日待ツタガツヒニ猿田來ラズ

樂シニシタ菊池外津田沼組ハツヒニ入營セズ。マア事故ノナイノガ幸ヒ位ノモノ

大蔵二局へ大毎ト猿田水上二号ノ見込書提出サセル ツヒデニ荻野氏ニ金ノ事聞カセル

佐藤來 三葉ヲ出シテラジオ宣傳ノ爲メノ写真取ラセル 皆ニ茶菓子トシテ五円置イテ行ツタノデ早速役ニ立ツタ 今日ハ三十銭シカ金カケナカッタノデ

帰宅スルト宅デモ今日家主カラ又來テイヤナオドカシヲ云ツテ行ツタトノコトデアッタ

▲▼309ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月23日(火)

天気 曇後雨

猿田來場 江田山田氏ト会见 クレルジ一勘定 結局四十五円追加ヲ取ル 外ニ水上

分式百円ダケヨコス 支拂ヒニ一寸困ツタガ皆ナ少シツ、ケツツテ支拂 諸方ヤレナクナ

ル 電通分ヲヤル外ナイガ菱伊モアリ自動車屋、栄助、佐野等トテモ百弍十円デハ足リナイノデ困ルガ菊池ガ幾分デモ持ツテ帰ルコトト思ワレルガ此ノ天気デハ帰レマイ。大蔵今日所沢へ電通ノ試飛行ニ行ツテ鳥飼氏來 オートバイヲ賣ツタノヲ取りニ來タノデアッタ

アッタ

三時共ニ帰宅 途中早ク金ヲ持テ帰テヤリタイト思ツタノニビールヲノンデ行クトテ駅

前デ三四十分ツヒヤス 共ニ帰宅 夕食後帰ル

▲▼310ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月24日(水)

天気 雨後晴

今日ハ平凡ナ日デアッタ 思ヒガケナク大場君ガ來テアブログホシイトノコトデアッタ
結局廿六日ノアンリオヲ作ッタラドウカト云フコトニナツテ明日局へ行ク事トス

▲▼311ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月25日(木)

天気 曇リ

工場へ出テスグ上京 局ニテ大場ト會フ アンリオ大場ニ又ツクルコトトス。十年式ノ請
求書ヲ出ス 四四八円モ二百ハタシカニ貫エタノニ、オシイ事ヲシタ

日日ニ行キ橋本ヲ待ツタガ來ラズ 電通ハ昨日金ヲ渡シタ由。五光商会ニ行キ蓄電池
ヲ注文シテ塗料屋ノ照(ママ)介ヲ受ケ大毎機ノ塗リ方ヲタノンデ日日ニ帰ル ツヒニ來
ラズ 航空懇談会ニ出席 今日ハエイ人ガ多カラ古屋閣下ニ所沢ノ禮ヲ述ベル。川上
氏ニ會フ。会社ノ方急グ由 日曜日ニ作ルコトヲ約ス

十時帰宅 橋本七時頃來タ由 明日午後來ルトノコト 局ニテ御原氏ト會フ 名古屋
東京間ノ件大至急ヤルコトトナリ明日書類ヲ作ルコトトス

▲▼312ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月26日(金)

天気 曇

時事 帝国飛行協会々々会(ママ)坂谷氏総務理事谷田氏実行委員長山田氏副会長草
間氏太平洋飛行問題ノ責ヲ取ツテ辭職ス

工場ニ出テ米ノ事ト電気屋へ大蔵ヲヤツテ間ニ合セ御原氏トノ約束ニヨリ上京 途中
宅ニテ晝食ヲ取ル

書類ガ間ニ合ワナカッタノデ東京デ作ルベク参考書ヲ持ツテ行ク 御原氏四時過ぎ來
止ムナク社ノ應接ニテ大体ノ案ヲ立テ一度橋本モ來タノデ銀坐ニテ支那料理デ夕食
ヲ共ニシ分レテ橋本ト工場ノ事ニツキ話シツ、須田町迄歩ク 十一時帰宅

▲▼313ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月27日(土)

天気 曇リ

菊池、荒木西田ニ佐野清三郎ノ件報告

今日ハ東京名古屋間ノ予算書ヲ作ルノニ大急ガシデアッタガツヒニ第二期迄シカ計算
出來ナカッタ 其内ニ二時ニナツタノデ中止シテ上京 四時半日日着 五時御原氏來

出來タダケ渡シテアト郵送スルコトトシ五時半湖月ニ行ク

民間ト云ツテモ學校経営者ヤ新聞記者連中デアッタ 記者連中ガ飛行協会ノ総務理事、会長ノ総辭職事件デオソクナリ漸ク七時頃開宴 十時頃終ル 馬詰ヨリ民間飛行士採用ニツイテ力説スル處アリ 大ニ吾意ヲ得タルモノデアッタ 十時頃辭シテ川辺、山田ト共ニ歸ル
局ノ金十年式分受取ル

▲▼314ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月28日(日)

天気 曇リ雨

今日モ予算書ヲ作ル予定ナリシモ昨日金ガ這入ツタノデ今日中ニ買物ヲシテ居ク必要アリ徳次ヲ連レテ上京 ベニヤ板、銅板、蓄電池、テープ等ヲ買フ 歸リニ雨降ル 徳次ニ洋食ヲ馳走シテ三時帰宅

高見氏ヨリ明日午前十時半東京駛着ノ電報アリタレドモドウモ行ケナイノデ大蔵ヲヤルコトニス

▲▼315ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月29日(月)

天気 曇リ雨

工場出 今日ハ雑用ニイソガシク例ノ予算ハ出來ナカッタ 給料合計百十八円支拂 ソレデモ一通リ行渡ル

西田朝來テ居タガ猿田ニピストンリング貸スコトツイテ不服デアッタガ荒木ニ持タセテヤツタノデ休ンデシマッタ 夕方歸リニヨツテ見テヤツタラ大分酒ニヨツテ居タ 家内ガ泣イテ居タガ自分ト話ス内今度ハ本人ガ泣出シテ仕舞ッタ。同人ハ七千円位這ナラ金ガ出來ルトカ、工場ノ爲メニ全力ヲソ、イデ來タトカ最近ハヅベラシテ居ルガトカ、クレルジ一部品集メルノニ苦心シタトカクド、ニ云ツテ居タ。先ヅ慰メテ居テ明日ノコトニシテ歸ル

西田、菊池ハ工場ノタオレル追ハヤルツモリデアルコトハ明ラカデアルガ、ソレナラ今少シ眞面目ニナラナクテハ反ツテ工場ニ居ル爲メニ悲境ニオトシ入レル様ナモノダ

▲▼316ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月30日(火)

天気 雨

午前中工場ニテ輸送計畫ヲ作ル

永田氏來 アブロノ金通知アリタリトノ事ニ菊池ヲヤロウト思ツタガ寢テ居タノデ自分で上京 宅ニテ晝食後局ニ行ク 荻野氏出張中 明後日歸ルトノ事ニ五日デナケレバ

金ニナラナイコトヲ覺後(ママ)ス 課長ト一寸工場ノコトヲ話シス。安井氏死シタトノコトデアッタ 氣ノ毒ニ
安部、芝入氏ニ会フ 明後日東京出發渡歐スル由
日日ニ行キ成田へ電話シテヌリノ交渉ヲトゲ帰宅
夜鈴木菊、葛西家内來ル

▲▼317ページ▲▼ 昭和3(1928)年10月31日(水)

天気 晴曇リ

今日ハ悪イ日デアッタ 向井運送店ノ件裁判所ヨリ請求來
午後大川夫人來 主人病氣デ入院スル爲メニ最(ママ)非必要ナリトテ泣キ込マレテ閉
口 明日兎三角三十円持參 アト六日三十三円 其上ハ其時ノコトトシテ五時頃漸ク
帰ヘス
大蔵ニ夕方會フ 今カラスグ着陸場ノ視察ニ行クトノコトデアッタ 伊藤氏金取レズ
前田謙田二等飛行試験下志津立川間ニ行ワル
兄十一時頃來 大分ヨツテ居タ

▲▼318ページ▲▼ 11月

- 一 大毎機完成
- 一 ライトプレーン進行
- 一 カスミヶ浦
- 一 凧式グライダー
- 一 タンク製作ノ件

▲▼319ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月1日(木)

天気 晴

北風強ク寒カッタ 厚イオーバーガ丁度ヨカッタ
鈴木ヨリ三十三円廿錢ト佐々木ノ食費受取ル ソレヲ持ツテ夕方上京 大川三十三円
ヤリ伊藤氏ヲ訪問 三日朝自宅デ受取ルコトニナル
阿部芝入氏見送りニ東京駅ニ行ク 意外ニ見送人ノ多カッタノニ驚イタ 帰宅夕食後
十二時床ニツク

▲▼320ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月2日(金)

天気 雨

田中ツヒニ來ラズ 今日入営シタ筈

猿田昨夕來場セシ由 菊池ニ金ノコトヲ話シテ居カナカッタノデ失敗シタ

西田昨日出ナカッタノデ自分デ今朝向ニ行ツタラ丁度出荷スル處デアッタ

坂本氏來 鈴木アブロ検査終了 同クレルジー同ジク

今朝ノ新聞ニ獨逸ノ訪日機協会へ寄付シタトノコトニ研究上工場ニ保管スベク谷田總務ヲ訪問 右述ベルト立川ノ隊ニ預ツテ貫フコトニナツテ居ルガイッ迄デモト云フワケニ行カナイカラ近ク御願ヒスルトノコトニ東日ニ吉田君ヲ訪ヒスグ帰ル

▲▼321ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月3日(土)

天気 晴

八幡ノ學校ノ運動会ガアルノ晝ノ辨當ヲ持ツテ行キナガラ小供ヲ皆連レテ見ニ行ク。イタイケナ小兒ノ運動ヲ見テ居ルト涙ガ出テキマリガ悪ルカッタ 仁三郎ガ帰ルト云フノデ三時頃先キニ帰ル

信太郎ハ計算競争デ一等ヲ貰ツテ來タ。一年生ノ頃カラ競技毎ニ必ずナニカシラ貰ツテ來ルコトハ自分ノ小供時代ヲ省ミテ、ヤ、有望ナ氣ガシタ

夜八時頃田中來 一日夜行デ帰ツタ由 今日ハ十二時迄外出ヲ得タトテ九時過ぎ迄話シテ帰ル

▲▼322ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月4日(日)

天気 晴

秋晴レノ氣持チヨイ朝デアッタ 後雲ガ出テ曇ル 寒カッタ

猿田來ラズ 明日局行キニツキ菊池ニ留都(ママ)タノム

今日ハ川上ノ会社予算ヲ作ロウト思ツタガドウシテモ出來ナカッタ 要スルニ自分ガ正直スギル爲メダガ、ドウモ自信ノナイ予算書ハ出來カネル

▲▼323ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月5日(月)

天気 晴

上京ノ爲メ朝ユツクリ出來タ。局ニ行ツタガマダ金ハ出テ居ナカッタ 荻野氏ニ聞イタラモウ出ル筈ダトノコトニ午後二時頃再ビ行ツタガマダ明日ノコトニシテ津田沼ニ帰ル

局ニテ高橋ニ會フ 大毎九号機修理ノ件ニツキ 後子日日ニ吉田君ト會フ

十日前ニ金取レル様猿田ニ手紙出ス

伊藤光義ニ三日飛ンダカ〇取レタカ聞イテヤル

▲▼324ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月6日(火)

天気 晴

時事 今朝七時宮城ヲ御発輦 天皇皇后兩陛下京都へ向ワセラル 赤子昨夜ヨリ沿道ニアフル

十時經理ニ行ツタガ昨日來タガ委任状ガナカッタトテ返シタ由 荻野氏ニ行クト今朝ヤツテ居イタ 悪ルカッタトテ特ニ名刺ニ早クスル様書イテ呉レタ ソレデモツヒニ三時半ニ漸ク小切手ガ出來タノデ日本銀行へ行ツタガ間ニ合ワズ、工場ノ米ガ氣ニナツタノデ宅ニヨリ清原ノ金ヲ二十円持ツテ工場ニ行キ菊池ニ渡シ明日ト明後日ノ打合セヲナシ帰宅 荒木待ツ 富山一日三百円デセツテ呉トノコトデアル由 返電スルト同時ニ手紙ヲ書ク

▲▼325ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月7日(水)

天気 曇り雨

八時丁度高野來 佐々木今行ツタトノコト 八時半ニ合フマイト思ツテ居タラヤハリ間ニ合ワナカッタソウダ

高野ヲ連レテ上京 日本銀行ニテ金受取り電報ニヨリ來テ居タ大川ノ小僧ニ三十円渡ス。局へ行キ富山迄飛行ニツキ課長ニ相談 高田、高崎借用願ヲ出スノデ遅レ十時半ニナル。スグ行ケバ十一時二合フガ宮崎デノ買物ニドーウタガ宮崎ノ名ガ思ヒ出セズ。止ムヲ得ズ高野ヲ連レテ買ヒニ行ク途中ヤツト思ヒ出シタ 頭ノ悪クナツタノニ、ツクゞ、イヤニナル 何ントカセネバナラナイ。スグ上野ニ行ツタガアトハ一時三十五分シカナク、止ムヲ得ズ駅前デ食事ヲ取り時間ヲツヒヤシテ行ク。行ツタラ十年式ノ翼ヲ菊ノ屋会ニ賣ツタトノコト 大毎九号機ニヤツテ少シ金ヲ生ミ出スツモリガ、スツカリアテハツレ、コ、デモ五時ニ乗リオクレ七時ニテ帰宅

荒木門松三溝ガ待ツテ居タ。富山金送ツタトノコトデ門松ヲ高崎高田間ニ合ワズ、尾島ヨリ松本ニ出ルコトニシタトノコト 門松ヲ尾島へ 富山ハ佐々木ヲヤルコトニシ準備金百五十円ヲ渡ス

▲▼326ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月8日(木)

天気 曇り雨

昨日トチガツテ今日ハ又東京駅ニツイタラ予定ヨリ一ツ前ノ汽車ガ十分遅レテ充分乗レルノデアッタガ余リ早イノデ止メル 山田氏ト東京駅デ會ヒ車中馬詰氏ニ會フ。オカゲデ、タイクツハシナカッタガ馬詰ノ酒クサイノデ少々ナヤマサレタ

今日ハ手ツゞキガ遅レテ四時ノ汽車ニ漸ク乗レル

片岡安藤ト新橋ノ太田屋デ夕食ヲ共ニス 片岡ガ支拂ヒラシタ。珍ラシイコトデアッタ
ガ太田屋二十何年振りデアッタ

今日ハタレカニ、オゴラナクテハナラナイカト思ツタコトガ、アベコビナツタノデ恵美子ノ
洋服ヲ買ツテヤツタ 帰ツタラマダ起キテ居テ嬉(ママ)ンダ

▲▼327ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月9日(金)

天気 曇リヤ、晴

久シ振リニ工場ニ出ル気ガシタ 補助金ノ残ト富山ノ金ト合セテ四百円バカリアツタノ
デ全部皆ンナニ分ケルコトニシテ支拂表ヲ作り菊池ニ渡ス 大体一ヶ月分ヅ、渡スコトガ
出来タ。猿田何ニカ自分ニカケ合フ事ガアツテ金ヲヨコサナイトノコトデアッタトカ 明
日来ルトノコトニ宅へ來ル様江田氏ニ事傳ル 晝ヨリ上京 徳次ヲ連レテ行ク。函根土
地へ格納庫料ヲ取りニ行ツタラ丁度川上氏が居タ 金六十五日トノコトデアッタ 十一
日ハ津田沼へ來ラレナイトノコトデアッタノデ又少シ延バスコトガ出来タ 十四日京都へ
行クトノコトニソレ迫ニ送ル約束ニス。都筑氏ニ會フ 今各務謙吉氏ニ話シテ居ルガ之レ
ガ出来ナケレバ一寸見込ミニナイトノコト。脈ハ九分切レタト見テヨカロウ。御原氏ノ話シ
ヲシテ諒解ヲ得ル。然シ信用ヲ調べテ見タラトテモ、ダメラシカッタ
インデイアンノ返事ガアツタノデ今日行ツテ見ルコトニシテ玉井氏ヲ訪フ 不在 シバラ
ク待ツテ現品ヲ見兎ニ角検査合格スル様ナラ買フ約束デ二十円預ケテ、スグ佐藤ニ行
ク。大場ト高橋ニ會フ 橋本マダ帰ラヌ由。ソレカラ色々買物ヲシテ十時帰宅。家内ヤ
小供ハ喜ンダガ、フトコロガ氣ニナル

▲▼328ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月10日(土)

天気 晴

時事 京都ニテ御大典ノ式ヲ擧ゲサセラル

昨夜買ツタエミ子ノクツガ丁度デ仁三郎ノガ大分大キカッタガ妻ハドチラモ満足シテ居
タ 善悪供ニ絶対服従シテ満足ヲ得テ居ルラシイ無學ナアワレナ妻。之レニ対シ自分ハ
七分ノ満足ト三分ノ物足りナサヲ感ジル

家内、キン、徳次、仁三郎、エミ、満ヲ引連レ上京ス 上野ノ博覧会カラニ重橋前デ丁
度三時 アノ広場ガ人デ一杯デアッタ ドント同時ニ万歳ノ声一セイニ上ガツタガ広い
爲メカ、ソレ程ニ大キクキユエナカッタ。人ニモマレナガラ銀坐ニ出デ、アスターデ八円ノ
テールブルデ皆ンナガ、喰ヒ切レナイ程タベサセタノデ大嬉(ママ)ビデアッタ。円タクデ帰
ル。兎ニ角コンナコトハ自分トシテハ生レテ初メテ 家内モ結婚後初メテ タゞ、ガマロノ
中ヲ氣ニシナイデ、時々、嬉(ママ)バセルコトガ出来レバヨイノダガ

大蔵ハ今日広島行 荒木高田泊リ

▲▼329ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月11日(日)

天気 晴

定刻工場行キ 人が少ナイデ、サミシイ

自分デ猿田ノ横カバーヲ作ツテ高野ニ手傳ワセル

今日モ川上氏ノ予算ガ出来ナカタ ドウモ氣乗リガシナイ。定期ノ予定線ヲ朝鮮ニ取ルコトニダケキメル

田中午後來 四時帰ル

伊藤京都ヨリ貳百円送ツテ來ル

▲▼330ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月12日(月)

天気 晴

九時高橋辨ゴ士ヲ訪問 向井分裁判所ヨリ支拂命令來タコトニツキ、自分ノ考ヘト状

態ヲ話シ諒解ヲ求メテ帰場 一時間程工場ニ居テ上京 局ニ行ク 高橋來テ居ラズ

大毎ノ内部検査明日來テ貰フコトヲ頼ンデ、日日ニヨル タレモ居ラズ 原氏ニ電話スル

田辺氏ガ銀坐ノ店ニ居ルカラ會ツテ呉レトノコトニ行ク。氣ノ毒ナ程丁寧ニ來ル 廿二

日ニ難関ガアルノデ最(マ)非助ケテ貰ヒタイトノコトニ大ニ恐縮シテ兎ニ角大毎ノ内

金ライクラデモ取ル様大坂へ行ツテ運動シテ返事スルコトトシテ帰ル

▲▼331ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月13日(火)

天気 曇リ

終日工場 女工ニ今日ハ硝子フキト工場整理ヲヤラセル

猿田カラ七十円着 五十円白戸へ持タセテヤル

今日ノ一日ハ大変永イ氣ガシタ

中川氏來場 大毎機検査通ル

右検査中ニフト思ヒツイタコトハ仕事ノナクナツタ時ニ自分ノ内ノ仕事ヲヤルコトデア
ルガ之レヲ適當ニヤレバ本工場ノ仕事ダケハソレデモ維持ガ出来ルカラ他ノ仕事ハ全部所
沢デヤラセルコトニスルモヨカロウト思ツタ

▲▼332ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月14日(水)

天気 晴

時事 大嘗祭ヲ行セラル

終日在宅 朝球根類ノ植付ヲナス
夕方ヨリ仁三郎ト恵美子ヲ連レテ中山へ参詣ス 明日カラ御祭りデ店出シデ、イソガ
シソウデアッタ

◆▼333ページ◆▼ 昭和3(1928)年11月15日(木)

天気 曇雨

正午後ヨリ上京 函根土地ニテ二十五円受取り日日ニ吉田君ト會ヒ金ノコトト西田
ノコトタノム。日日ニテモ別ニ飛行機ヲ二台待(ママ)チタイトノコト 六ヶ月ノ予算二万
円 之レガ計畫書ヲ作ルノヲ手傳フ 五時過ぎ清平來。オーバーヲ買ヒニ行ク

◆▼334ページ◆▼ 昭和3(1928)年11月16日(金)

天気 晴

五時半起床 七時四十分東京発 ○時四十三分江尻着 車中例ノ頭工合悪ク持参
ノ本モ一頁モヨマナカッタ 根岸君ガ向エ三來テ呉レテ居タ 自動車ト發動機船デ三保
ニ渡リ格納庫ニ入ル 住居モ一所ラシクカン易生活デアッタガ、ラジオト編流則(ママ)
定器ダケガ馬鹿ニ光ツテ見エタ

辻本氏が先日來テロンゲロンヲ取替ヨトノコトデアッタトノコト ソレカラ福永ノ營業振
リヲ大分聞カサレテ大ニ参考ニナッタ 三時ニ水産場ノ人來 見積書ニ書キ入レルベキ
事項ヲ聞キ四時辭シテ五時二十分ニ帰宅 十一時半 富士ノ眺メノヨイ處デアッタ
今日ハドコモ御祭りサワギデ賑カデ(ママ)ッタ

◆▼335ページ◆▼ 昭和3(1928)年11月17日(土)

天気 晴

定刻工場出 樋口村山來ラズ 樋口交渉午後ヨリ出ルコト 村山妻君ニ何ントカ都合
スルコトヲ交渉ス

上京 根岸ノ機体ニツキ辻本氏ヨリ状態ヲ聞ク 吉田君ニ金ノ件大坂へ電話シテ貰ッタ
ガダメ 岡田氏ニ會ヒ大毎ノ金這入り次第イクラカ入レルコトヲ約ス。大変丁寧デアツ
テ氣ノ毒デアッタ

ベニヤ板ヲ買ヒ佐藤迄カツイデ行キ預ケル
ハモンドノ残金支拂ヒ羽布引取ル

佐藤ニテ所沢へ電話スル。アンリオイヨ、ダメ 中央翼引取ツテ直スコトニナッタ由

▲▼336ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月18日(日)

天気 曇後雨

定刻前出勤 皆ノ時間ガオソカッタ ソレデモ村山ガ來ナイノダケデ皆出タノト寺川ガ歸ツテ來タ

晝迄居テ午後中山寺ニ參詣 四五円ダケ植木ヲ買ツテ歸ル

▲▼337ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月19日(月)

天気 雨

午前中工場 作業大分ハカドル 菊池醫大へ

午後上京 東日ニテ百円ダケ借リル ステーションホテルニ中山氏訪問 其後久シク會ワナイノデ話シガ永クナル。駅ニ新ラシク出來タ浴場ニ入浴シテ○屋ニ案内 日本亜鉛鋳ノ人ト同行 食事ヲ共ニシ八時四十五分發ニテ出發ヲ見送り佐藤ニ立寄り麻布ヲニ反持ツテ歸ル

佐藤ヨリ電話ニテ英二四ミリケーブル線ヲ聞合セタガナク前ノ金ノ請求猛烈ニ大ニシヤクニサワル 拂ワナイノハ悪イト分ツテ居テモ、ソコハハリ感情ノ動物デ余リヒドイト腹ガ立ツ

帰宅スルト大田ト佐々木ガ來テ居タ。羽布持ツテ歸エス 根岸ガツイ先キ迄待ツテ居タ由 置手紙ヲ見ルト三葉ヲホシイトノコトデアッタ

▲▼338ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月20日(火)

天気 晴

近頃コンナ好晴 六時出ル 七時金町發霞ヶ浦行キ

今日ノ入札物明後日ノモノノ下見 明後日ノハンザー廿七日分 外ハ立派ナモノバカリ局デ知ラナイノハ馬鹿ゲタコトデアル 之レガ対策ヲ考へ兎ニ角明朝局へ行ツテ見ルコト。十台位デ取りタイニツキ金ノ調達等ヲ考ヘル 今日ノ入札ハ五百七十円 アトデ商人等ガ、ヤツテ自動車式百五十円、發動機三百廿円、機体三百廿円。自動車八片岡 其他ハ横須賀ノ小林。自動車ノ内ハックス式台ダケ口約ス

▲▼339ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月21日(水)

天気 雨後晴

定刻前工場出 田中ニ手紙ヲ書キ菊池ニ仕事ノ事ヲ云ヒツケ上京 局ニ行ク 井上氏ノ處へ丁度洋主計長カラ手紙ガ來テ居タ處デアッタ。入札ハ横須賀デヤルコトハ知ラナ

カッタ 井上外五名へ打電スルコトナリ自分カラ朝日ト日日ニ知ラセニ行ク。久シ振リ
デ朝日ニ行キ久松氏ニ會フ

日日ニテ四時迄居ル 大蔵金沢ヨリ大坂へ今日帰ル 櫛部氏尚不明 四時ヨリ川上氏
ニ會ヘク赤坂ノミヨシト云フ待合ニ行ク。謄写版ズリガ出來テ居タ 工場買収費廿五
万ノ内十万円ハ発起人株ニシテ呉レトノコトデアッタノデ卅万円ニ値上ゲサセル 明日
ノ拂下ノ資金共同デア出資サセルコトヲ話シタガ長田君ガ居ナイノデダメ。函根ニ式台
ダケハ買フコトノ約束ヲツケル

帰途佐藤ニヨリ所沢へ電話シ橋本ニ明日夕方日日デ會フコトヲ命ズ
帰宅 鈴木來。手紙菊池へ事傳ル

▲▼340ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月22日(木)

天気晴

朝食氣持チ悪ク、喰ワズニ上京 東京駅へツイタラ丁度十分程オクレタ アトノ汽車デ
行ク 十時四十分横須賀着 車デ軍需部ニ行ク 局井上、堺井上、安藤ヨリ吉永、日
本飛行学校木暮ガ來テ居タ 商人ヨリ協商ノ申込ミアリシモコトハリ入札 一時開札
式千弍百ニ入レタガ商人側デ弍千弍百八十餘円ノ札アリシモ予算ニ達セズ自分等ハ田
浦ニ引上ゲル 二時半電話デ聞キ合セルト、マダ決定セズ 希望ナラ來テ呉レトノコト
デ自動車ニテ行キ局井上氏ニ交渉シテ貰フ 結局千六百円迫入レタガ予算ニ達セズ、
明日ノ事ニナッタノデ車中局カラ明日海軍省ヲ通シテ交渉シテ貰フコトニシテ自分ハ日
日デ待ツテ居ル橋本ニ會ヒ、京橋ニテ夕食ヲ共ニシ、決算ノ事來年度ノ事ニツキ一寸相
談シテ帰ル

▲▼341ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月23日(金)

天気晴

今朝ハユツクリ、散髪迄シテ工場ニ出霞ケ浦ノ片岡ニ手紙ヲ書キ三保ノ根岸ニ返事ヲ書
キカケタガ思ヒ返シテ明日行クコトニシ十一時四十八分静岡駅ニテ會ヒタシト打電シ
テ上京 途中田中除隊ニナツテ帰ルノニ會フ 局ニ行ツタガ今日交渉ニ行ツテ貰ツタガマ
ダ帰ラヌトノコトデアッタ。取レタラ七台程予定シテ居イテ貰フコトニシテ田辺へ手形ヲ
持ツテ行ク 不在 預ケテ帰ル 四時半帰ル。チンヤデ小切レヲ四十万買ツタラ皆ビツ
クリスル程アッタ

▲▼342ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月24日(土)

天気晴

七時三十分発ニテ静岡行き 駅ニ根岸見當ラズ出テ待ツ 助手來 都合ニテ浜松駅ニテ待ツトノコト スグ電話カケト(ママ)貰フコトニシタ方迄時間ガ出來タノデ練兵場ニ青島ヲ尋ネシバラク居テ市内見物ヲシ公園ノ山デ自轉車商ノコトヲ聞キ、金太郎ニヤラセテ見タイ氣ガシタ 五時ノ汽車デ見エズ一時駅前ノ旅館ニ入り入浴夕食後アンマヲ取ル 青島再ビ來 九時頃根岸來 弍千五百円本所ニテ取 弍千円十年式ヲ千五百円ニ見積リ引取ルコト 三葉ロールスロイスヲ付ケ四月中旬引渡シノコト 補助金本所受取りノコト 十年式計器類ハ返スコトニテ話マトマリ十一時四十五分ニテ出發ス

▲▼343ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月25日(日)

天気 晴

五時半東京駅着 帰宅朝食後工場ニ出ル
書道工場ニ居リ午後止京一日日ダケヲ帰宅 久シ振リデ終日工場ニ居ル

▲▼344ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月26日(月)

天気 晴

上京 局ニ行 大場ノ免状ヲ立野氏ニ、クックノ書類ヲ中山氏ニ渡シ、ハンサーノコトハ井上氏ヨリ更ニ入札ノヤリ直シニツキ此度ハ局カラ指名ノ民間航空関係者六名ダケニヤルコトニナツタトノコトデアッタ。日日ニ行キ吉田君ニ會フ 格別ナ用件モナカッタノデ一時半ニテ霞ヶ浦行き 関根不在。マダ引取りハスンデ居ナカッタ。片岡ニ行キ會ツタガ今日ノ井上氏ノ話シデ片岡ノ方ハダメ 七時三十分ニテ帰宅 菊池ガ停留所ニ來テ居タ 清平ガ入院シタトノコトデ一度宅ニ歸リ妻ヲ病院ヘヤル 菊池ハ明日ノ打合せヲシテ工場ニ返ス
今村帰場 本日ヨリ出ル

▲▼345ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月27日(火)

天気 晴

七時半起床 スグ出カケテ押上ヨリ病院ニ電話シタラヤハリ、モー腸デ手術スル程デアハナク今日ハイタミモ取レタトノコトデアッタ 午後行クコトニシテ川上宅ニ行ク 長田氏ヘ行ツタカラ來テ呉レトノコトデ渋谷ニ行ツタガ丸子園デ待ツテ居ルトノコトデア行ク。此頃カラソロ、又ヒタイガアツク、頭ガモヤ、初メタ 丸子園デ初メテ長岡三保ニ氏ニ會フ。今日ノ相談ハ十二月十五日ニ株式会社ノ公募ヲスルコトニナツタトノコトデアツタガ發起人ガマダキマツテ居ナイノデ發起人ト創立費ヲ川上長田デマトメルコト 事業計畫ヲ自ガ作ツテ明日会社ハ届ケルコトヲキメ外ニ資本金問題ガアツタガコレハ十万円

ノ四分ノ一拂込トシテ製作ト航空輸送ヲヤルコトニキメテ帰ル 陛下ノ還幸デ、日日新聞ニ行ケズ、病院ニ行キ電話デ話シス。先日ノ百円月給デ差引サレタトノコトデアツタ 明日行クコトニシテ五時頃小林氏ニ会ツテ禮ヲ述ベ帰ル。
田中來 十時過ギ追話シテ帰ル

▲▼346ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月28日(水)

天気晴

午前工場出 晝鳥飼氏來場
一時半ヨリ上京 今日検査來ラズ交渉 明後日來ル由 スグ鎌田ニ打電ス。日日ニ行キ
バックス内金ノ領収書提出 百円也
帰りニ清平ヲ見舞ヒ帰ル
橋本善喜工場へ來 田中ニ會フ様云ヒツケル

▲▼347ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月29日(木)

天気曇リ

今日ハ寒イ日デアッタ 久シ振リデユックリ寝テ十一時エミ子ヲ連レテ工場ニ出ル
橋本善喜ノコト田中ニ会見 練習生トスルコト 服ヲ直スコトヲ命ズル様話シヲス
今村昨日友達ト上京 今日ハ醫者行。マダダラシガナイ
大蔵昨日帰宅 今日上京 會ワズ
西田早朝ヨリ出勤
夕方横廠試運轉 明日天気悪シキ見込ミニテ菊池、小見川ニヤルコトヲ命ズ

▲▼348ページ▲▼ 昭和3(1928)年11月30日(金)

天気晴

定刻前工場出 西田休 菊池八時半 今村休 仕事ニ不熱心ニハジリ、サセラレル
辻本坂本両氏晝頃來 猿田水上。ヘラ振動爲メダメ。鈴木アブロ終了 但シ辻本ノ検査
振り実ニイヤナ感シガシタ。テールヲ取ハツシテ、パイプへ調べタメドハ馬鹿ゲタ検査振
リデアッタ
上京オクレ三時出カケル。病院へ行ツタラ四時半、請求書ガ來テ居タ 見ルト三十二
円余 一寸困ツタガ受取ツテ居イテ日比谷ノ橋本ニ行ク。タレモ居ラズ 延期ニナツタ
トノコト 馬鹿氣タ目ニ會ツテ帰ル

▲▼349ページ▲▼ 12月

- 一 大毎機金ニスルコト
- 一 ライトプレーン進行
- 一 三葉機完成
- 一 凧式グライダー

▲▼3550ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月1日(土)

天気 晴

今日ハ大蔵ニ立寄り五日ノ清算デハ入院料、米代櫛部ノ香奠ナド、足ラナイノデ今日百弍十円仮出シヲスルコトヲ頼ム。西田出 三葉ニカ、ル 終日工場 夕方、霞ヶ浦ノ出張員九名來場 岡崎特務少尉引率 少憩後竹春屋ニ案内サセル
 帰宅 七時床ニ入ル 大蔵立寄り今日仮出シ出來ズ五日ニナルトノコトニ閉口シタガ明日入院料ノ方ダケ何ントカスルコトニスル
 鈴木本日帰場 京都ニテノ飛行料八十円ノ内四十円伊藤渡シ 五円カストル代 三十
 五円田中受取り京都へ出發ス

▲▼3551ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月2日(日)

天気 曇リ後雨

八時起床 信太郎徳次恵美子ヲ連レテ海軍ノ定軍予行ヲ見ルベク太神宮下道行ク
 間モナク丁度東カラ霞ヶ浦機ガ津田沼方面ニ行キ正面海ヨリ横須(ママ)機ガ飛行シ頭
 ノ上デ合体シテ東京方面ニ行ツタ 飛行船ニ隻モ海ニ見エタガコレハ陸ニカ、ラズニ引返
 ス 合計百三十機 各個ノ編隊ハヨカッタガ集團トシテハ少シ長ガスギル感ガシタ
 スグ帰宅 例ニヨツテ頭重ク、少シ庭イジリヲシタラ幾分晴レタマシタ
 家内ハ清平ニ行キ四時頃帰ル 大蔵金持參 支拂ヲナシタル由

▲▼3552ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月3日(月)

天気 雨後曇リ

八時十分前工場迄 菊池午後ヨリ出勤
 晝迄七月分ノ決算ヲ行フ
 午後ヨリ上京 局ニ行キ横廠ノ検査七日ト決定 伊東左内ノコトヲ立野氏ニ相談 荒
 井サンガ居ナイノデ明日ノコトトス。日日ニ行ク 吉田氏休ミ 自宅ニ行キ自動車ノコ
 ト相談 四百五十円位ニツク旨答エル。高イラシカッタ。帰リニ佐藤デ買物シテ帰宅
 夕食後床ニ入ル 九時過ぎ

▲▼3553ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月4日(火)

天気 晴

八時十分前工場着 海軍大観艦式デ九時半飛行機ハ東京ヘ向ツテ行ツタガ間モナク大部分雲ノ爲メ引カエシテ晴レ間ヲヌケテ横浜ニ向ツテ行ツタ。帰リニ、一三式水上ノ一機工場前ニ着水 ガソリン補給シテ帰ツタ。風強ク非常ニコマツタ様デアッタ

十二時半ヨリ上京 局ニ森川氏ニ會ヒ根岸ノ見積リ書ヲ提出 参考ニ根岸ノ手紙ヲ見セル

日日ニ行ク 福知氏ヨリ昨日ノ返事元價三二十円位口銭ツケテ其マ、買ヒタイトノコトデアッタ 馬鹿々々シカッタガ聞イタ上返事スルコトトス。四ミリケーブル百米三菱カラ來タノヲ受取り清平ニヨリ帰宅。

佐野ガ待ツテ居タガトテモアス出來ソウニモナイガ尚努力スルコトトシテ帰ヘス。千葉裁判所ヨリ千早商会イヨ、破産ヲ申請シテ來テ十二日ニ口頭辨論ノ通知デアッタ イカニ斯克モ苦シメラレルコトカ

▲▼3554ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月5日(水)

天気 晴

時事 榎部岩田、水代氏ノ電通社葬

朝工場作業打合せヲナシ、宅ニテ朝食後上京 局ヘ電話ニテ大毎発検査ノコトヲ依頼シスグ青山ニ行キ終ッテ帰途川上氏ニ會フ 事ム所ガラントシト同会社ノ内容ヲ思ワシム 長田氏モ居合ワス。マダ京都ニ行カナカッタ由 函根ノ請求書ニ判ヲ貰ヒ、日日ニテ佐野ニ會ヒ函根ハ金取りニヤツタガ十五日ニシテ呉レトノコトデアッタ。前田電話ノ結果明日日日迄持参スルトノコトニ、ソレデ明日渡スコトニシテ帰ヘス。松岡氏訪問 相談ノ結果阿比留氏ノ意見デ田中ヲヨブコトニス。同階下ノ食堂ニテ御原氏ニ會ヒ、例ノ件役所ノ意見ニヨリ時機ヲ待ツコトニナル

鳥飼ニヨリ裁判所ノコトヲ報告シ田中ニ明日帰ル様打電シテ帰宅 橋本ガ來テ居タ。ヤハリ国ヘ帰ツタ方ガヨイト思フトノコトデアッタ

▲▼3555ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月6日(木)

天気 晴

午前中工場 晝食自宅 十二時病院ニツク 今日ハ熱ガ下ツテ居タノデ、ヤ、安心 主任醫ニ會フ 此マ、ヨケレバアトニ三日デ退院出來ル由 小林氏電話デ田中先生來テ居ルトノコトニ行ツテ見ル。清平ハ禮ヲ述べ付ケ人タチニモ挨拶シ發動機部ヲ一通見セ

テ貫ヒ井原ニモ會フ 三時半日行ク 前田明日工場へ金持ッテ行ク由。三十円仮出シスル様今朝話シテ居イタガ出來ズ。佐藤ニヨリ千早ノ件報告ス 氏モヤハリ先方ノ辨ゴ士ノ、エンコ關係ヲシラベテ示談ニスル外ナイトノコトデアッタ

◆▼356ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月7日(金)

天気 晴

朝散髪ヲシテ九時半工場出 森川坂本氏來場 横廠大蔵試飛行完了 アト発分解検査ヲ行フテ終リ 田中帰ル 千早ノ件ニツキ協議 今夜阿比留氏迄ヤル。夜中三時頃終電デ高砂カラ歩イタトテ帰ッテ來タ 示談ニスルニ千円入ルトノコト 少シ多イト思ツタガ止ムヲ得ナイ 今日大蔵ニモ話シタノデ十年式ヲ大毎ニ買ッテ貫フコト、ソレヲ低(ママ)當ニ井上長一ヨリ千円融通サセルコトニ決心ス

十二日ハ醫師ノ診断書デ兎ニ角延期スルコト、之レガ又一寸問題ダ
稲垣ヨリ麻布ノ千坂トカ云フ辨ゴ士ヲ以テ請求ヲヨシタ 十一日ヲ期日トシテ之レモ大蔵ニ見セテ居ク。大蔵ノ話シデハ困ッテ居ルノダロウトノコト 困ルナラ困ル様ニ話シテ來レバヨイノニ、イタヅラニ權利ヲ振り廻スノデシヤクニ、サワル人タチデアル

◆▼357ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月8日(土)

天気 晴

田中クタビレテ居ルノデ自分工場ニ行き井上ニイツ上京カ問合セヲ打電シ都合デ今夜大坂へ行ク予定ニシテ帰宅 ソコへ鈴木菊雄ガ京都ノ明日飛行ニツイテ來テ呉レト使ヲヨシタノデ田中ハイソガシイノデ津田沼ノ停留所迄鈴木ニ來ル様云ヒツケニ行ク 自分モ万一ヲ思ッテ同道ス 鈴木來テ居ナイノデ田中ヲ上京サセ自分會フ 京都行キヲイヤガルノデ、荒木ヲヤルコトニキメテ上京 日日ニ行ク 前田三十六円余持參 佐野三十四円渡シタトノコト 尚福地氏明夜大坂発トノコトニ佐野へノ殘金間ニ合ワザルハモトヨリ電燈会社其他モ困ルコトニナル。大毎ニハ実ニイヤニナル

鳥飼ニテ田中ニ會ヒスグ七時二十五分デ出發サセルコトニキメ荒木ト東京駅デ會ヒ二人ノ出發ヲ見テ帰宅ス

◆▼358ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月9日(日)

天気 曇リ

九時起床 寒イ日デアッタ。カユデ暖ッテ松上君へ行ツタガマタ寢テ居タノデ午後行ク。ソシテ醫師ノ事ヲ話シタラ懇意ナノガアルカラ夜同行シヨウトノコト ソレカラ飛行界ノ事ヲ話シテ居ル内自分ナガラ航空界ニ対スル方針ノ明確ナニオドロク様ナ説ヲハイタ。

ヤハリ人トハ話シ會ツタリ議論ハシテ見ルモノダ。信太郎ガ迎ヘニ來タノデ帰ル 猿田カラ十一日ノ入札ニツイテ聞合セニ來テ居タ スグ帰ル 三時過ギ橋本善津田沼ヨリ帰リ京城(ママ)カラ來テ停電シテ行ツタトノコト スグ橋本ヲ津田沼ノ出張所ヘヤリ自分ハ一個月分ダケ金ヲ作ルベク上京 佐藤ヘ行ク 不在。鳥飼氏モ不在 秋田氏(ママ)不在 一寸困ツタガ佐藤氏ハオソクナル人デナイカラ、自宅ヘ行 丁度帰ツタ處デアッタ。話シテ、函根ノ十五日受取ル分ノ領收書ヲ渡シ三十五円帰ヘテ帰ル。橋本出張所デハダメトノコトニ京城(ママ)ノ電気課長營業課長ト交渉サセテ點燈スル様ニ取ハカラヒ、ソレデモ不安ナノデ橋本ヲ津田沼ヘヤル

夜佐野利一君來 昨日出シタ手紙ガツイテ居ナイトノコトデアッタ

◆◆3696ページ◆◆ 昭和3(1928)年12月10日(月)

天気 晴

定刻前工場行き 関口本日ヨリ出勤。足立モ來テ居タ 米ノコトヲ金太郎ニ聞イテ指図ヲナシ帰宅 晝食後朝食ヲ共ニ十一時半ニテ金町発 荒川沖ノリ過ギテ土浦下車 航空隊入口ニテ荒川ニ降リタ井上ト會フ 局ノ井上氏モ來テ居タ 拂下品ヲ見テ自分ハ一足先キニ金星自動車ニ行キ片岡ト打合セハックス自動車ノ見積書ヲ取り千〇式十円三台ニテ対シ式百円ヲ口銭トシ外二十五円八片岡ト自分トノ間ノカンショートシテ決定 立川ヘ送ル時三二十五円運送費取ルコト 五時十五分ニテ井上ト同車々中千早ノ件ヲ話シ一週間以内ニ東京デ出來ナイ時ハ大坂デ作ルコトノ承認ヲ得テ安心ス。市川眞間ニ下車シタ時松上君ト會ヒ共ニ古川醫師ヲ尋ネ診斷書ヲ貰ツテ帰ル 今日終日予定通り非常ニ好成績デアッタ。帰宅シタラ大川ノ息子が來テ居タニハウンザリシタ

◆◆3600ページ◆◆ 昭和3(1928)年12月11日(火)

天気 晴

定刻工場出 三葉試運轉ヲヤルベク引出ス 安岡駒好來 六七年振りデ會フ 内地デ社機ガ出來レバ支那ヘモウ帰ラヌ由 洪ハマダ生キテ居ルトノコト 謝ハ南京航空署ニ入り上海ニ居ルトノコトデアッタ。田中ヨリ百円來

晝帰宅 京城(ママ)アト五十円今日三時半迄ニ最(ママ)非共持參ノコト 然ラザレバ電燈ヲ消ストノコト 寒ニナサケナク、シヤクニサワツタガ如何共仕方ナク辨ゴ土ノ百円ヲ五十円ニケヅリ橋本ニ持タセテヤル 午後上京 日日ニ福知吉田氏ニ會フ ハックスノコトヲ話シ大蔵ヲ松岡事務所ニヤリ帰ル途中稲垣ノ件ヲ思ヒ出シ今日ガ期日デアッタノデマタ訴訟ニナルト、ウルサイカラ、ソシナコトニナラナイ様ニト田中ヘ打電ス。清平ヘ家内行ク。大坂ノ兄來リタル由

◆▼361ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月12日(水)

天気 晴

工場二出ル 大蔵ノ清算決(ママ)果四百五十円入 大蔵へ百五十円 工場へ三百円取ル
コトニ 内諸拂ヲ引イテ結局百六十円ヨリ手ニ入ラズ。佐野商店へ百円 工場へ二十円
橋本三三十円渡ス 橋本式百円都合シテ呉レトノコトデアッタガ最大限百円ニスルコト
ニ話ス 今日清平退院スルニ付橋本津田沼へ泊リニヤル

上京 電話ニテ井上喜代司氏ニハンザーノ件話シ川上氏へ二十日頃三百円準備スル様
電話シテ居ク

一時少年職業紹介所へ行き六名會フ内四名採用スルコトニスル 内一名ハ來春カラア
トハスグ來ルモノ式名二十三日來ルモノ一名。帰宅 夜古川病院へ五円ト果物ヲ持ツテ
禮ニヤリ明日清平ノ往診ヲ依頼ス

佐野來 今日ツヒニ大蔵ニ會ワナカタトノコト 宅へヤル

◆▼362ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月13日(木)

天気 曇リ

時事 東京市ノ大典奉祝日 天皇后上野ニ行啓幸

工場出 菊池保険署へ使ニヤル 手紙ヲ見ルトイヨ、強制處分ヲスルラシイノデ明日
主人帰場スルカラソレ迄ト云フ事ニシテヤル

上京 大毎福知吉田氏ヨリ大蔵ノ金工場へ使用シナイ様トノエンキヨクナ注意ガアツタ
ガソレニツキヨク話シテ大蔵ノ十年式ナルモノニツイテノ説明ヲモナス 結果三百円仮
出ヲナシヨリ福知氏帰坂後半額ダケノ仮出シヲナスコトノ諒解ヲ得 朝日ニ久シ振りニ
行キハツクスノ件聞イテ見タガ入ラナイトノコト 大毎ニ一台ダケニスルトノコトニガツカ
リ

日比谷ノ盆栽大會ヲ見 新ラシイ花電車ヲ見テ帰ル 兄丁度帰ツテ居タノデ夕食ヲ
共ニス 千早ノ件家内ガ清平ニ話シタトテ兄ハ知ツテ居タ 家内ヲシカル

◆▼363ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月14日(金)

天気 晴

三葉試飛行ノ予定ナリシモ昨日試運轉好シカラズ 今日モ多分駄目

大蔵工場出 菊池保俵署へ又ヤル 明日所長行クコト 一ヶ月分ダケ入レテ居ク

所員少シヅ、ヤル

羽太氏今日來ルトノコトニ菊池ト大蔵ニ招待役云ヒ付ケル

午後上京 □信社ニテ井上ニ會フ 日歩五銭 東京ニ在住銀行取引アル裏書ヲ要スト
ノコト 佐藤ヲ頼ムツモリニ行ツタガ丁度死人ノ御通夜ニ行ツタトノコトニ鳥飼ニ行キ依
頼 承諾ヲ得
阿比留辨ゴ士ニ五十円持参 成ルベク半額デ交渉シテ貰フ様頼ム

▲▼364ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月15日(土)

天気 雨

兄今夜帰坂スルコトニ決ス 今度ノ上京ハ■気が好クナカッタ。帰りノ汽車賃ガアルノカ
心配ニナツタガ聞クノモ変ナノデヨシタ。清平ガ小遣ヲ呉レ云ツタソウダガ無クテ居イ
テ行カナカッタソウダ
九時半宅ヲ出テ千葉ニ行キ保険署長ニ會ヒ今月アトニケ月分 來月ヨリ確實ニケ月
分ツゝ入レルコト 他ニ金ノ入り工合デ一ヶ月ノ時トニケ月分ノ時モ出來ルカモ知レヌコ
トヲコトワツテ諒解ヲ得
十一時半工場出 十月分ノ引合セヲナス。藤田ノ見込書ヲ作り四時半終ツテ帰りニ西
田ガ今日來ナカッタノデ寄ツテ見ル。蓄電池ノケースヲ千葉へ買ヒニ行ツタ由 千葉デ
自分ヲ見タソウダ

▲▼365ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月16日(日)

天気 晴

九時頃迄寢タ 家内ハ夜ル数回起キルノガカワイソウデアッタ
花台ノコワレタノヲ修理ス
午後二時頃根岸君來 明日七時四十分ニテ一緒ニ立ツコトヲ約ス 水産試験場デ操
縦士ヲ取替エル様ナ話シガアルノデ局ノ諒解ヲ得テ居キタイトノコトデ兒玉課長自宅
ヲ教エル

▲▼366ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月17日(月)

天気 晴

五時半起床 六時出 押上七時 円タクヲ止メ柳島迄行ツテ市電ニテ上野行き 東京
七時四十分ニ乗ル 根岸君同乗 十二時四十分江尻着 スグ水産試験場ニ行ク 場長
ニ會ヒ打合せニ時迄 結局十年式修理ノコトダケマトマリアトハ十三式借入又ハ拂下運
動ヲナスコトニナル。電車ニテ静岡ニ出四時五十五分発特急ニテ帰ル 十一時帰宅 信
太郎徳治ガ起キテ待ツテ居タ 静岡駅デ買ツタお茶マンデューヲ與ヘル

◆▼367ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月18日(火)

天気晴

定刻工場出 久シク定刻ニ出ナイセイカダレモ居ラズ 但シ二十分以内ニ全部出タ 昨日三葉數回滑走ノ後チ七分間飛行セシ由 少シ前重キモ安定良シ ガソリン多クモビールガスグ、ヤワラカニナツテシマウトノコト 尚油ノ位置モ低クスギルトノコトニ西田ト協議 タシクノ位置変更ヲ定メ七月分ノ決算ヲナシ、ハックス自動車ノ件相羽ト伊藤西夫氏ニ手紙出シ塗料ノ注文ヲシテ上京 鳥飼ニ裏書ヲ依頼ニ行ク。考へ直シテ二三日待ツテ呉レトノコトニシヤクニサワル。日日ニヨリ佐藤ニ行キタノンダガ之レ又裏書ハ絶対ニシナイトノコト 之ラハ予期シタコトデアッタガ不快デアッタ 再ビ鳥飼ニ行ク 明日津田沼ニ行クトノコトニ念ヲ押シテ帰宅。今日ノ銀行ノ北河ノ手形ヲ何ントカ間ニ合ス爲メ明日ハ最(ママ)非共裏書キサセバナラヌ
帰宅後鉢物ノ霜ヨケヲ作ル 今日清平モ大分元氣ガヨカッタ

◆▼368ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月19日(水)

天気晴

昨日アンリオ帰ル 田中上京サセル
鳥飼氏來 ヤハリ裏書キ不能 絶対ニアラソウタ方ヨシトノコト 同道シテ佐藤ニ行ク 同氏ハ示談説デアッタ 兎ニ角裏書シナイコトノ爲メノ(ママ)ノデ此話シヲ打キルコトトス 中川坂本氏來場 水上アブロ猿田風強ク飛行出來ズ 藤田アブロ工場甲ニ内部終了 甲ニローン不合格
福地氏今夜出發トノコトニ土産物ヲ持ツテ行ク 中借リノ件トハックノ件話ス
浅野ベニヤニテ田中ト會ヒ神田ニテ夕食ヲ共ニシ工場ノコトヲ話シ合フ

◆▼369ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月20日(木)

天気晴

八時三十分ニテ高野ヲ連れ霞ヶ浦ニ行ク。機体ヲ見タガゾツトシナカッタ 部品ダケ買フコトト發動機ハローレンヲ百円 イスパノケースナシデ六十円ニツケタガ内イスパノヲ昨日預ケタ金ガ丁度今日正午火災ヲ起シ多分焼タラシイ
金星ニヨル 片岡不在 ハックスノ件取引ノ分ノコトトス 手金呉レトノコトニオトハ片岡ト話シスルトトシテ帰ル
帰宅スルト大川ノ妻君來テ居テ閉口 千葉裁判所ヨリ明日九時出頭セヨトノコトニ大川ノ妻君ト同道上京 押上ヨリ阿比留氏ニ電話シオスル 田中來タトノコト 千円デ決定シタカラ明日ハ延期スルトノコト イヨ、金ヲ作ラネバナラヌノデ帰坂スルトトス

▲▼370ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月21日(金)

天気晴

午前工場出 午後帰宅 仕度ス 旅費工面ノ爲メモーニングト家内ノ着物アルダケ質ニヤッテ三十円出來ル 米代二十五円ヲ工場へ 十五円自分デ持ッテ六時ノ汽車ニテ帰坂ス 心細シ
井上へアス行ク旨打電シタノニ対シダメトノ返事デアッタガ押シテ行クコトニス

▲▼371ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月22日(土)

天気晴

六時大坂着 帰宅後温泉ニ行キ気持チヨクナツテ堺ニ行ク 十一時頃迄交渉シタガツヒニ不調 バイキングノ金百円受取ル スグ堺ヨリ三十円工場へ米代トシテ送ル
午後大毎ニ福知氏ヲ訪問 試飛行スミ次第堪航証ナクテモ金貰エルコト 発動機ヲ急イデ貰フコトヲ約シテ帰宅 兄ニ相談シタガ思ワシカラズ、小西へ行ッテ見ルコトニス

▲▼372ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月23日(日)

天気曇リ

十時頃小西宅訪問 父母妻君ガ代リ代リ出テ大切ニ馳走ヲシテ呉レタ 事情ヲ聞イタ上ハンサーノ件持チ出ス 式台デ三千円 最(ママ)非買フトノコトニ金ノ話シニ入り至急算段シテ貰フコトニナリヤ、気持モカルク帰宅ス

▲▼373ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月24日(月)

天気晴

十時イナリ駅ノ約束ニテマツ 約一時間 金出來ズトノコトニ契約書ヲ作ルコトニシ川口氏宅ニ行ク 契約書ヲ書ク 赤尾楼ニテ晝食 柳原ニ電話シタガマダ不在 川口氏ヲヨビ金ノ想(ママ)談 何ントカスルトノコトニ明夜出發ノ時駅デ貰フコトニシテ分レル
宅ノ方へ十円モ送ッテヤロウト思ツタガ時間ノ都合悪ルクツヒニ送レナカッタ 夜帰ツタラ山本ガ清平ノ處へ五十円持ッテ行ツタトノコトニ先ヅヨカッタト思フ

▲▼374ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月25日(火)

天気晴

兄二百四借入交渉シ正午亀井平松ヲ電話デヨビカキ料理ニ行キ川西ノ状況ヲキ、同道シテ大毎ニ行キ福知氏ニ請求書ヲ提出シ帰宅シテ仕度シ京都ニ行ク 八時半小西來 今日モツヒニ出來ズ明日トノコトニ泊ルコトニ決シ三條附近ニ宿ヲ取ル

▲▼375ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月26日(水)

天気 晴

八時起床 朝食後御所拝觀ニ行ク紫寢(ママ)殿ノ庭ガ割合ニセマカッタコト 悠基(ママ)主基殿ノ神々シカッタコト 大キヨウ宴場ノ立派デアアルガドユカ一時的建物トシテウスヘラナ感じガシタコトトモデニ時間ニ渡ツテ拝シテ出タ處デ大禮活動写真ヲ見正午宿ニ帰ル 小西カラ先刻電話ガカ、タトノコト 余リ早イノデ少々不安 一時頃又電話アリニ時過ギ金ガ出來ルトノコトニヤ、安心 三時半頃川口氏ト同道來 千円出來タトノコトニホト安心 内三百円貸シ八百円受取リスグ三條ヨリ帰宅 兄ヨリ五百円ヲ借り三十円返スコトニシテ夜九時ニテ出發

▲▼376ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月27日(木)

天気 晴

九時十五分東京着 スグ佐藤ニ行ク 十時半迄待ツタガ田中來ラズ 局へ行キ井上氏ニ拂下代金ノ拂込ミヲナス。田中來 鈴木ノ補助金今日間ニ合フ 貰フ 橋本國來 夕食ヲ共ニシナガラ聞ク 結局上倉デ千円借ルコトニシタカラ明日吉田氏ニ大毎機ノ金ヲ上倉へ渡スコトノ証明書ヲ貰ツテ來テ呉レトノ事デアッタ。九時帰宅 寢レズ 二時ノ時計ヲ聞イテ眠ル

▲▼377ページ▲▼ 昭和3(1928)年12月28日(金)

天気 晴

定刻工場出 皆オソク八時ヤ、ソロヒ、タキビヲナス 八時半ニイタルモ作業ノ模様ナク、今村ヲヨビ自分トシテハ初メテキック云ヒツケル 今日女小児ノ支拂ヲ済マセルベク調査ヲナシ十一時半ニナル 上京 日日ニヨリ福知氏へ見積書ト請求書ヲ原稿便デ依頼ス。吉田氏ヲ自宅訪問 寢テ居タ。昨日ノ橋本ノ話しニヨリ作ッタ証明書ニ記名捺印ヲ乞ヒスグ国分寺ヨリ所沢ニ行ツタラ丁度六時 スグ、上倉ニ橋本ト同道ス。ヤット五百円ダケ貸ストノコトニ一時引上げ明日ノコトニス。浦山ヲ呼び交渉仕合テ明日五百円 卅一日残高ヲ支拂フコトトシテ一同帰ル。帰宅十二時

清平午後七時二十分東京發ニテ帰坂ス

田中、千早ト岡田ノ裏書(井上照介ノ千円借入口ノ手形ノ裏書ヲ依頼ノコト)ニ上京

◆▼378ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月29日(土)

天気 曇リ

田中千早ノ件上京 午後上京 橋本ト佐藤デ会フ 東日ハ明日カ明後日トノコトデス
グ佐藤ニ行ク 上倉六 ■ 円借りタ由 八時頃田中來 千早 八百円千円ニテ解決 内
八百円現金 後貳百円ニ対シ發動機一台渡スコトニス 先ヅ成功

一昨日ノ山猪ヲ喰ヒニ行ク 來年度橋本ヲ本工場へ引帰シ田中ヲツケ自分外ニ出テ所
沢ヲカントクスルコトニホゞ決定 田中橋本ニ本工場マカセルコトトス 尚具体的ニ近ク
決定スルコト 十二時帰宅
今日十年式ハツヒニ発廻ラズ

◆▼379ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月30日(日)

天気 晴

十年式今日モカーブレター取替エテヤツテ居タ 本日ハ早朝大蔵ヲヤリ連絡ヲ取ラセル
午後自分行ク

ツヒニ明日ノコトニナル 田中山票へ裏書ノコトデ行ツタガ不在トノコト 所沢金融出來
ズトノ報アリ 明日正午東日へ橋本ト來ル様打電ス
兄へ貳百円借りタイ旨打電ス

◆▼380ページ◆▼ 昭和3(1928)年12月31日(月)

天気 晴

丁度時間ヲハカッテ十二時東日ニ行ク スデニ大蔵ガ現金ヲ受取ツテ居タ 應接デ金ノ
分配ヲ定メル 大川ノ妻君來 二十円デスマツモリノ處例ノ泣キ落シデ三十円トラレ
ル アトノコトデ、アマリヒツコイノデ、少シキツクコトワル。氣ノ毒デハアルガコチラモド
ウニモナラナイノダカラ仕方ガナイ 橋本國來 貳百円ト外ニ歳暮代五十円渡シ田中
來ラズ。佐藤ニヨリ神田局ヨリ大坂へ三百円送金。スガ帰宅 小供ノ買物ヲシテ帰宅
金が足りナクナッタノデ家賃ヲ二ヶ月分ト米屋三十日分ヲ内入 外ハ皆支拂ヒ八百屋
ハ今日分ダケ

◆▼381ページ◆▼ 補遺

省ミルニ本年ハ「思事カナワズ」ト云フ年デアッタ 訂証事件モヨクナカッタ 來年度ハ心
ヲベテ大ニヤリ直スコト

▲▼404ページ▲▼ 手控

姓名 伊藤音次郎

住所 千葉県東葛飾郡八幡町菅野一六四番地

時計番号 29732. 936523.

身長 13ノ400印

帽子寸法 6 3/4"

カラー寸法 14 1/2"

家族誕生日

名前	誕生日	摘要
吉子	三十年三月十日	酉 三十二才
信太郎	大正五年十二月九	夜〇時三十分 辰 十三才
徳次	九年八月四日	午前六時 申 九才
恵美子	十一年十月二十一日	午前五時半 戌 七才
仁三郎	十三年八月二十五日	午後二時三十分 子 五才
満	十五年十一月十九日	午後八時四十分 寅 三才

▲▼405ページ▲▼ 収入録

月日	摘要	
2年3月	鳥飼	150
	掛金ノ差残(タイプライター差引)	返 750
	20工場5月分	返 25
2年12月	協会模型ノ口銭返シ	返 30
	差引借	152.50

▲▼406ページ▲▼ 収入録

月日	摘要	金額
2年7/30	橋本善喜	500

▲▼407ページ▲▼ 収入録

月日	摘要	金額
大連行ノ時	伊藤キン	150

405～407 ページ

収入録

月日	摘要	金額
2年3月	鳥飼	150-
	掛金ノ差残(タイプライター差引)返	7.50
	20工場 5自分 返	25-
2年12月	協会模型ノ口銭返シ	30-
	差引借	152.50
406 ページ		
2年7/30	橋本善喜	500-
407 ページ		
大連行ノ時	伊藤キン	150-